

つ の え は ち し ょ う ま ち い せ き
津 江 八 升 町 遺 跡
(1 ・ 2 ・ 3 次 調 査)

福岡県八女市大字津江字八升町所在遺跡の調査報告

八女市文化財調査報告書 第67集

2 0 0 2

八女市教育委員会

序

昭和60年廃止になりました旧国鉄矢部線は、筑後市の羽犬塚駅から黒木町の黒木駅を結ぶ鉄道として地域の住民に親しまれていました。廃止後は県道や市道として改良が行われており、このため車の利用は増大し、沿線周辺では開発が進んでいます。今回、八女市大字津江地区での県道湯辺田線の旧矢部線道路拡張工事が行われる事になり、工事に先立ち発掘調査を実施したものです。

発掘調査にあたりまして、地元町内会、福岡県八女土木事務所、福岡県教育委員会始め関係各位には、終始文化財保護のため御協力いただきました。心から感謝申し上げます。

平成14年3月29日

八女市教育委員会

教育長 樋口 欽一

例 言

1. 本書は福岡県教育委員会、八女市教育委員会が福岡県土木部八女土木事務所の委託を受けて実施した福岡県八女市大字津江字八升町所在、津江八升町遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は1次調査、3次調査を福岡県教育委員会が2次調査1. 2地点を八女市教育委員会が実施した。
3. 遺構の実測は参加者で行い、現場写真は小田、赤崎、山田、山本が撮影した。
4. 出土した遺物の整理は福岡県土木部八女土木事務所の委託を受けて八女市教育委員会が実施した。
5. 本書の執筆は小田、赤崎が、編集は赤崎が行い執筆分担は文末に記した。



本文目次

I	はじめに	7
1	調査に至る経過	7
2	調査組織	8
II	遺跡の位置と歴史的環境	9
III	調査の内容	13
1	第1次調査	13
(1)	調査の概要	13
(2)	遺構と遺物	13
a)	竪穴住居	13
b)	掘立柱建物	16
c)	土坑	17
d)	集石	18
e)	大溝	18
f)	小溝	21
g)	石棺墓	21
h)	井戸	22
i)	その他の遺物	22
(3)	小結	22
2	第2次調査(1地点)	38
(1)	調査の概要	38
(2)	遺構と遺物	38
a)	竪穴住居	38
b)	掘立柱建物	42
c)	土坑	42
d)	SX01	49
e)	溝	49
3	第2次調査(2地点)	51
(1)	調査の概要	51
(2)	遺構と遺物	51
a)	竪穴住居	51
b)	土坑	51
c)	溝	57
d)	柱穴	57
(3)	小結	57
4	第3次調査	83
(1)	調査の概要	83
(2)	遺構と遺物	83
a)	竪穴住居	83
b)	土坑	83
c)	大溝	84
d)	小溝	84
(3)	小結	84

挿 図 目 次

第 1 図	津江八升町遺跡と周辺遺跡分布図(1/25,000)	1 0
第 2 図	津江八升町遺跡 1 次調査・2 次調査 1 地点・2 地点・3 次調査位置図(1/2,500)	1 1
第 3 図	津江八升町遺跡遺跡周辺地形図(1/1,500)	1 2
〈第 1 次調査〉		
第 4 図	津江八升町遺跡 1 次調査遺構配置図(1/150)	1 4
第 5 図	1～3・5 号竪穴住居実測図(1/60)	1 5
第 6 図	1～2 号掘立柱建物実測図(1/60)	1 6
第 7 図	1・3～7 号土坑実測図(1/60)	1 9
第 8 図	1 号集石実測図(1/30)	1 9
第 9 図	1～4 号大溝、3 号小溝土層図(1/30)	2 0
第 10 図	1 号石棺実測図(1/30)	2 2
第 11 図	1 号井戸実測図(1/60)	2 3
第 12 図	1・3～5 号住居出土土器実測図(1/4)	2 4
第 13 図	建物・土坑・小溝・井戸・石棺出土土器実測図(1/4)	2 4
第 14 図	1 号大溝出土土器実測図①(1/4)	2 5
第 15 図	1 号大溝出土土器実測図②(1/4)	2 6
第 16 図	1 号大溝出土土器実測図③(1/4)	2 7
第 17 図	1 号大溝出土土器実測図④(1/4)	2 8
第 18 図	1 号大溝出土土器実測図⑤(1/4)	2 9
第 19 図	2・3 号大溝出土土器実測図(1/4)	3 0
第 20 図	4 号大溝出土土器実測図①(1/4)	3 1
第 21 図	4 号大溝出土土器実測図②(1/4)	3 2
第 22 図	4 号大溝出土土器実測図③(1/4)	3 3
第 23 図	4 号大溝出土土器実測図④(1/4)	3 4
第 24 図	4 号大溝出土土器実測図⑤(1/4)	3 5
第 25 図	4 号大溝出土土器実測図⑥(1/4)	3 6
第 26 図	試堀調査出土土器実測図(1/4)	3 7
〈第 2 次調査 (1 地点)〉		
第 27 図	津江八升町遺跡 2 次調査 1 地点遺構配置図(1/300)	3 8
第 28 図	2 号、3 号、4 号、7 号竪穴住居 (SB02、03、04、07) 実測図(1/60)	4 0
第 29 図	15 号竪穴住居 (SB15) 実測図(1/60)	4 1
第 30 図	1 号、14 号掘立柱住居 (SB01、14) 実測図(1/60)	4 1
第 31 図	6 号、8 号土壇 (SK06、08) 実測図(1/60)	4 3
第 32 図	2 号溝 (SD02) 土層実測図(1/60)	4 3
第 33 図	北壁、南壁土層実測図(1/80)	4 3
第 34 図	3 号、6 号、7 号竪穴住居 (SB03、06、07) 出土土器実測図(1/4)	4 4
第 35 図	8 号、10 号、11 号、13 号、15 号竪穴住居 (SB08、10、11、13、15) 出土土器実測図(1/4)	4 5
第 36 図	3 号、4 号、5 号、8 号、土壇 (SK03、04、05、08) 不明遺構 (SX01) レキ部分出土土器実測図(1/4)	4 6
第 37 図	1 号溝 (SD01) 出土土器実測図(1/4)	4 7
第 38 図	1 号溝 (SD01) 出土土器実測図(1/4)	4 8

第39図	1号、2号溝(SD01、02)出土土器実測図(1/4)	4 9
第40図	7号、8号竪穴住居(SB07、08) 1号溝(SD01)出土製品実測図(1/3)	5 0
第41図	3号竪穴住居(SB03) 1号溝(SD01)出土石製品実測図(1/3)	5 0

〈第2次調査(2地点)〉

第42図	津江八升町遺跡2次調査2地点遺構配置図(1/400)	5 2
第43図	南壁土層図(1/80)	5 3
第44図	北壁土層図(1/80)	5 4
第45図	1号、2号、3号、4号竪穴住居(SB01、02、03、04) 実測図(1/60)	5 6
第46図	1号、2号、3号、4号、5号土壌(SK01、02、03、04、05)土層図、実測図(1/60)	5 7
第47図	20号、21号、22号、23号、24号土壌(SK20、21、22、23、24)土層図、実測図(1/60)	5 8
第48図	1号、2号、3号、5号不明遺構 (SX01、02、03、05)土層図・実測図(1/60)	5 8
第49図	1号竪穴住居(SB01)出土土器実測図(1/4)	5 9
第50図	3号、4号竪穴住居(SB03、04)出土土器実測図(1/4)	6 0
第51図	4号竪穴住居(SB04)出土土器実測図(1/4)	6 1
第52図	1、2、3区整地層(上層)出土土器実測図(1/4)	6 2
第53図	5、7、9、10区整地層(上層)出土土器実測図(1/4)	6 3
第54図	11、12、13、14、15、17、18区整地層(上層)出土土器実測図(1/4)	6 4
第55図	1、2区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	6 5
第56図	3、4、5区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	6 6
第57図	5、6区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	6 7
第58図	7、8、9区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	6 8
第59図	10、12、13、15、17、18、19、20区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	6 9
第60図	21、22、23区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	7 0
第61図	23、24区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	7 1
第62図	24区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	7 2
第63図	24区整地層(下層)出土土器実測図(1/4)	7 3
第64図	整地層(上層)2号土壌(SK02)1号不明遺構(SX01)1号溝(SD01)pit出土土器実測図(1/4)	7 4
第65図	整地層(下層)(SK21、22、23、24)23区土器群出土土器実測図(1/4)	7 5
第66図	整地層(下層)3、4区土器群出土土器実測図(1/4)	7 6
第67図	整地層(下層)4、7、8区土器群出土土器実測図(1/4)	7 7
第68図	24、2、3、4、6、9、21区出土土製品実測図(1/3)	7 7
第69図	6区整地層(上層)9区整地層(下層)出土石器実測図(1/3)	7 7
第70図	3号竪穴住居(SB03)、1号溝(SD01)出土石製品実測図(1/3)	7 8
第71図	整地層(上層)出土石製品実測図(1/4)	7 9
第72図	不明遺構(SX01、07)出土石製品実測図(1/4)	8 0
第73図	不明遺構(SX07)出土石製品実測図(1/4)	8 1
第74図	24区不明遺構(SX07)出土石製品実測図(1/4)	8 2

〈第3次調査〉

第75図	津江八升町遺跡3次調査遺構配置図(1/150)	8 4
第76図	1～4号竪穴住居実測図(1/60)	8 5
第77図	第3次調査区西壁土層図(1/60)	8 6
第78図	5号竪穴住居、1・3号土坑実測図(1/60)	8 6
第79図	2・4号土坑実測図(1/40)	8 6

図 版 目 次

〈第1次調査〉

図 版 1	津江八升町遺跡1次調査区全景（気球写真、西上空から）	89
図 版 2	(1) 1次調査区全景（西から）	90
	(2) 1号住居、1・2号堀立柱建物（南から）	90
図 版 3	(1) 2号住居（北から）	91
	(2) 3号住居（北から）	91
	(3) 5号住居（北から）	91
図 版 4	(1) 1号土抗（南から）	92
	(2) 4号土抗（南東から）	92
	(3) 5号土抗（南東から）	92
図 版 5	(1) 6号土抗（北から）	93
	(2) 7号土抗（北から）	93
図 版 6	(1) 1号集石（東から）	94
	(2) 1号石棺墓（南西から）	94
図 版 7	(1) 1号大溝Ⅰ区土層（西から）	95
	(2) 1号大溝Ⅲ区土層（東から）	95
図 版 8	(1) 2号大溝土層（南から）	96
	(2) 3号大溝土層（南から）	96
	(3) 4号大溝土層（南から）	96
図 版 9	(1) 4号大溝（南から）	97
	(2) 4号大溝遺物出土状況（西から）	97
	(3) 3号小溝土層（南から）	97
図 版 10	(1) 1号井戸（南から）	98
	(2) 石積状況（東から）	98

〈第2次調査〉

図 版 11	(1) 津江八升町遺跡2次調査1地点全景（西上空より）	99
	(2) 津江八升町遺跡2次調査1地点全景（東上空より）	99
図 版 12	(1) 津江八升町遺跡2次調査1地点調査前風景（東より）	100
	(2) 津江八升町遺跡2次調査1地点全景（東より）	100
図 版 13	(1) 2号住居（SB02）生活面（南より）	101
	(2) 3号住居（SB03）生活面（北より）	101
図 版 14	(1) 3号住居（SB03）石包丁出土状況	102
	(2) 4号住居（SB04）（南より）	102
図 版 15	(1) 7号住居（SB07）完掘（北より）	103
	(2) 8号・9号・10号・11号・12号住居（SB08・09・10・11・12） 1号溝（SD01）（西より）	103
図 版 16	(1) 13号住居（SB13）（西より）	104
	(2) 14号掘立柱建物（SB14）（北より）	104
図 版 17	(1) 1号溝（SD01）（東より）	105
	(2) 1号溝（SD01）出土鉄（NO.7）刀子	105
図 版 18	(1) 津江八升町遺跡2次調査2地点全景（西上空より）	106
	(2) 津江八升町遺跡2次調査2地点全景（東上空より）	106

図 版 19	(1) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 調査前風景 (東より)	1 0 7
	(2) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 遺構検出状況 (東より)	1 0 7
図 版 20	(1) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 上層遺構検出状況 (東より)	1 0 8
	(2) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 全景 (西より)	1 0 8
図 版 21	(1) 1 号住居 (SB01) (東より)	1 0 9
	(2) 2 号住居 (SB02) (東より)	1 0 9
図 版 22	(1) 3 号住居 (SB03) (南より)	1 1 0
	(2) 1 号土壙 (SK01) (北より)	1 1 0
図 版 23	(1) 2 号土壙 (SK02) (北より)	1 1 1
	(2) 整地層上層	1 1 1
図 版 24	(1) 3 号・4 号土壙 (SK03、SK04) 不明遺構 (SX01・SX02) (東より)	1 1 2
	(2) 5 号土壙 (SK05) (北より)	1 1 2
図 版 25	(1) 不明遺構 (SX01) (西より)	1 1 3
	(2) 不明遺構 (SX05) (北より)	1 1 3
図 版 26	(1) 整地層下層 17 区～25 区 (東より)	1 1 4
	(2) 整地層下層 17 区～25 区 (西より)	1 1 4
図 版 27	(1) 整地層下層 1 区～10 区 (西より)	1 1 5
	(2) 整地層下層 1 区～10 区 (東より)	1 1 5
図 版 28	(1) 4 号住居 (SB04) と下層土器群 (東より)	1 1 6
	(2) 1 号溝 (SD01) (西より)	1 1 6
図 版 29	(1) 1 号溝 (SD01) (西より)	1 1 7
	(2) 16 区南壁土層	1 1 7
図 版 30	(1) 20 号土壙 (SK20) (南より)	1 1 8
	(2) 21 号土壙 (SK21) (西より)	1 1 8
図 版 31	(1) 22 号土壙 (SK22) (北より)	1 1 9
	(2) 23 号土壙 (SK23) (北より)	1 1 9
図 版 32	(1) 24 号土壙 (SK24) (北より)	1 2 0
	(2) 下層土器群 No 3、4、5、6、(東より)	1 2 0
図 版 33	(1) 北側土層	1 2 1
	(2) 南側土層	1 2 1
〈第 3 次調査〉		
図 版 34	(1) 津江八升町遺跡 3 次調査全景 (西から)	1 2 2
	(2) 津江八升町遺跡 3 次調査全景 (東から)	1 2 2
図 版 35	(1) 1・2 号住居 (北東から)	1 2 3
	(2) 3 号住居 (北から)	1 2 3
図 版 36	(1) 4 号住居、1・2 号溝 (北から)	1 2 4
	(2) 5 号住居、3 号土坑 (北から)	1 2 4
図 版 37	(1) 1 号土坑 (北から)	1 2 5
	(2) 2 号土坑 (北から)	1 2 5
	(3) 4 号土坑 (南東から)	1 2 5

I はじめに

1 調査に至る経過

一般県道湯辺田八女線は、一般国道3号の八女市北馬場と一般国道442号の黒木町湯辺田とを結び国道442号のバイパス的役割を担うが、道路そのものは矢部川の自然堤防上を走るため幅員が狭く、交通量の割にはその役割を十分に果たしていなかった。こうした道路事情を解消するため旧国鉄矢部線の線路跡地を拡幅し、道路として新設する事業計画が福岡県八女土木事務所より出された。

八女土木事務所から湯辺田八女線の道路改良事業として、平成9年度は工事用杭No34～38間の長さ80m分が施工予定なので、工事着手前に文化財が存在するか試掘調査を行って欲しい旨の連絡が南筑後教育事務所にあった。これを受けて、現地の状況を把握するため平成9年5月21日に現地に赴いた。現地を踏査すると、工事予定箇所西端の施工終了箇所には、弥生土器片・須恵器片が散在していた。また、当該地の東辺部には周知の遺跡である津ノ江遺跡（福岡県遺跡等分布図No110324）が存在することから、施工予定箇所にも遺跡が存在することが十分予測された。

試掘調査は、平成9年10月28日に重機を用いて実施した。調査の結果、溝・土坑かと思われる遺構が検出され、弥生土器が出土した。よって、文化財が存在する旨を八女土木事務所の施工担当者に伝え、後日、本調査の開始時期・予算等について八女土木事務所と協議を行った。

平成9年度の本調査（第1次調査）は、現道北側拡幅部分の約450m²を発掘対象地とし、西半部をA区、東半部をB区とした。11月21日からバックフォアで表土除去を開始し、11月26日から作業員を投入し発掘作業に取りかかった。調査面積は狭小であったが、遺構密度は極めて高く、弥生後期の竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝・石棺墓及び中世の石組み井戸などを検出した。1号大溝は予想以上に深く、掘削に手間取った。また、調査の終盤になって石組み井戸を検出したため、調査は年度を跨がすこととなり、機材を撤収したのは新年が明けた9日であった。

平成10年度における津江八升町遺跡の本調査（第2次調査）は、試掘調査により遺構が確認された工事用杭No28+10～32+10間の長さ80m、面積500m²を調査対象地とした。八女土木事務所の意向としては、工事の工程上すぐにでも取りかかって欲しいとのことであったが、南筑後教育事務所文化財担当の小田は、県道八女香春線改良工事に伴う長野古墳群の発掘調査を実施中であり、長野古墳群の調査終了後でないと現場に入れない旨を八女土木事務所に伝えた。後日、八女市教育委員会・八女市建設課を交えて四者で協議を行ったところ、今回の施工箇所に関しては地元から道路新設を望む強い声が上がっており、八女市教育委員会に本調査を依頼するという事になった。今回の調査でも第1次調査に続いて弥生後期の遺構・遺物が検出され、集落が当該地まで広がっていることが判明した。

また、工事用杭No16～20+12間の長さ100m、面積600m²を第2次調査2地点とした。小田が県道大川大木線改良工事に伴う横溝中島遺跡を発掘中であったため、再度、発掘調査を八女市教育委員会に依頼することとした。

平成12年度における津江八升町遺跡の本調査（第3次調査）は、第2次調査1地点に隣接する工事用杭No26+10～28+10の長さ40m、面積200m²を調査対象地とした。発掘調査は南筑後教育事務所の小田が担当したが、5月から県道飯江長田線道路改良事業に伴う赤坂古墳群の発掘調査にかかる予定であったので、実質的には赤坂古墳群の調査が終了した8月中旬から実施した。調査の結果、前回同様、弥生後期の竪穴住居・土坑などを検出したが、第2次調査2地点とは約100m程の距離があり、当該地が一段高い微高地上に立地することから両者は別個の遺跡と判断される。

2 調査組織

一般地方道湯辺田八女線道路改良事業に伴う埋蔵文化財の対応は、福岡県南筑後教育事務所及び八女市教育委員会の文化財担当者が行っている。津江八升町遺跡における平成9～12年度及び平成13年度の報告書作成に関係した者は、下記のとおりである。

	平成9年度 (第1次調査)	平成10年度 (第2次調査)	平成12年度 (第3次調査)	平成13年度 (報告書作成)
福岡県土木部八女土木事務所				
所 長	山中 通博	森光 誠	大坪 千誠	
建設課長	大坪 千秋	古川 勝次	永田 和彦	
建設課第一係長	森田 義典	堤 忠彦	城戸 信行	
同 主任技師	荒巻 誠治	荒巻 誠治	吉丸 義人	
福岡県教育委員会				
[総括] 教育長	光安 常喜	光安 常喜	光安 常喜	
文化財保護課長	石松 好雄	石松 好雄	柳田 康雄	
文化財保護室長	柳田 康雄			
文化財保護課参事		柳田 康雄	井上 裕弘	
課長技術補佐	井上 裕弘	井上 裕弘	橋口 達也	
調査第一係長		橋口 達也	佐々木隆彦	
調査班総括	橋口 達也			
[庶務] 管理係長	黒田 一治	角 信行	平野 義峰	
〃 事務主査	鶴我 哲夫	鶴我 哲夫	鎮守 俊明	
南筑後教育事務所				
所 長	石川 集充	内藤 国義	内藤 国義	
生涯学習課長	濱田 信也	今村 通博	今村 通博	
〃 技術主査	小田 和利	小田 和利	小田 和利	
〃 事務主査	松田 敏子	古賀 覚	池松 峰男	
九州歴史資料館				
技術主査				小田 和利

平成10年度（第2次調査）

八女市教育委員会

教 育 長	樋 口 欽 一
教 育 部 長	石 松 憲 治
生涯学習課課長	大 隈 繁 敏
生涯学習課課長補佐 兼社会教育係主任	下 川 文比古
文 化 財 係 長	赤 崎 敏 男
同 係 員	中 川 寿賀子
	大 塚 恵 治
	森 田 尚 美
同 嘱 託	山 田 朗 子

平成13年度（報告書作成）

八女市教育委員会

教 育 長	樋 口 欽 一
生涯学習課課長	諸 富 和 生
生涯学習課長補佐	佐 野 正 義
生涯学習課参事補佐 兼社会教育係主任	鹿 野 耕 一
文 化 財 係 長	赤 崎 敏 男
同 係 員	中 川 寿賀子
	大 塚 恵 治
同 嘱 託	山 田 朗 子
	小杉山 大 輔

（11月1日より）

なお、発掘調査及び報告書作成に関して、福岡県教育委員会、福岡県八女土木事務所、八女市建設課、南筑後教育事務所をはじめとする関係各位の御理解・御協力を得た。（小田）

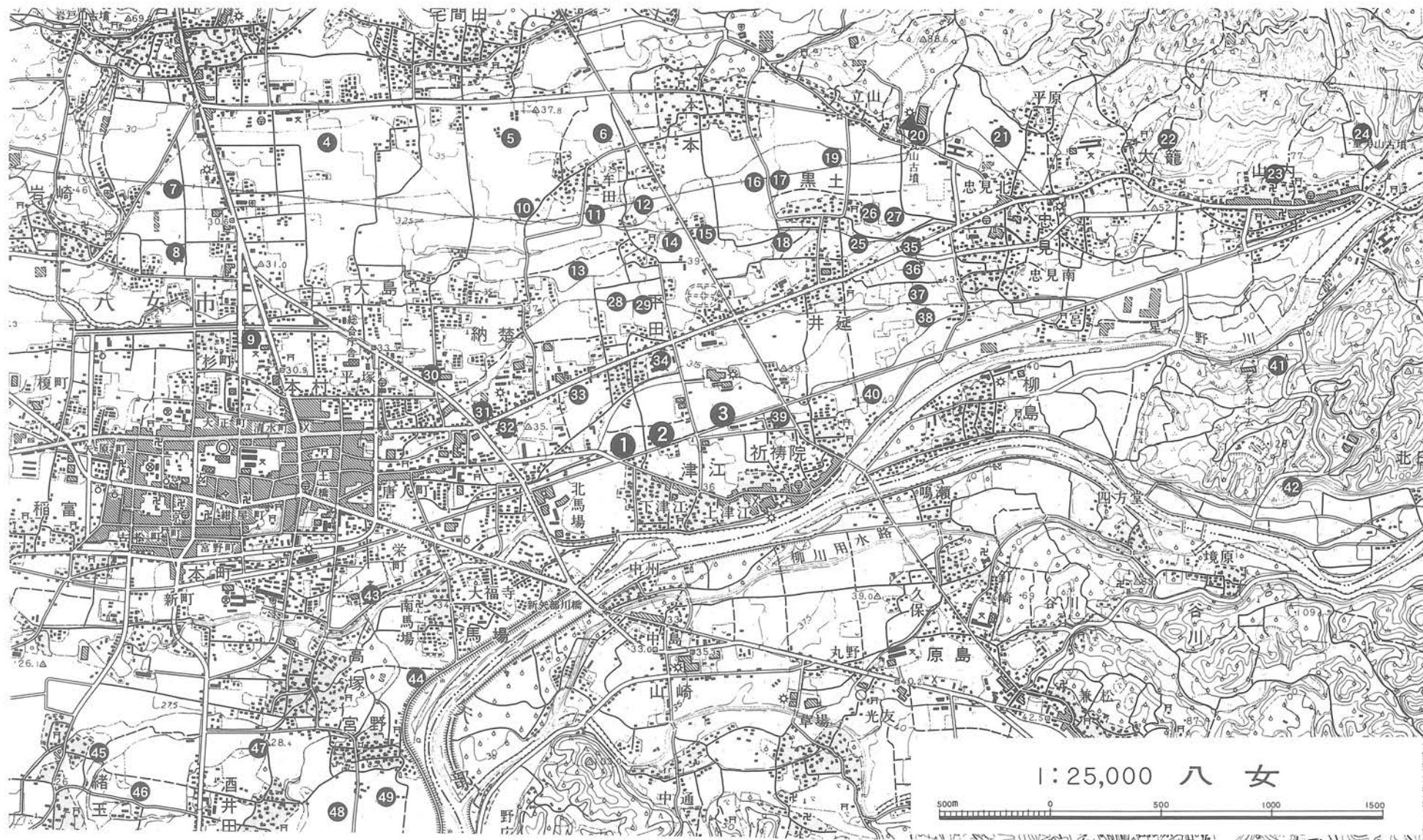
Ⅱ 遺跡の位置と歴史的環境

1 位置と環境

津江・八升町遺跡は星野川と矢部川が合流する地点から北西側約300mにあり、矢部川によって形成された東西にのびる自然堤防上にある。現在の津江集落はこの自然堤防に沿って東西に広く延びている。この付近は築堤以前は両河川による氾濫の常襲地帯で、周辺には河川が氾濫を繰り返した痕跡が良く残っている。特に遺跡の北側の上妻小学校付近に顕著に形跡が残っており、旧河道との水田差は3m程ある。遺跡の周辺での標高は3.6m前後で、地形は南に向かってわずかながら傾斜している。

遺跡の周辺は県道の改良工事が行われたため、最近になって市街地化が進み、工場等が建設されている。これに伴って埋蔵文化財の発掘調査も増加している。周辺の遺跡を概観すると、弥生時代の遺跡として南側に隣接して祈祷院遺跡がありJ A八女上妻支所建築の際、甕棺墓、石棺墓等の弥生時代の遺物が数多く発見されている。弥生時代・古墳時代の遺跡として、北側約300mの津ノ江遺跡（上妻小学校校庭遺跡）では昭和63年と平成11年の調査で弥生時代と古墳時代の竪穴住居跡、貯蔵穴、墳墓が、北西側約300mの高島遺跡では平成8年と平成11年の調査で弥生時代前期～後期の竪穴住居7軒、土壙77基、と旧河川が発見されており、多量の遺物が出土している。西側約500mの熊野遺跡では弥生時代の竪穴住居38軒、土壙205基、環濠1のほか、土壙墓、甕棺墓など58基の墳墓が発見されている。また、古墳時代では竪穴住居2軒と、竪穴式石室を主体部とする古墳が発見されている。隣接する赤氏遺跡でも弥生時代の竪穴住居約35軒、掘立柱建物、土壙約50基、土壙墓、甕棺墓が発見されている。東側約700mにある高野町遺跡からも弥生時代の竪穴住居6軒、土壙16基、古墳時代の竪穴住居46軒、掘立柱建物4棟、土壙16基などが平成5年の調査で発見されている。北側500mには平成6年～平成11年に八女東部園地整備事業で発見された平田・六反田遺跡北ノ前遺跡等の弥生時代の集落も発見されており、弥生時代から古墳時代にかけて周辺には大規模な集落が形成されていた事が伺われる。

第2次調査第2地点の東側200mにある白石遺跡と今回調査を実施した津江八升町遺跡は同一性格の遺跡で氾濫源を整地した痕跡が残っており、大規模な土木工事が実施されたことが判明している。（赤崎）

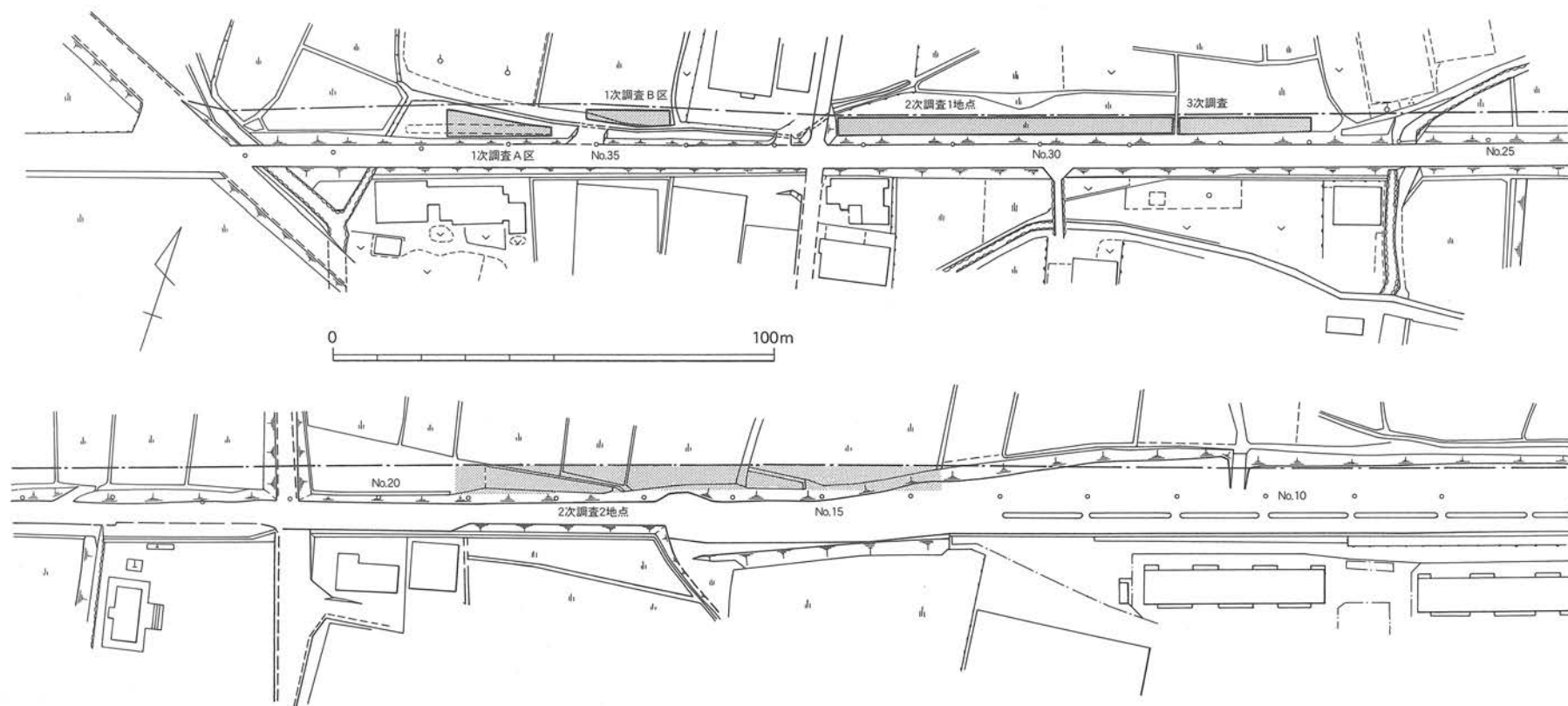


1. 津江、八升町遺跡 1 次調査 2. 津江八升町遺跡 2 次調査 1 地点・3 次調査 3. 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 4. 道手遺跡 5. 餅田遺跡 6. 枕林遺跡 7. 美男川遺跡 8. 島巡遺跡
9. 福島中学校校庭遺跡 10. 丁ノ坪遺跡 11. 永尾遺跡 12. 干松遺跡 13. 西原遺跡 14. 尺取遺跡 15. 口ノ坪遺跡 16. 石佛遺跡 17. 野ノ内遺跡 18. 柳ノ内遺跡 19. 八反田遺跡
20. 丸山古墳 21. 西小牟田遺跡 22. 日迫山古墳 23. 東館遺跡 24. 童男山古墳 25. 中園遺跡 26. 黒土・新替遺跡 27. 風流松遺跡 1～5 地点 28. 平田・六反田遺跡 29. 平田・北ノ前
遺跡 30. 万上田遺跡 31. 赤氏遺跡 32. 熊野遺跡 33. 高島遺跡 34. 後ノ江遺跡 35. 風流松遺跡 6 地点 36. 明洲遺跡 37. 亀嶋遺跡 38. 祈讓遺跡 39. 白石遺跡 40. 高野町遺跡
41. 長浦横穴墓 42. 城の谷古墳 43. 南中学校校庭遺跡 44. 鍛冶屋遺跡 45. 池上遺跡 46. 深田遺跡 47. 鳥井遺跡 48. 宮野・前田遺跡 49. 揃町遺跡

第 1 図 津江八升町遺跡と周辺遺跡分布図〔1/25,000〕



第2図 津江八升町遺跡 1次調査・2次調査1地点・2地点・3次調査位置図 (1/2,500)



第3図 津江八升町遺跡 遺跡周辺地形図〔1/1,500〕

Ⅲ 調査の内容

1 第1次調査

(1) 調査の概要

本調査は長さ約65m、幅員約7mの道路拡幅部分を調査対象地としたが、実質的な調査面積は約200m²である。津江八升町遺跡は、標高34mの沖積平野に形成されるが、遺跡そのものは周囲より1m程高い微高地に立地する。調査区の中央部を水路が斜めに流れるため、便宜上西側をA区、東側をB区とした。

検出した遺構には、弥生後期の遺構として竪穴住居5軒、掘立柱建物2棟、土坑7基、集石1基、大溝4条、小溝3条及び箱式石棺墓1基がある。また、中世の遺構として石組み井戸1基が検出されており、付近に建物が存在した可能性が高い。出土遺物の大半を弥生土器が占めるが、石組み井戸からは青磁・土師器片が検出された。

(2) 遺構と遺物

a) 竪穴住居

1号竪穴住居（第5図、図版2-2）

A区の西端に位置し、2号掘立柱建物、1号小溝に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸4.74m、短軸1.84mで、壁高は北壁側で0.26mを測る。床面にはピットが3個あるが、支柱穴になるか判然としない。西壁中央には1.08×0.80mの土坑があり、屋内土坑と考えられる。また、床面には炭化材・炭・焼土が散在しており、焼失家屋と判断される。

出土遺物（第12図）

弥生土器（1～6） 1・2は甕の口縁～胴部破片で、ともに底部を欠く。1は胴部が球状を呈し、鉢形をなす。2は下膨れの胴部形態を呈する。3は平底の底部破片で、底径は8.0cmを測る。4は鉢で、口径は16.6cmに復原した。5は椀で、内外面ともヘラ状工具による擦過痕がみられる。6は器台で、脚裾部を欠く。口縁部は大きく開く。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ナデによる。

2号竪穴住居（第5図、図版3-1）

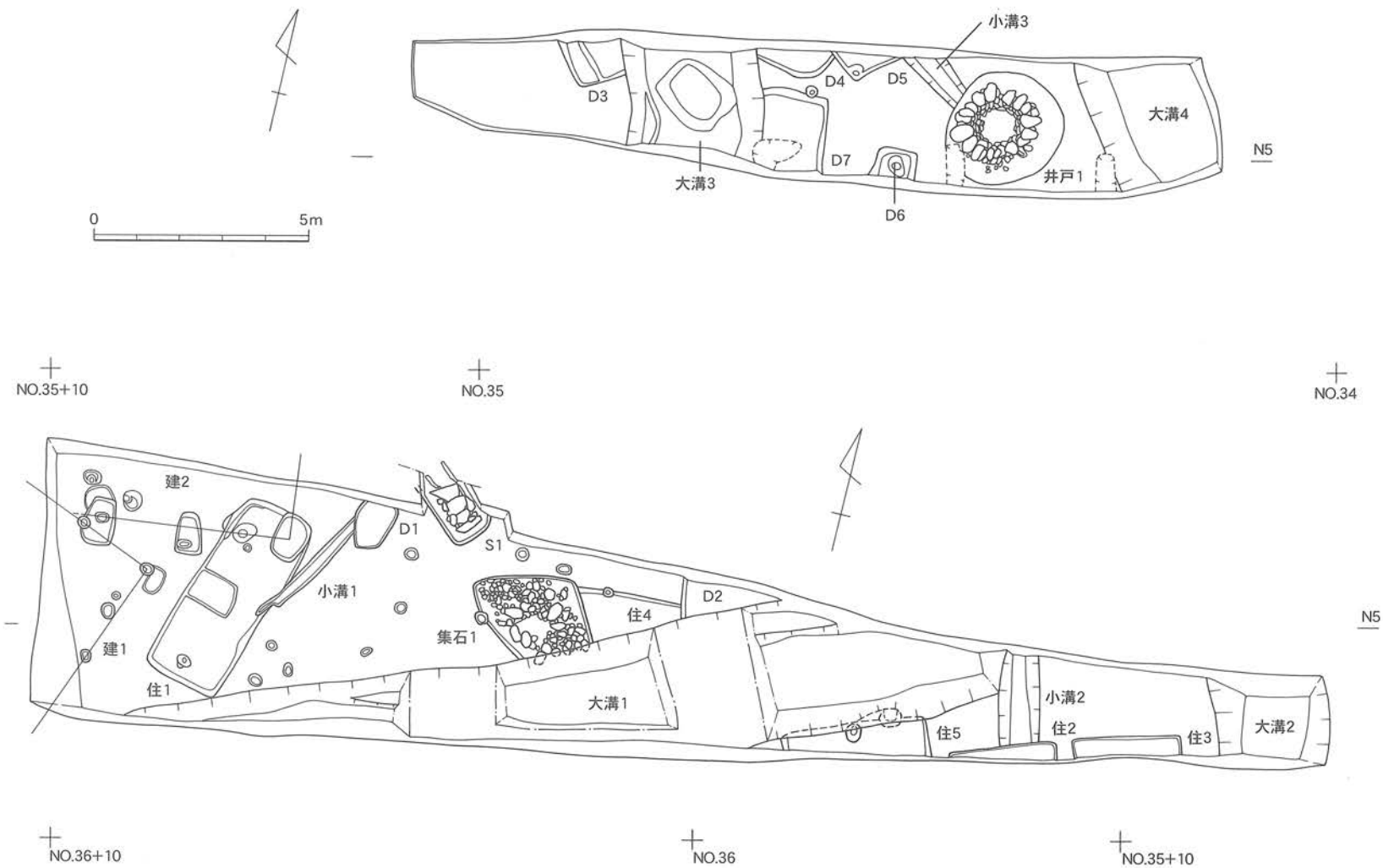
A区の東側に位置し、2号小溝を切っている。北壁部を調査したのみで、大半が調査区外に伸びる。北壁長2.50m、壁高0.15mを測る。床面には炭化材が見られ、焼失家屋と考えられる。

3号竪穴住居（第5図、図版3-2）

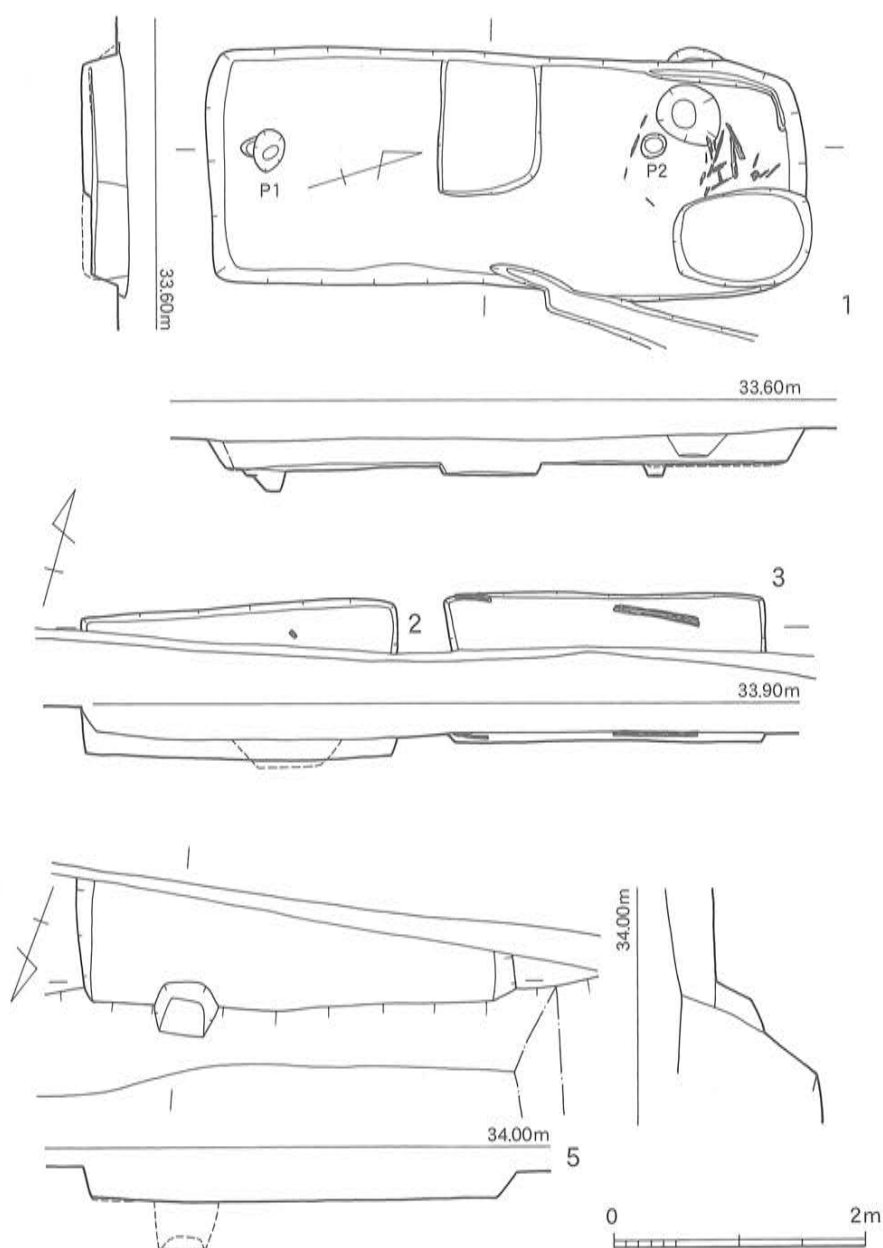
2号住居の0.4m東側で、同住居と並列して位置する。北壁部を調査したのみで、大半が調査区外に伸びる。北壁長は2.54mで、壁高は削平が著しく8cmの遺存状況である。同住居も床面には炭化材が見られ、焼失家屋と考えられる。埋土中から弥生土器が出土している。

出土遺物（第12図）

弥生土器（1・2） 1は甕の口縁部破片で、口縁部は小さく屈曲する。復原口径14.0cm。2



第4図 津江八升町遺跡 1次調査遺構配置図〔1/150〕



第5図 1～3・5号竪穴住居実測図〔1/60〕

は底部破片で、僅かに平底を残す。口縁部を欠くが、椀になろう。

4号竪穴住居

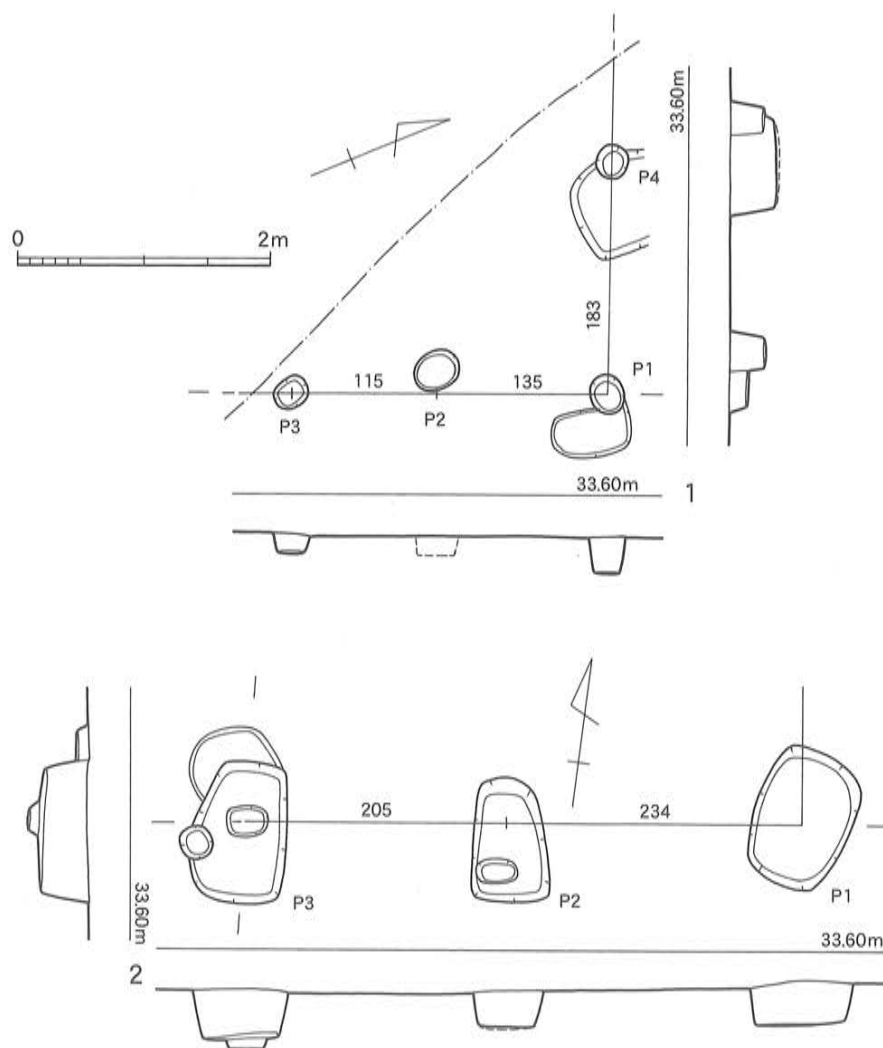
A区の中央に位置する。2号土坑、1号集石、1号大溝に切られるため規模等詳細は不明。壁高は0.27mを測る。埋土中から若干の弥生土器が出土している。

出土遺物（第12図）

弥生土器（1）1は器台の口縁部破片で、口径は10.0cmに復原した。

5号竪穴住居（第5図、図版3-3）

A区中央で、2号住居の0.4m西側に位置する。1号大溝に切られ、南半部が調査区外にあるため詳細は不明。東西幅3.40m、壁高0.30mを測る。埋土中から若干の弥生土器が出土している。



第6図 1～2号掘立柱建物実測図〔1/60〕

出土遺物（第12図）

弥生土器（1・2） 1は鉢の口縁部破片で、口径は16.0cmに復原した。調整は磨滅により不明。2は碗の口縁部破片で、底部を欠く。口縁部ヨコナデ、内外面ヘラケズリによる。

b) 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第6図、図版2-2）

A区の西端に位置し、2号掘立柱建物を切る。柱穴4個がL形に並ぶことから掘立柱建物とした。柱間はP1－2間1.35m（4.5尺）、P2－3間（3.8尺）、P1－4間1.83（6尺）を測る。柱穴は径25～30cmの円形を呈し、深さは25cm前後の遺存状況である。

2号掘立柱建物（第6図、図版2-2）

A区の西端に位置し、1号掘立柱建物に切られ、1号住居を切っている。南側柱間2間分を検出したが、大半が調査区外に伸びるため詳細は不明。柱間はP1－2間2.34m、P2－3間2.05mを測る。柱穴は隅丸方形を呈し、長軸1.0～1.1m、短軸0.6～0.8m、深さ0.3～0.4mと比較的大

規模なものである。柱穴埋土中から若干の弥生土器片が出土している。

出土遺物（第13図）

弥生土器（1・2） 1は甕の口縁部破片で、「く」字形に屈曲する。口径は25.6cmに復原した。2は底部破片で、平底をなす。内面はハケ目調整による。

c) 土 坑

1号土 坑（第7図）

A区の西側に位置し、1号小溝を切る。平面形は不整長方形を呈し、長軸1.09m、短軸0.91m、深さ1.14mを測る。遺物は弥生土器片数点が出土したにすぎない。

2号土 坑

A区中央北端に位置し、4号住居、1号大溝に切られるため詳細は不明。壁高は0.3mの遺存状態である。土坑としたものの、住居の可能性もある。埋土中から弥生土器が出土している。

出土遺物（第13図）

弥生土器（1） 平底の底部破片で、底径は5.4cmに復原した。調整は磨滅により不明。

3号土 坑（第7図、図版4-1）

B区の西側に位置し、3号大溝に切られる。南西隅部を調査した程度で、詳細は不明。掘形は2段に掘られ、西側に幅0.3～0.4mのテラスを有する。最下面までの深さは0.26mを測る。遺物は弥生土器片が数点出土したのみ。

4号土 坑（第7図、図版4-2）

B区中央北壁側に位置し、5号土坑、3号大溝に切られる。南側隅部を検出した程度で、詳細は不明。埋土中から弥生土器小破片が出土している。

5号土 坑（第7図、図版4-3）

4号土坑の東に位置し、同土坑を切っている。当土坑も南側隅部を検出した程度で、規模等詳細は不明。埋土中から弥生土器小片が出土した。

6号土 坑（第7図、図版5-1）

B区の中央南壁側に位置する。北半部を検出した程度で、詳細は不明。底面には長径0.5mのピットがあり、埋土中から弥生土器が出土した。

出土遺物（第13図）

弥生土器（1） 鉢の口縁部破片で、口縁部はS字形に屈曲する。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ナデ調整による。

7号土 坑（第7図、図版5-2）

B区中央で、4号土坑のすぐ南側に位置する。西半部は3号大溝に切られ、南半部が調査区外に伸びるため詳細は不明。壁高は0.35mを測る。

d) 集石

1号集石 (第8図、図版6-1)

A区の中央やや西寄りに位置し、1号大溝に切られ、4号住居を切っている。平面形は菱形を呈し、長軸3.08m、短軸2.24m、壁高0.24mを測る。底面はほぼ水平で、掘形内には10~40cm程の円礫が入っていた。また、埋土中から弥生土器片が出土している。

e) 大溝

1号大溝 (第9図、図版7-1・2)

A区の中央を東西方向に走る溝で、長さ20.6mを検出したものの、B区までは伸びないようだ。2号小溝に切られ、4・5号住居、2号土坑、1号集石を切っている。溝の幅は東側で3.2m、検出面からの深さは東側で1.13m、西側で1.06mを測る。埋土は上層から①緑色砂質土、②明緑色砂質土、③緑灰色砂質土、⑥灰色砂質土、⑧灰色粘砂で、⑥と⑧層の間には炭の層が入る。底面のレベルからすると東から西側に流れていたものと考えられる。埋土中からはパンケース6箱程の弥生土器が出土している。

出土遺物 (第14~18図)

弥生土器 (1~80) 1~12は壺。1は袋状口縁壺で、瓢箪形を呈する。2・3は直口壺の口~胴部破片で、口径は2が12.8cm、3は15.6cmに復原した。4~11は広口壺で、5・7~9・11の口縁部は大きく外反する。4・6・10の口縁部は直線的に開く。5~7は口唇部にキザミ目を付しており、7は頸部に刺突文を施し、8は頸部に三角突帯を貼付している。12は胴下半部破片で、胴部にはキザミ目を付した三角突帯を貼付している。底部は平底をなす。調整はハケ目を主体とし、12の内面は工具によるナデを施している。

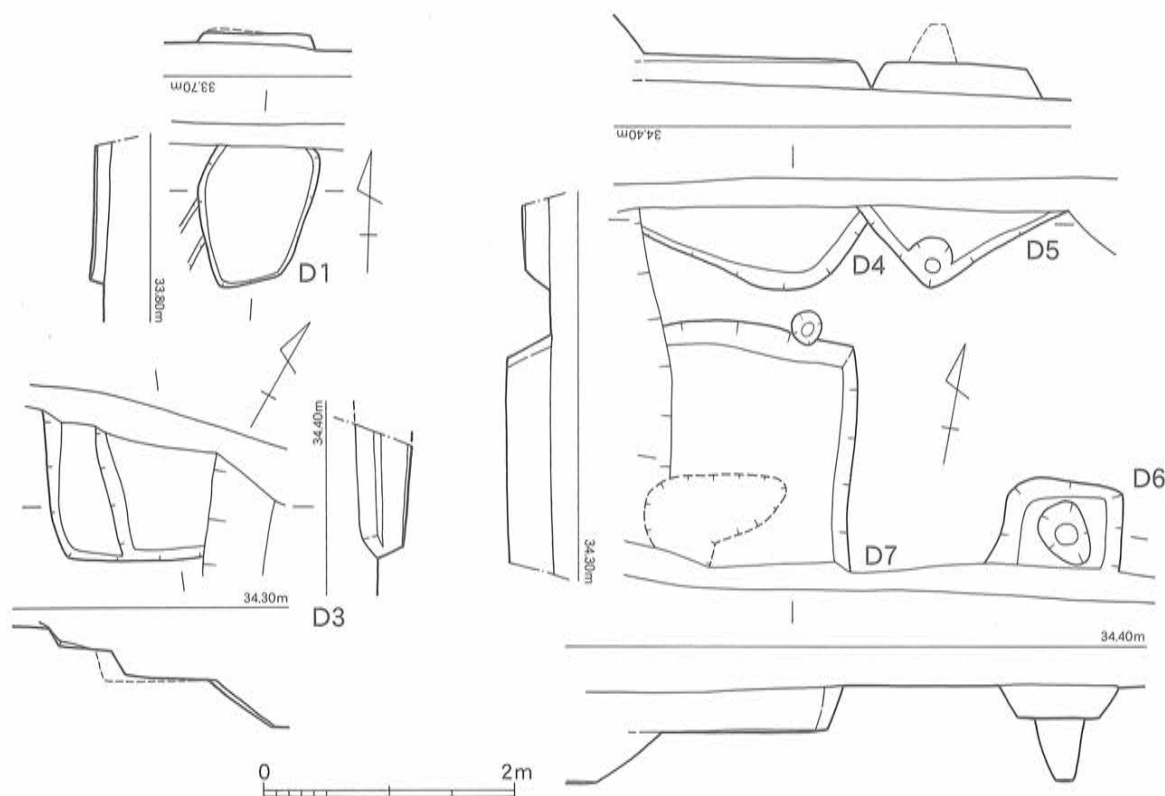
13~38は甕で、13~15の口縁部は直立気味に立ち上がる。16~21は口径が12~16cm程の小型甕で、口縁部は「く」字形に外反する。22~24は口縁部が短く屈曲するもの。25~33は「く」字形口縁の甕で、28は長胴を呈する。25は器高29.8cm、口径24.6cm、底径4.4cmを測る。28は器高37.2cm、口径21.6cm、底径6.0cmを測る。30は口唇部にキザミ目を施す。34~37は底部破片で、何れも平底を残している。38は大甕の口~胴部破片で、口縁端部には×形のキザミ目を施し、頸部にはキザミ目を付した三角突帯を貼付する。調整はハケ目を主体とし、15・28の外面は工具による擦過。

39~53は鉢で、39~46は口縁部が「く」字形に屈曲するもの。47~49は口縁部が直立するもの。50~53は口縁部が内湾するもので、53は口唇部が外方に突出する。56~62は椀で、60は深めのタイプ。61・62は口縁部が小さく外反するもの。63~74は台付鉢で、64~66は鉢部、69~74は脚台部。63・64・65・67の口縁部は「く」字形を呈し、66・68の口縁部は大きく開く。70は円孔を4箇所施している。67は器高15.2cm、口径19.8cm、脚裾径13.4cmを測る。

75~78は高坏で、75が口縁部破片、76~78は脚部破片。76・77は円孔を施しているが、76は2段に穿つ。79は器台の裾部破片。80は甗で、底部に円孔を1孔穿っている。

2号大溝 (第9図、図版8-1)

A区の東端を南北方向に走る溝で、西壁の立ち上がり部分のみ検出した。溝の東壁が調査区外

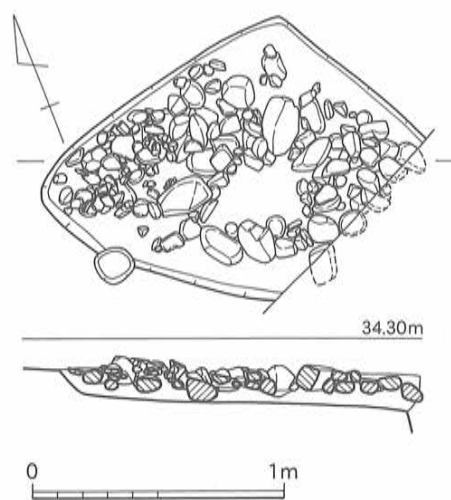


第7図 1・3～7号土坑実測図〔1/60〕

にあるため幅、長さ等詳細は不明。1号大溝とは直交関係にあり、1号大溝がB区まで伸展しないこと、当溝の土層の堆積状況・色調が1号大溝と同様であること、底面のレベルもほぼ等しいことなどから両者は一連の溝と考えられる。埋土下位からパンケース2箱程の弥生土器が出土している。

出土遺物（第19図）

弥生土器（1～4） 1は袋状口縁壺の口～頸部破片で、口径は16.0cmに復原した。口縁部外面には2個一対の竹管文を4箇所施しており、頸部には断面三角突帯を貼付する。2～4は甕で、2は頸部、3は底部の破片。4は口縁部が「く」字形に屈曲するもので、頸部にはキザミ目を付した三角突帯を貼付する。調整は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ナデによる。



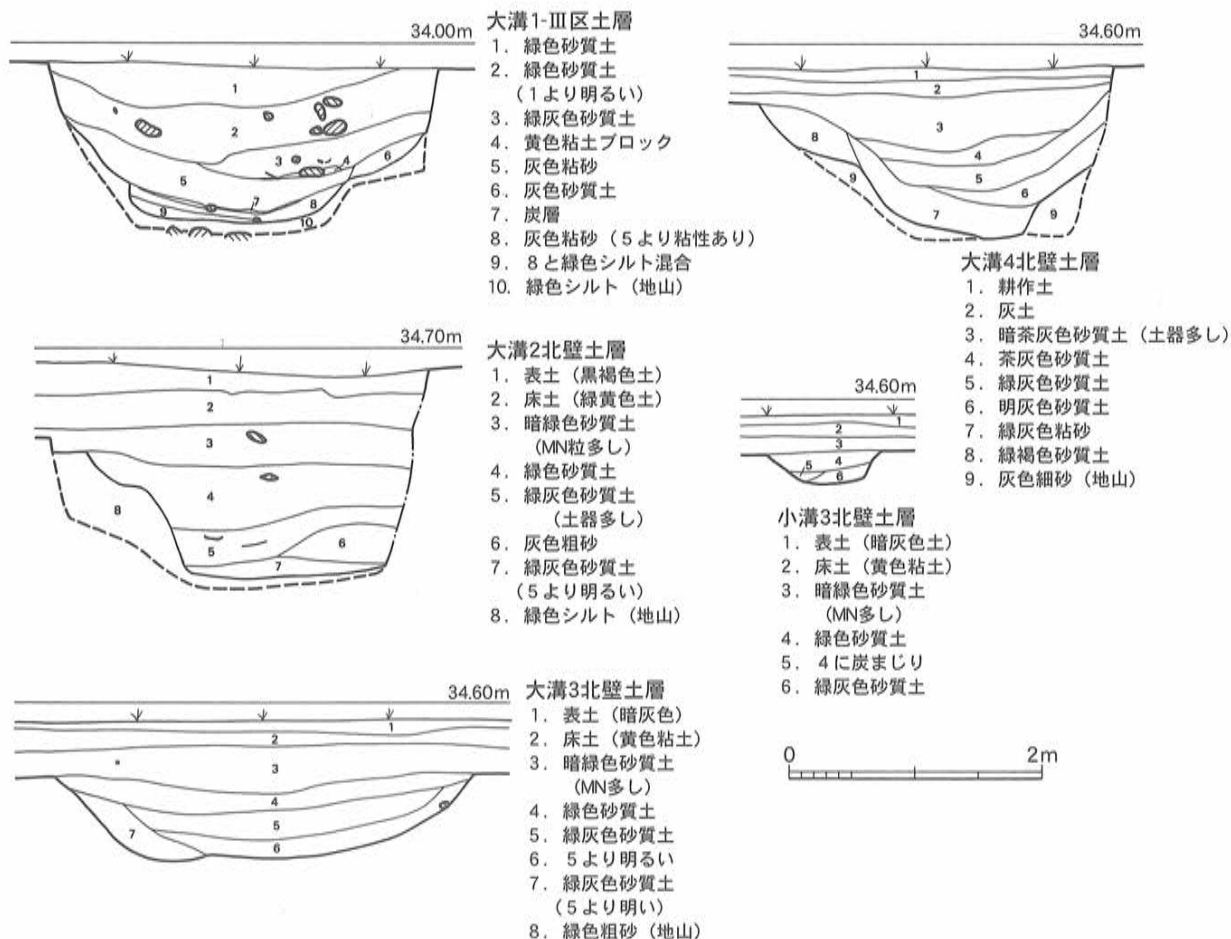
第8図 1号集石実測図〔1/30〕

3号大溝（第9図、図版8-2）

B区の西側を南北方向に走る溝で、3・4・7号土坑を切っている。幅3.06m、深さ0.85mを測る。底面中央には長軸1.66m、短軸1.41m、深さ0.25mの隅丸方形の土坑を有する。埋土は上層から①緑色砂質土、②緑灰色砂質土、③明緑灰色砂質土で、埋土中から弥生土器が出土している。

出土遺物（第19図）

弥生土器（1～5） 1・2は甕の口縁部破片で、「く」字形に屈曲する。口径は1・2とも16.0cmに復原した。3は高杯の口縁部破片で、口縁端部に平坦面を有する。4・5は碗で、4は



第9図 1～4号大溝・3号小溝土層図 [1/60]

底部を欠くが丸底になろう。5は器高3.8cm、口径6.8cmを測る。5は内外面ともナデ調整。

4号大溝 (第9図、図版8-3、9-1・2)

B区の東端部に位置し、南北方向に走る。溝の東壁が調査区外に伸展するため幅・長さ等詳細は不明。深さは0.8mを測る。埋土は①暗茶灰色砂質土、②茶灰色砂質土、③緑灰色砂質土、④明緑灰色砂質土、⑤緑灰色粘砂で、①～③層にかけてパンケース10箱程度の土器が出土した。

出土遺物 (第20～25図)

弥生土器 (1～61) 1～10は壺で、1・2は口縁部が直立する直口壺。3～10は広口壺で、4・8～10の口縁部は大きく外反する。5・6は口縁部が直線的に開くもので、4～6・9・10は口縁端部にキザミ目を施す。3は口縁部外面に断面三角形の粘土帯を3本一対で4箇所貼付している。調整は内外面ともハケ目を主体とするが、3の外面はミガキによる。2は器高25.9cm、復原口径15.0cmを測る。

11～43は甕で、11の口縁部は直立する。12～38は「く」字形口縁の甕で、15～18の口縁部は強く屈曲するが、20・22・34の屈曲度は弱い。14・17・27の底部は丸味を帯びた平底を呈する。調整は口縁部ヨコナデ、内外面ハケ目を主体とし、21・25・27の外面は工具による擦過がみられる。14は器高33.8cm、口径15.6cm、底径6.0cmを測る。

39～42は口径25cm程の中型甕で、39・41は口唇部にキザミ目を施し、40・41の頸部にはキザミ目を施した三角突帯を貼付する。42・43は大型の甕で、42の口縁部は緩やかに外反し、口縁端部にキザミ目を付している。43は二重口縁の甕で、口縁端部に連続山形のキザミ

目を施し、外面にはハ字形のキザミ目を付している。何れも頸部にはキザミ目を施した幅広の突帯を貼付する。44～49は底部破片で、44～46は丸底、47・48は平底を呈し、49の底部は中央が鉤状に飛び出すもの。

50・51は鉢で、50は口縁部が「く」字形を呈するもので、51は口縁部がそのまま立ち上がるもの。52は椀で、底部に僅かな平底を残す。53～56は台付鉢で、53は胴下半部、54～56は脚部破片。

57～59は高坏で、57が坏部、58・59は脚部の破片。ともに下半部に円孔を施している。60・61は器台で、61は器高9.5cm、口径7.8cm、脚径12.1cmを測る。

f) 小 溝

1号小 溝

A区の西側に位置し、1号土坑に切られ、1号住居を切っている。北東－南西方向に走る溝で、長さ3.3m分を検出した。中央部での幅33cm、深さ12cmを測る。埋土中から弥生土器が出土した。

出土遺物（第13図）

弥生土器（1） 甕の口縁部小片で、「く」字形に屈曲する。

2号小 溝

A区の東寄りに位置し、2号住居に切られ、1号大溝を切っている。南北方向に走る溝で、幅38cm、深さ35cmを測る。埋土中から弥生土器が出土している。

出土遺物（第13図）

弥生土器（1） 甕の底部破片で、平底をなす。器面は内外面ともハケ目調整による。

3号小 溝（第9図、図版9-3）

B区の東寄りに位置し、1号井戸に切られる。北西－南東方向走る溝で、北端部での幅70cm、深さ26cmを測る。弥生土器小片が出土したにすぎない。

g) 石棺墓

1号石棺墓（第10図、図版6-2）

A区北壁の中央やや西寄りで検出した。北西側の墓壙・小口石・蓋石は水路により破壊されているが、規模を推測するのは可能である。墓壙は隅丸方形を呈し、推定長2.2m、推定幅1.2mで、残高は0.25mを測る。蓋石は現状で4枚遺存しているが、北西小口側にもう一枚存在したものと考えられる。また、蓋石との隙間には小さい石を当てて隙間を充填している。小口石は各々1枚であるが、側壁は東側が3枚、西側が4枚使用しており、側壁の隙間には灰白色粘土で目張りをしていた。また、側壁内面には赤色顔料の塗布が認められた。石棺内からの遺物の出土はなく、墓壙埋土中から弥生土器片が出土したにすぎない。

出土遺物（第13図）

弥生土器（1） 1は高坏の口縁部破片で、口縁部が短く屈曲するもの。口径は24.0cmに復原

した。口縁部の調整はヨコナデによる。

h) 井戸

1号井戸 (第11図、 図版10-1・2)

B区の東側に位置し、3号小溝を切る。掘形は西洋梨形を呈し、長軸2.86m、短軸2.62m、検出面からの深さ1.62mを測る。井戸枠には底面から人頭大の川原石を積み上げており、現状で9段程遺存しており、底径0.8m、上面径1.1mを測る。

出土遺物 (第13図)

土師器 (1) 摺鉢の口縁部破片で、口縁部外面に三角形の粘土帯を貼付する。口径は23.8cmに復原した。内面ハケ目、外面ナデ調整による。

青磁 (2) 龍泉窯系青磁碗の底部破片で、釉薬は緑灰色に発色する。畳付及び高台内は無釉。復原高台径6.0cm。

i) その他の遺物

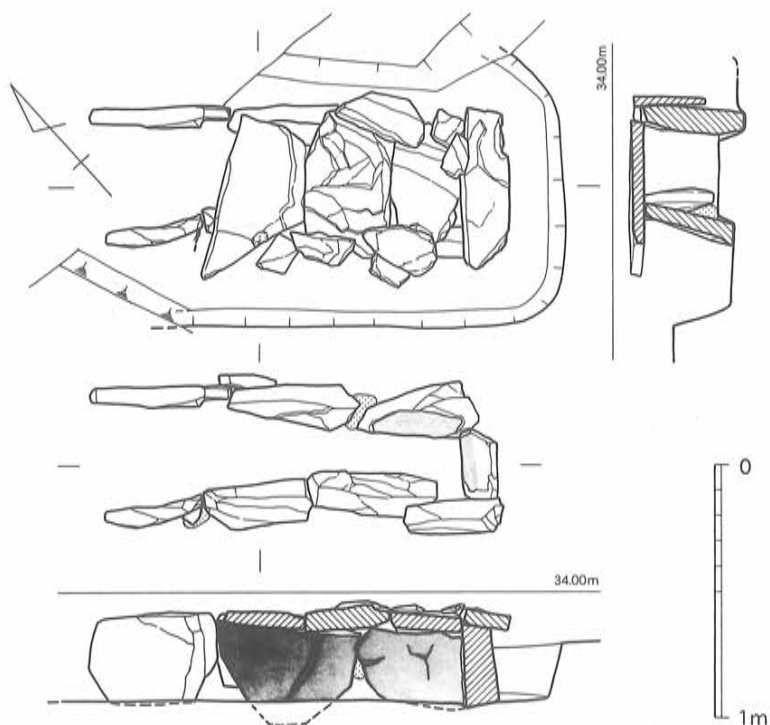
出土遺物 (第26図)

弥生土器 (1~9) 1~9は試掘調査時出土の土器。1は広口壺の口~頸部破片で、口縁部は大きく開く。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目による。復原口径21.6cm。2は甕の口縁部破片で、口縁部は「く」字形に屈曲する。3は口縁部破片で、頸部に締まりがないことから台付き鉢になるか。4は大甕の口縁部破片で、内外面ともハケ目調整による。5・6は鉢の口縁部破片で、5の口縁部は内湾する。7は小型の鉢で、口縁部は短く外反する。復原口径8.0cm。8・9は高坏で、8が坏部、9は脚部。脚部の中位には円孔を2箇所に施している。

(3) 小 結

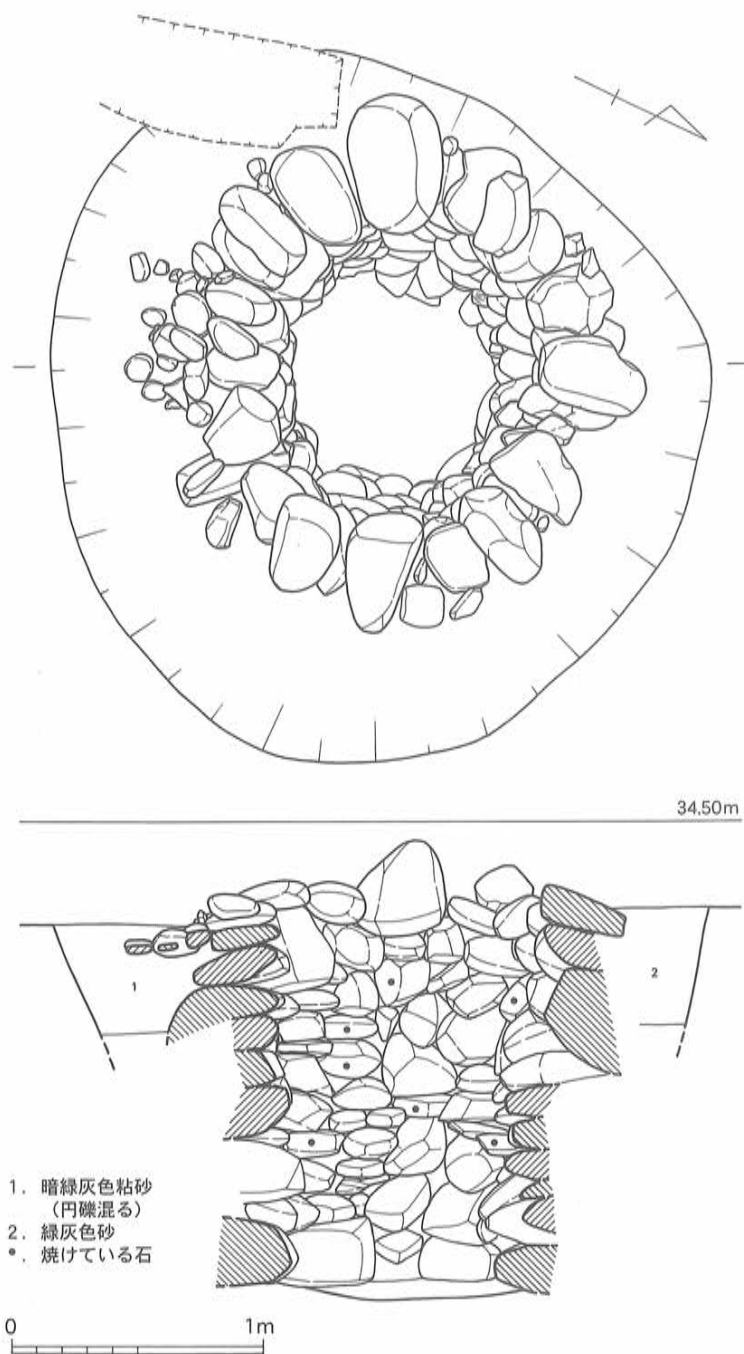
調査面積は狭小であったが、弥生時代後期後半を主体とする竪穴住居・掘立柱建物・土坑・集石・溝・石棺墓など種々の遺構が検出された。1号竪穴住居は、幅(1.84m)に対して長さ(4.74m)が2.5倍と極端に長く、当該時期通有の方形ではなく、横長長方形の特異な形状を呈するが、柱穴・屋内土坑がみられることから住居とした。1~3号竪穴住居の床面には炭化材が散在しており、焼失家屋と考えられる。

また、調査時点では認識していなかったが、整理段階での検討の結果、1号大溝と2号大溝は連続する溝と推測され、当遺跡は環濠集落であった可能性が出てきた。なお、石棺墓は1基のみの

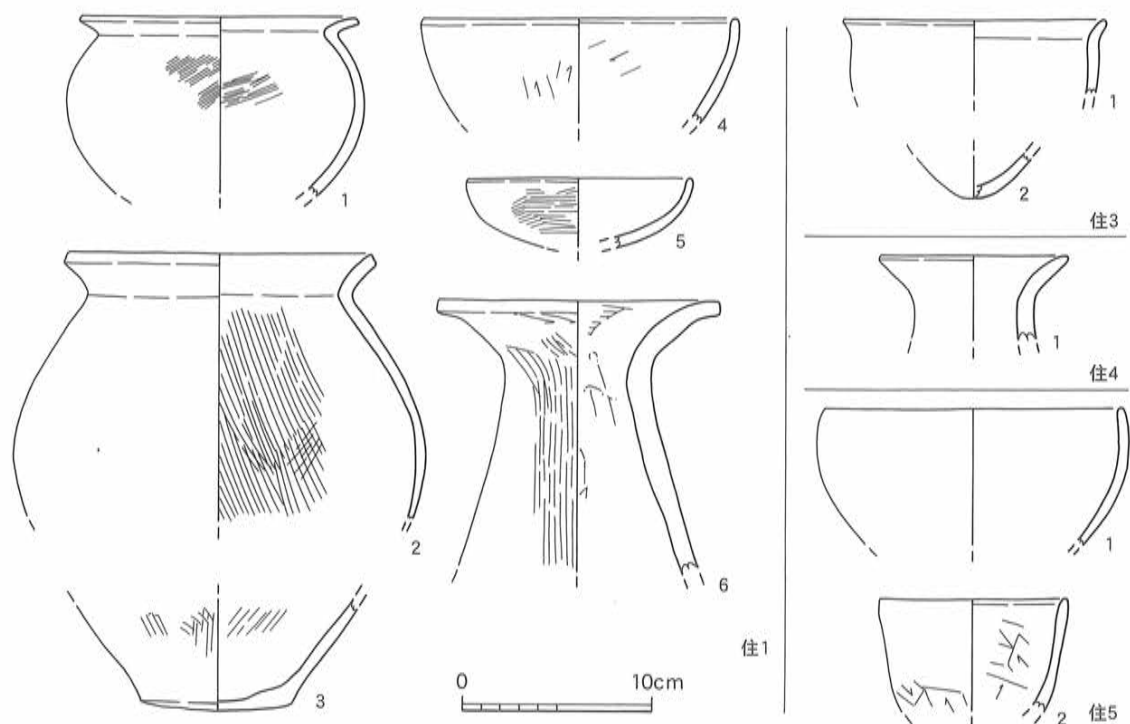


第10図 1号石棺実測図 (1/30)

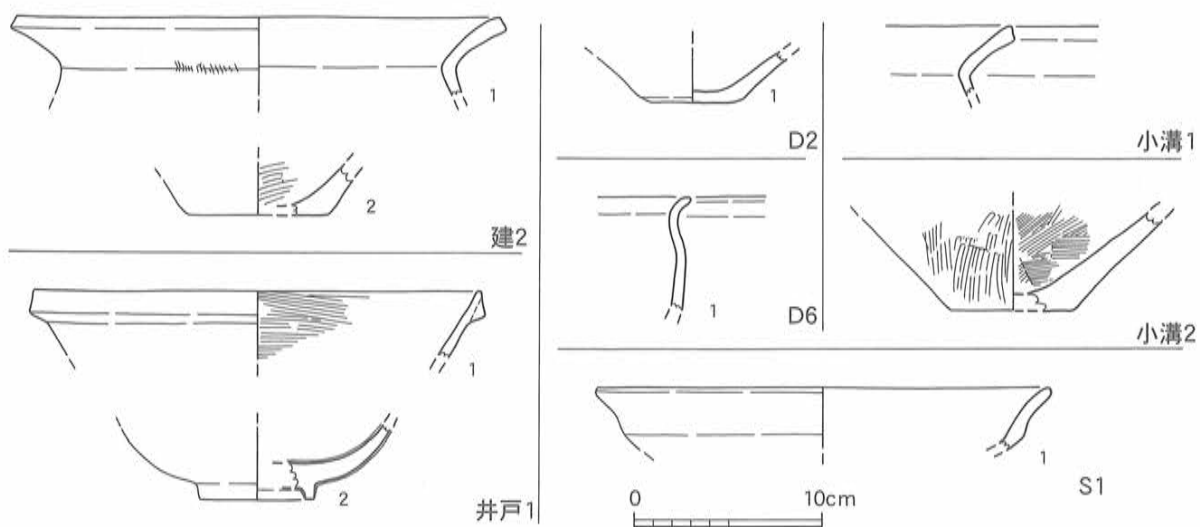
検出であったが、遺跡の北東にある J A 八女上妻支所の農業倉庫が建っている場所からは、倉庫建設の際に甕棺墓・箱式石棺墓が発見されており、調査区の北東側に墓地群が展開し、集落としては南西側に広がるものと考えられる。(小田)



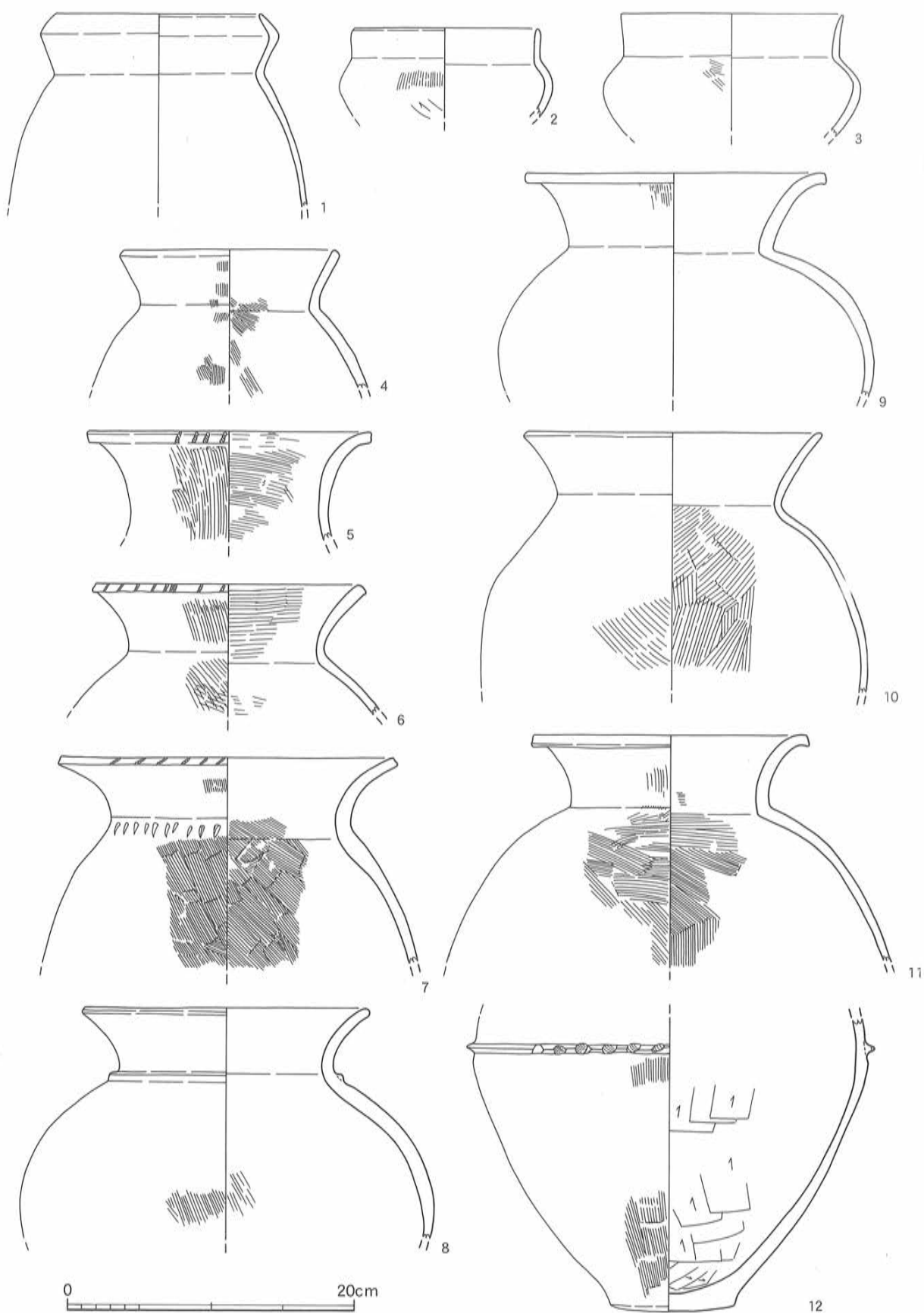
第11図 1号井戸実測図 [1/60]



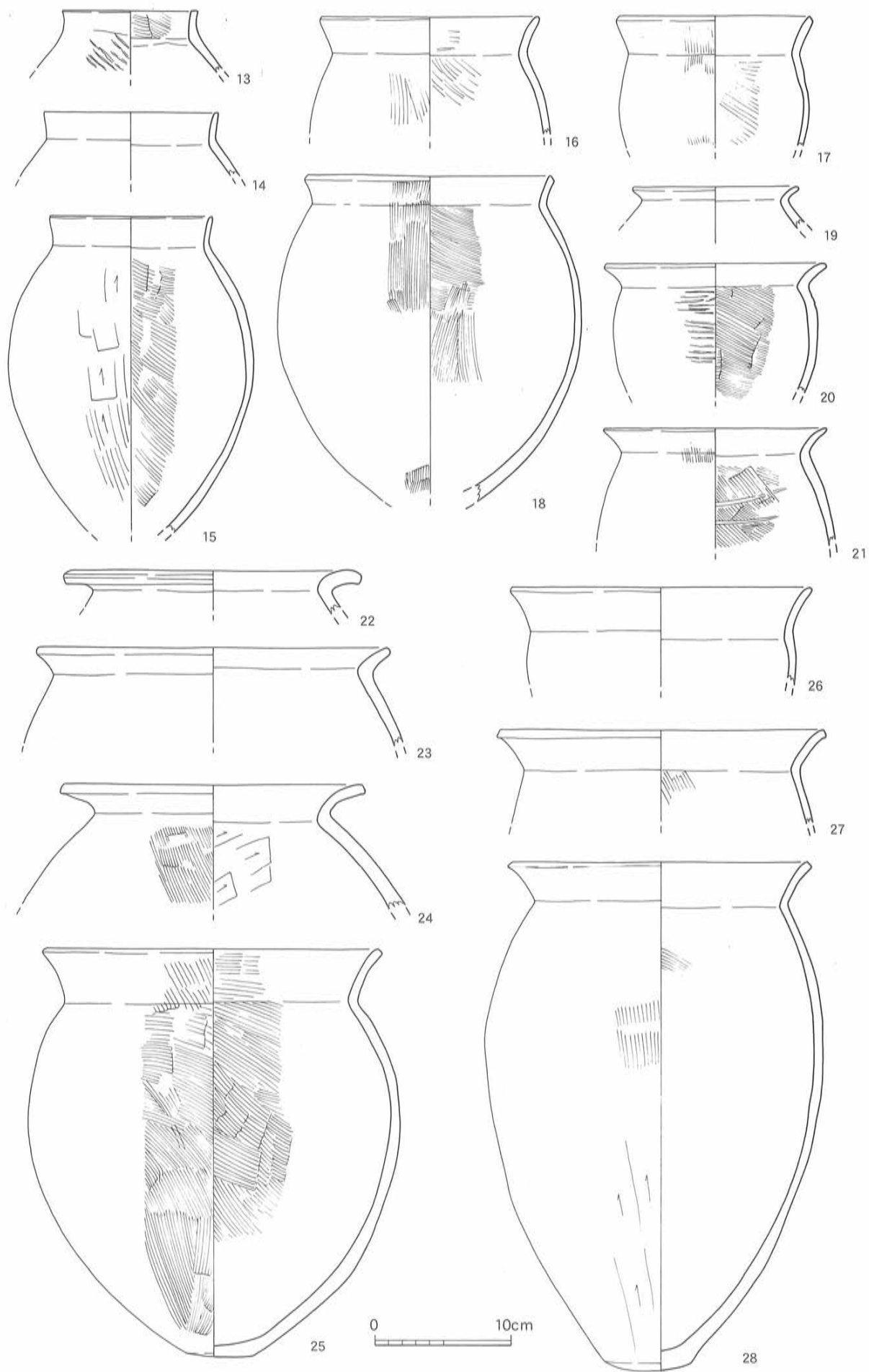
第12図 1・3～5号住居出土土器実測図〔1/4〕



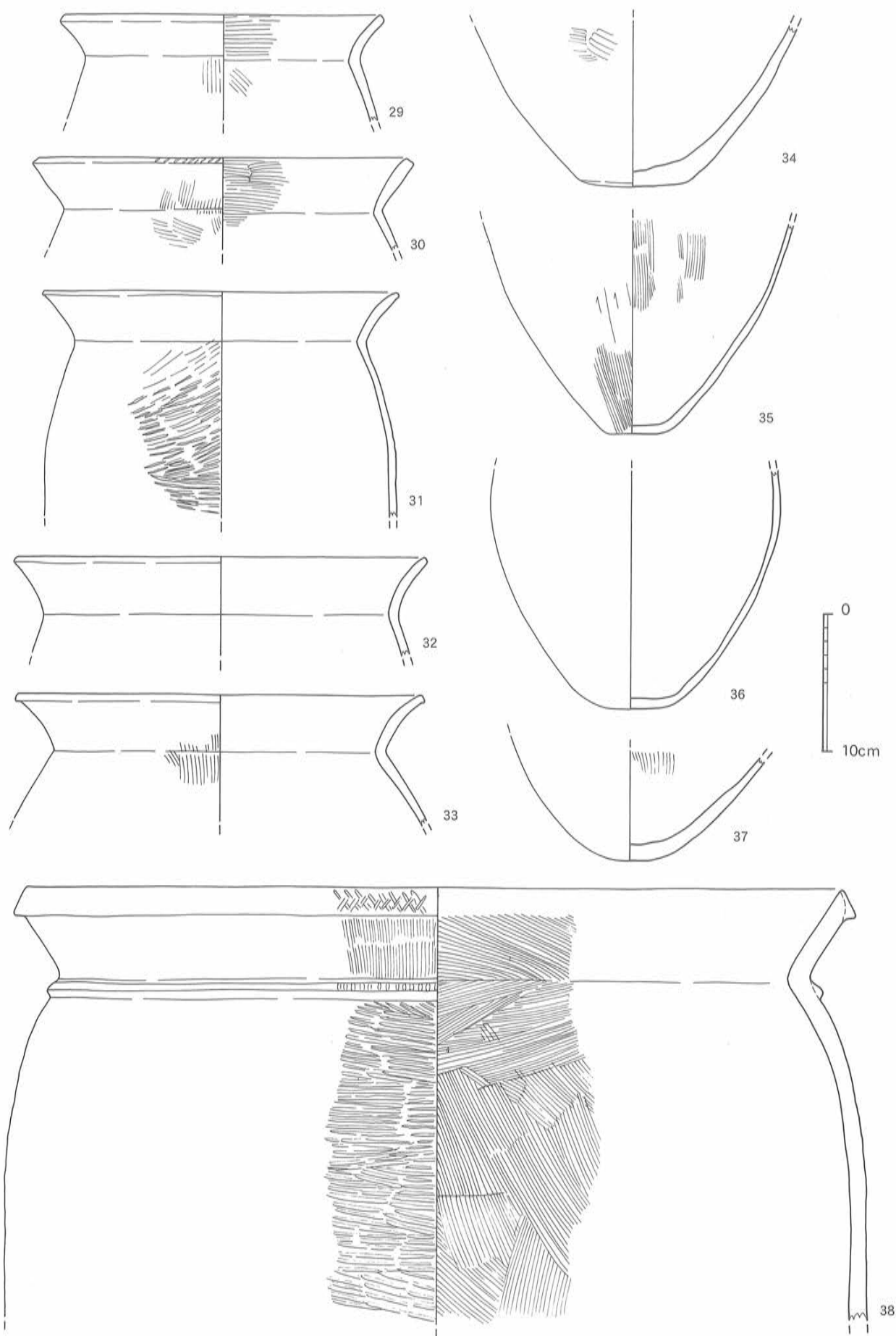
第13図 建物・土坑・小溝・井戸・石棺出土土器実測図〔1/4〕



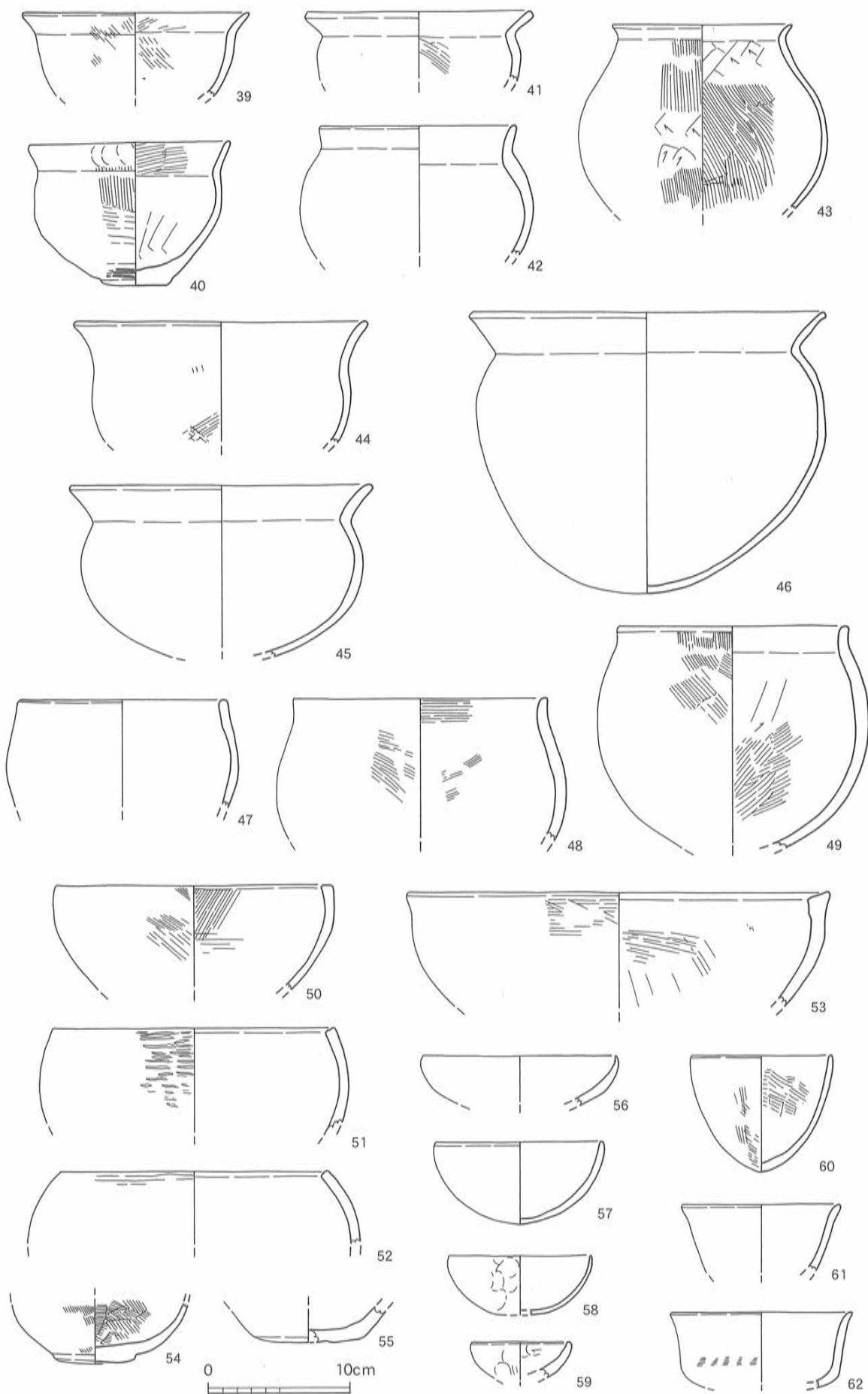
第14图 1号大溝出土土器実測図①〔1/4〕



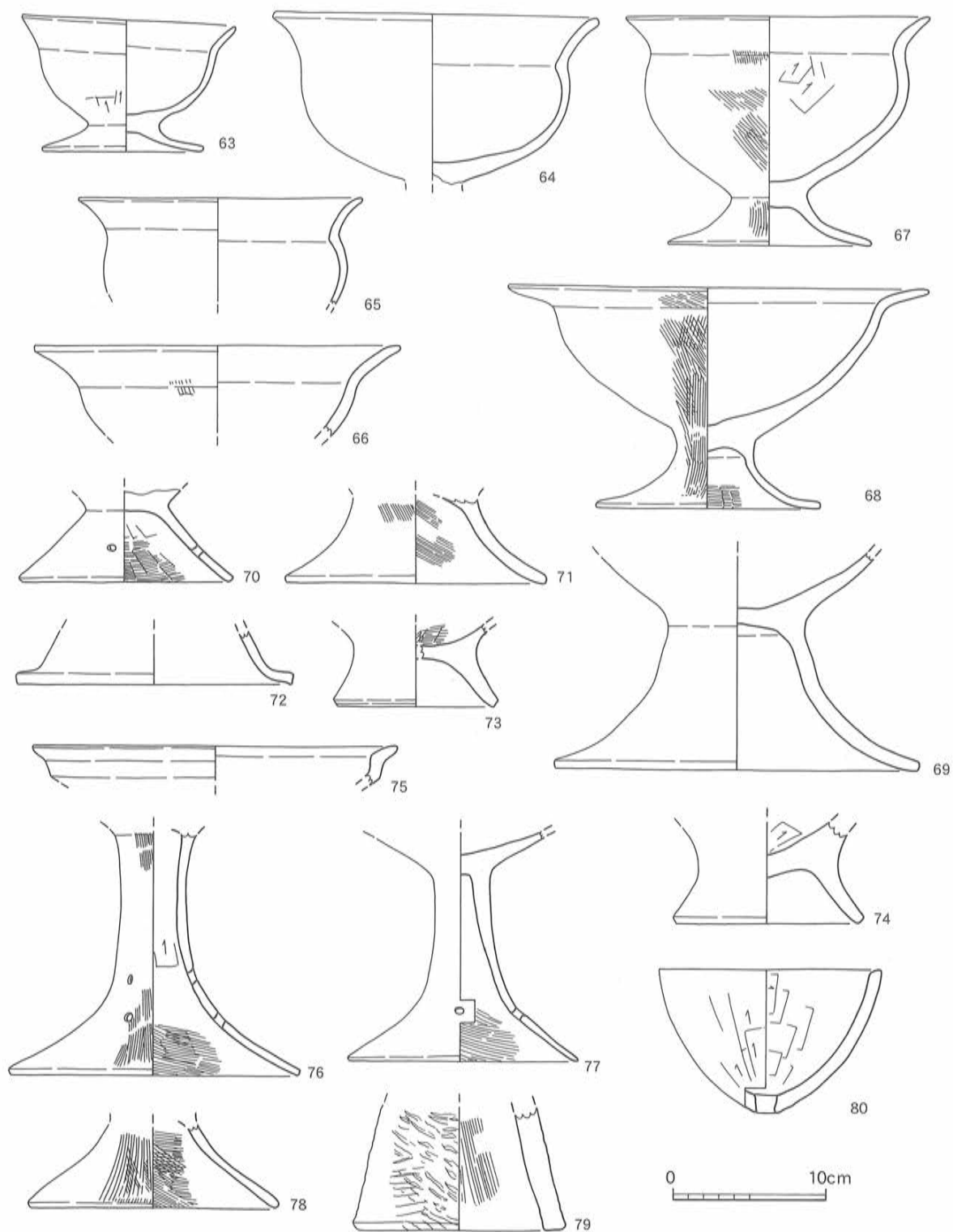
第15图 1号大沟出土土器实测图②〔1/4〕



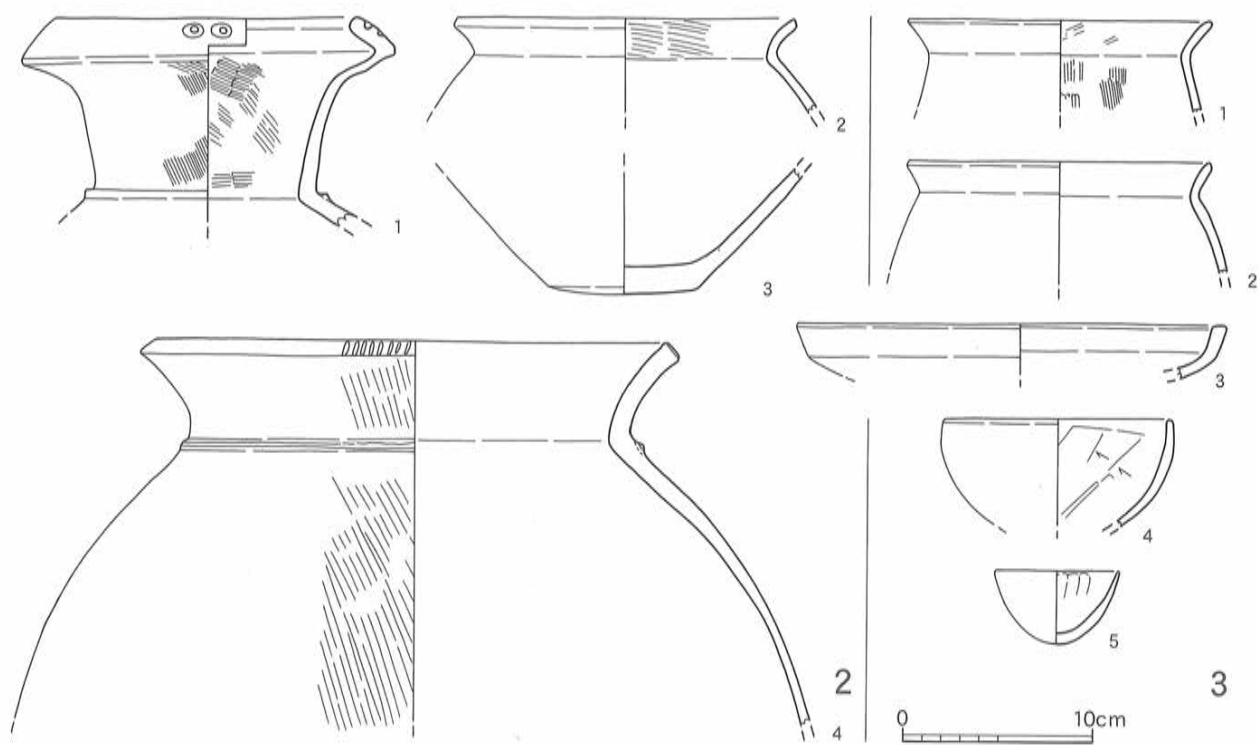
第16图 1号大溝出土土器実測図③〔1/4〕



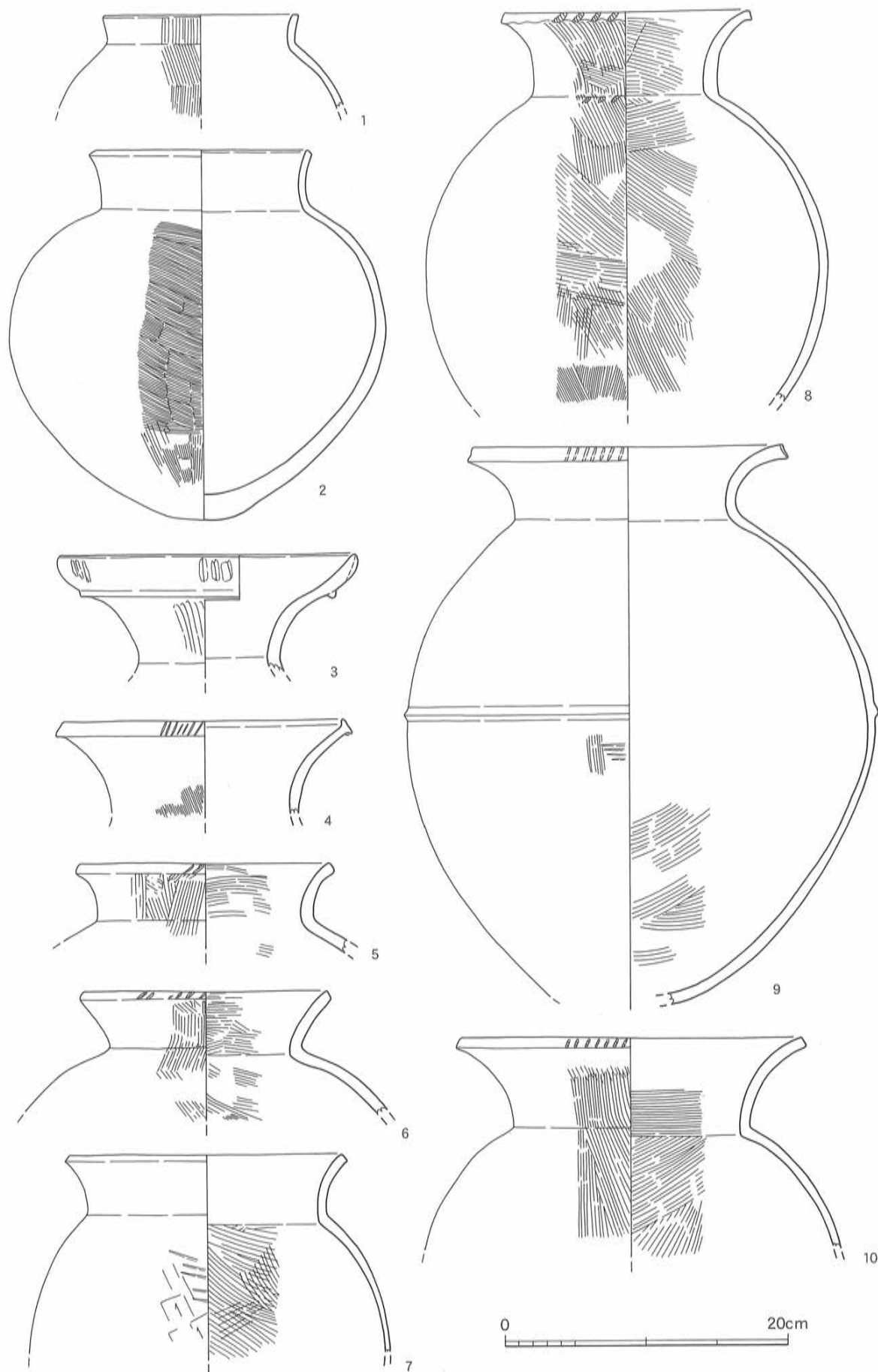
第17図 1号大溝出土土器実測図④〔1/4〕



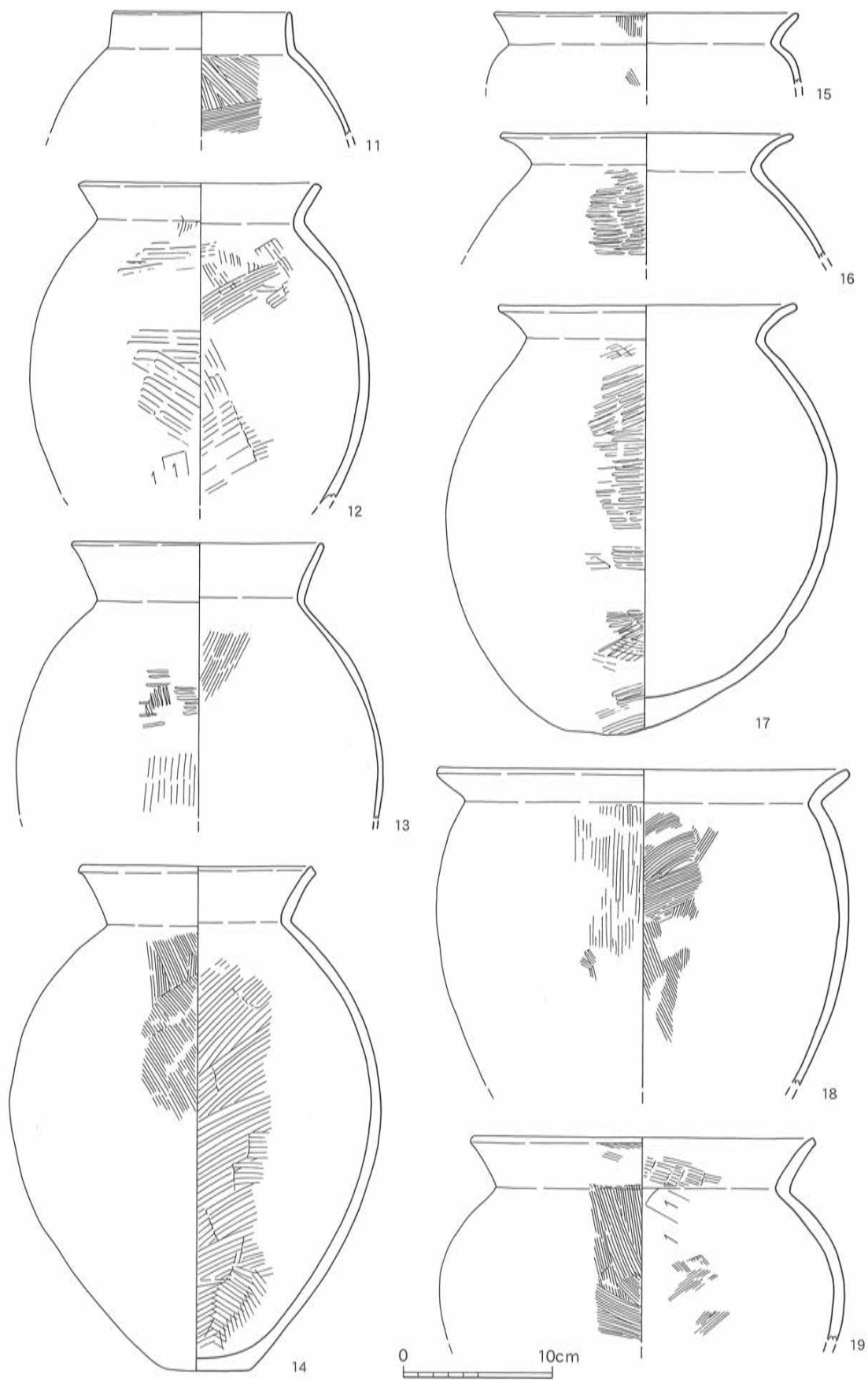
第18图 1号大沟出土土器实测图⑤〔1/4〕



第19図 2・3号大溝出土土器実測図〔1／4〕



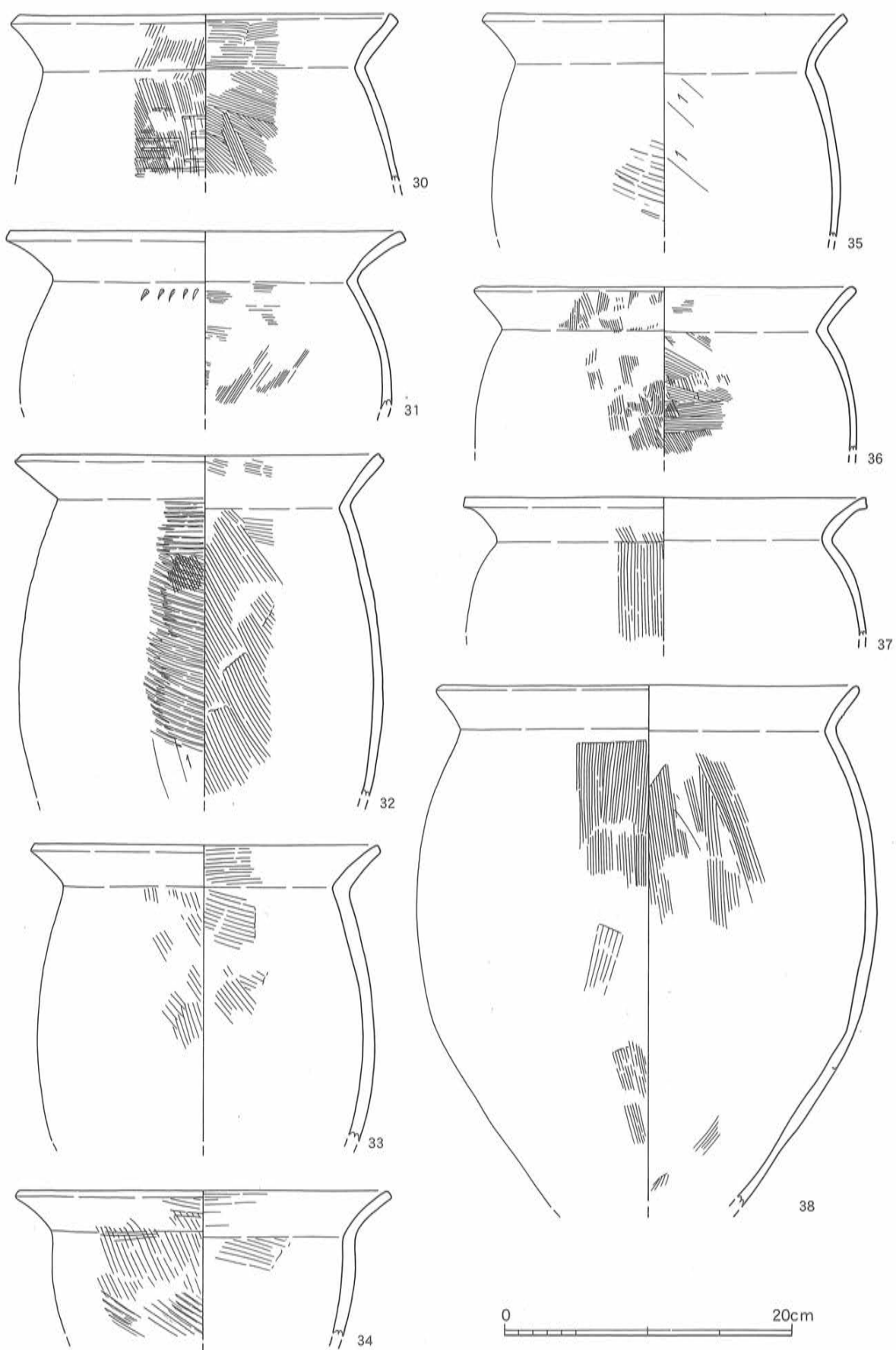
第20图 4号大溝出土土器実測図①〔1/4〕



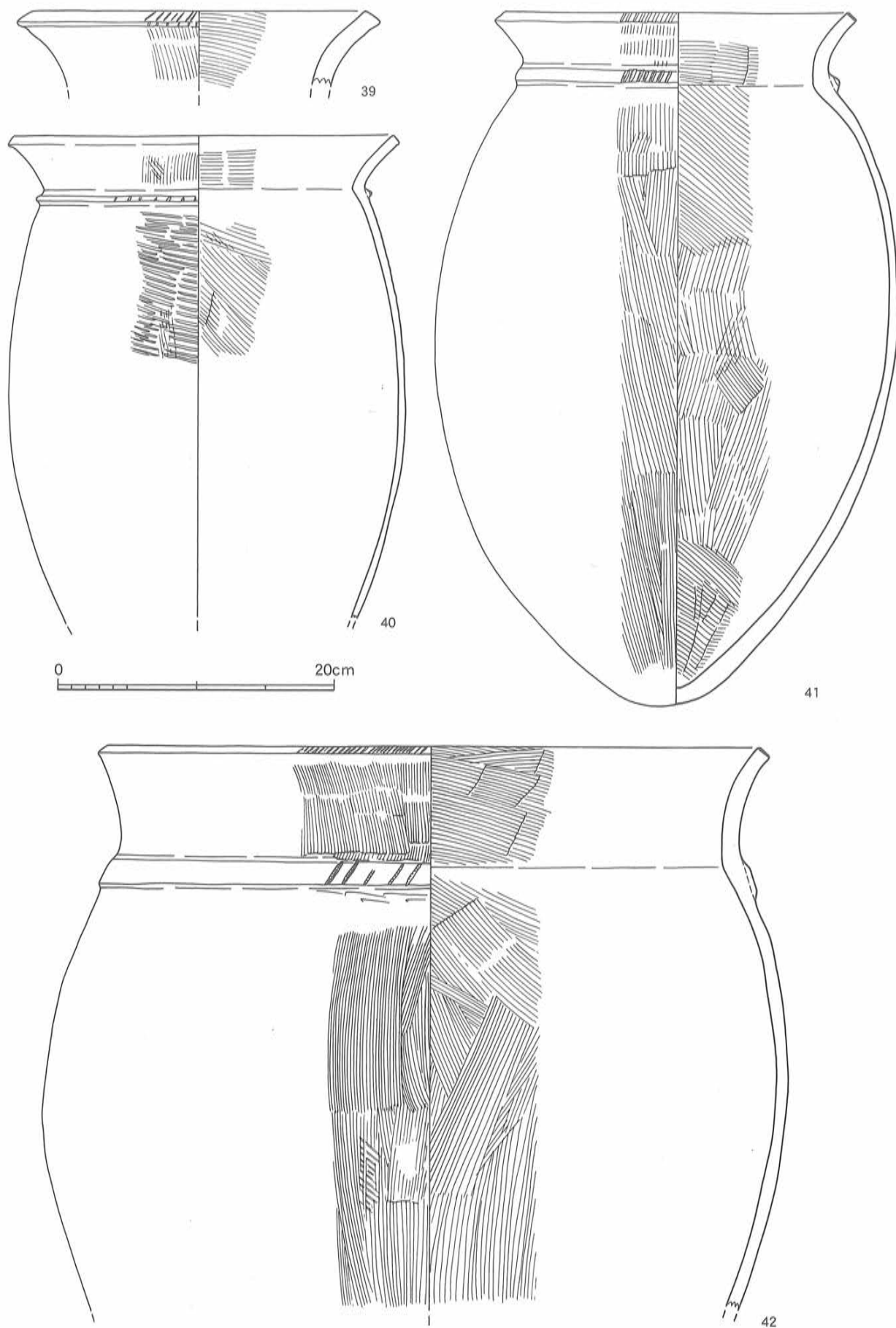
第21図 4号大溝出土土器実測図②〔1／4〕



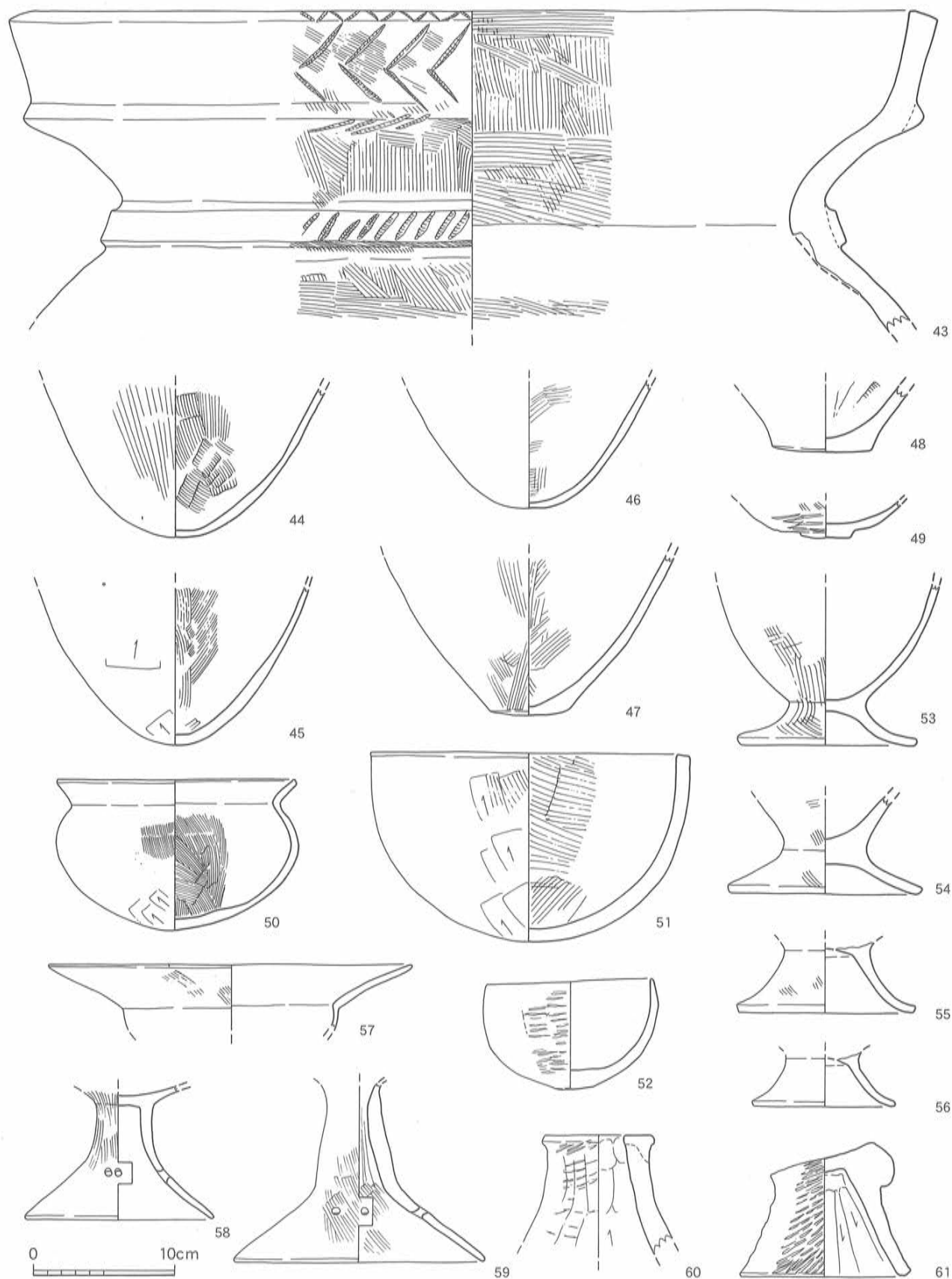
第22图 4号大溝出土土器実測图③〔1/4〕



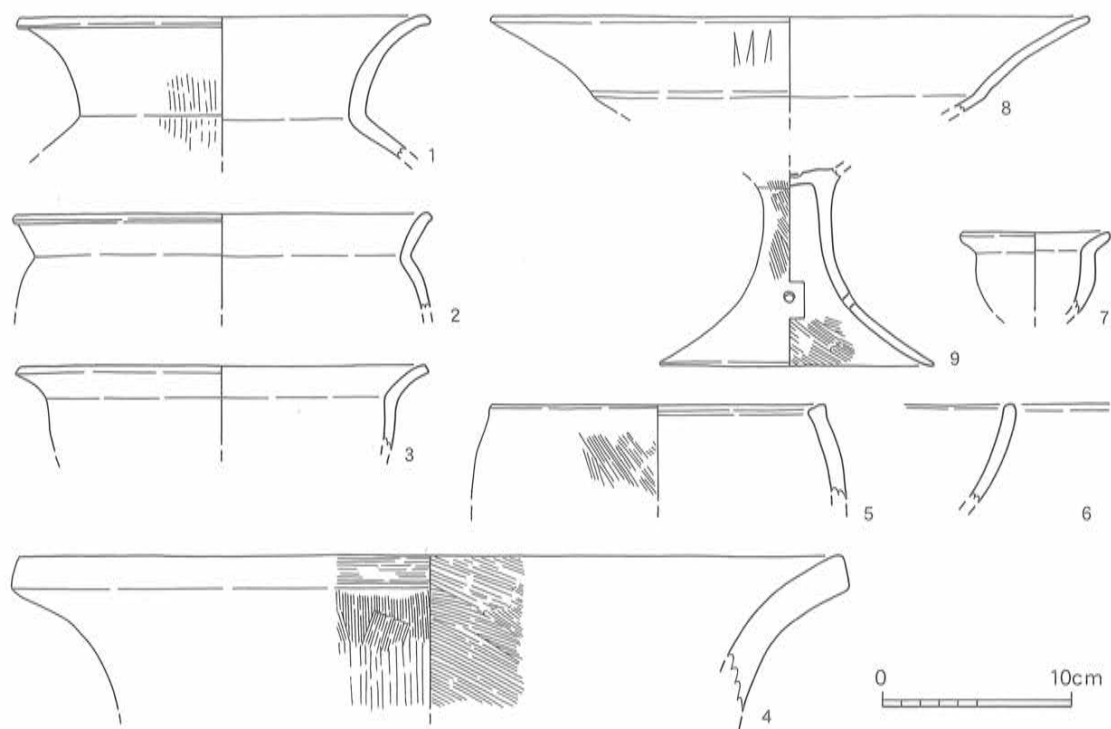
第23図 4号大溝出土土器実測図④〔1／4〕



第24図 4号大溝出土土器実測図⑤〔1／4〕



第25图 4号大溝出土土器実測図⑥〔1/4〕



第26図 試掘調査出土土器実測図〔1／4〕

2 第2次調査（1地点）

（1）調査の概要

第2次調査1地点は第1次調査地点より東側へ50mにあり既存道路の北側を幅5m、長さ約70mを調査対象とした。第2次調査1地点の標高は35m前後で周辺よりわずかに高い。検出した遺構は弥生時代後期の竪穴住居13軒、掘立柱建物2棟、土塋8基、溝2条、SX1基でいずれも調査部分が狭いため全体を把握する事はできなかった。

（2）遺構と遺物

a）竪穴住居（SB）

1. 遺構と遺物

竪穴住居は13軒を検出した。残存状態は良いが、調査区の幅が狭いために、ほとんどの住居で住居の一部分しか確認できなかった。

2号竪穴住居（SB02）（第28図、図版13-1）

竪穴住居は北壁に接しており棟方向は不明。南北の長さ3.4m以上、東西の長さ3.8mである。全体に床面まで壁は5～15cm程度残っている。床面より炉とピットを検出、東側にベッドを付設している。出土遺物としては甕細片が出土しているが実測不可。

3号竪穴住居（SB03）（第28図、図版13-2・14-1）

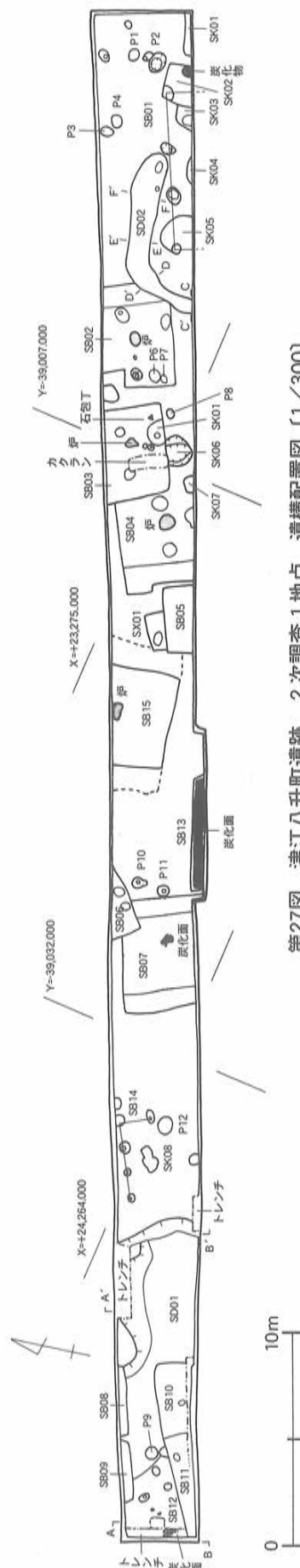
竪穴住居は北壁に接しており棟方向は不明。南北の長さ3.1m以上、東西の長さ4.1mである。SK06を切っている。全体に床面まで壁は6～7cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、炉、ピット、住居内土塋（SK01）、直径1.1m深さ40cm）を検出。出土遺物としては土器が椀、鉢、甕が、石製品として完形の石包丁が出土している。

4号竪穴住居（SB04）（第28図、図版14-2）

竪穴住居は南壁に接し、又東側はSB03に切られており、大きさは不明。壁の残りは良く15cm程度残っている。住居内には炉、ピットを検出、西側にベッドを付設している。床面はほぼ平坦で、柱穴は直径約40cmと良く残っており、主軸となる柱穴は東西方向にある。出土遺物はほとんどない。

5号竪穴住居（SB05）

竪穴住居は南壁に接し、又北側はSX01を切っている。南北の長さ1.4m以上、東西の長さ3.1mである。壁面は2～5cmと残りが悪



第27図 津江八升町遺跡 2次調査1地点 遺構配置図 (1/300)

い。出土遺物はほとんどない。

6号竪穴住居（SB 06）

竪穴住居は北壁に接し、一部分しか検出出来なかった。棟方向、住居の規模共に不明である。SB 07を切っており床面まで壁は20cm程度残っていた。住居の南側より隅に固まって土器が出土した。出土遺物として、甕、器台等が出土している。

7号竪穴住居（SB 07）（第28図、図版15-1）

竪穴住居は南壁に接しており北東の角はSB 06に切られている。東西の長さは5.3m、南北3m以上と大型の住居である。床面まで壁は20cm程度残っている。柱穴の残りは悪いが、2本柱で、主軸はほぼ東西方向になると思われる。住居の東西両側にベッドを付設し、中央に炭化面を検出。出土遺物として土器、壺、鉢、甕、ミニチュア土器が出土している。

8号竪穴住居（SB 08）（図版15-2）

竪穴住居は北壁に接し、住居の一部分しか検出できず住居の規模、棟方向は不明。住居の床面まで壁は10cm程度残っている。出土遺物として、壺が出土している。

9号竪穴住居（SB 09）（図版15-2）

竪穴住居は北壁に接し、住居の一部分しか検出できず住居の規模、棟方向は不明。出土遺物はほとんどない。

10号竪穴住居（SB 10）（図版15-2）

竪穴住居は南壁に接し西側をSB 11と切り合っていて住居の新旧、規模、棟方向は不明。床面まで壁は10cm程度しか残っていない。出土遺物として、土器はわずかにしか出土しなかったが、蓋、甕、壺等が出土している。

11号竪穴住居（SB 11）（図版15-2）

竪穴住居は南壁と西壁に接し東側をSB 10と切り合っていて、住居の規模、棟方向は不明。床面まで壁は10cm程度しか残っていない。出土遺物として、土器はわずかにしか出土しなかったが、甕の底部等が出土している。

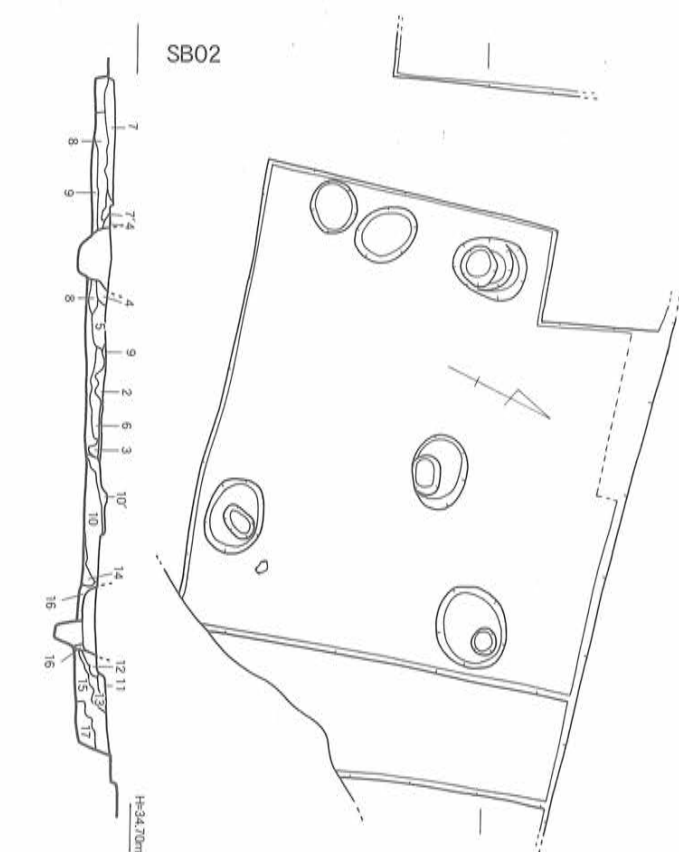
12号竪穴住居（SB 12）（図版15-2）

竪穴住居は北壁と西壁に接し南側をSB 11と切り合っていて住居の規模、棟方向は不明。床面まで壁は10cm程度しか残っていない。住居内に数個のピットを検出したが柱穴になるかは不明。出土遺物はほとんどない。

13号竪穴住居（SB 13）（図版16-1）

竪穴住居は南壁に接し、住居の一部分しか検出できないが、東西の長さは5.4m以上あると思われる。床一面、炭化している。（火災？）床面まで壁は10cm程度しか残っていない。出土遺物は少ないが、甕の口縁部が出土している。

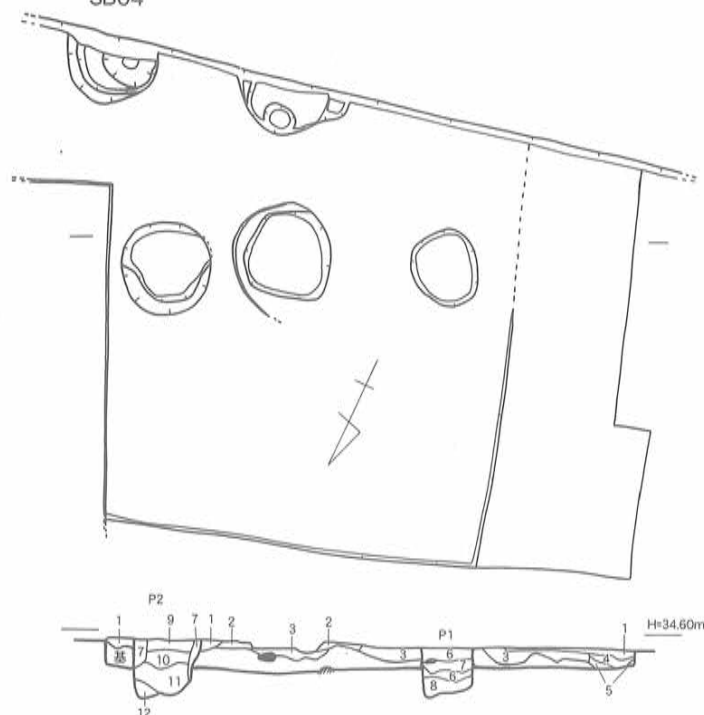
SB02



1. 淡茶灰色砂質土
2. 淡茶灰色砂質土 (茶気味)
3. 淡茶灰色砂質土 (淡茶気味)
4. 暗茶淡灰色砂質土 ビット埋り方?
5. 淡茶淡灰色砂質土
6. 淡茶淡灰色砂質土 (若干茶色気味)
7. 淡黒茶淡灰色砂質土 (少量の炭化物含有) ベット状構成土
8. 暗茶淡灰色砂質土 (4層より黄灰色気味)
9. 淡茶灰色砂質土

10. 暗灰色礫層
- 10'. 暗灰色中砂
11. 暗茶灰色砂質土 (微量の炭化物含有)
12. 茶灰色中砂
13. 茶灰色中砂 (若干砂質土気味)
14. 淡黒灰色中砂
15. 暗灰色中砂+礫
16. 暗灰砂質土 (やや暗茶色気味) ビット埋り方?
17. 暗灰色礫層

SB04

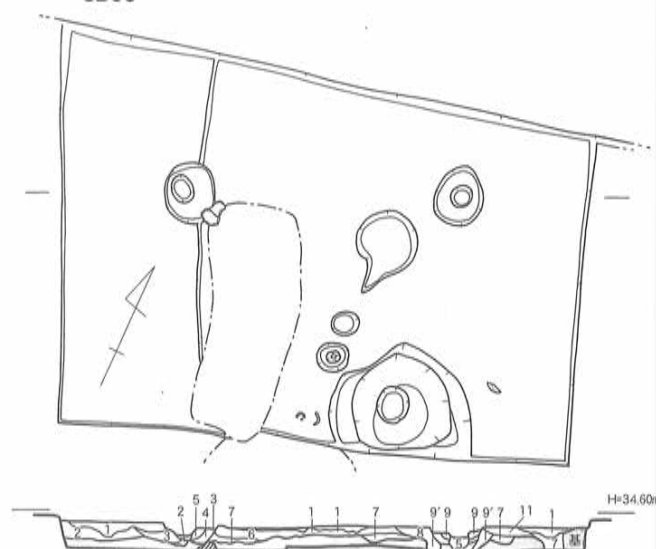


1. 灰褐色細砂、黄色土、マンガン粒 (1~1.5cm)まじる
2. 白灰色荒砂 (3より荒い) にマンガン微小粒少量入る
3. 白灰色荒砂に茶色土まじる
4. 白灰色粘質土に、こげ茶色土少しまじる
5. こげ茶色土
6. 茶色砂質土+灰褐色細砂

7. 灰褐色砂 (少し荒い)
8. 灰褐色砂+小石 (荒い)
9. 茶色砂質土+灰褐色細砂
10. 茶色砂質土+灰褐色細砂 (9より砂量少ない)
11. 茶色砂質土+灰褐色細砂 (砂量微量)
12. 7+小石
- 基. 白灰色荒砂



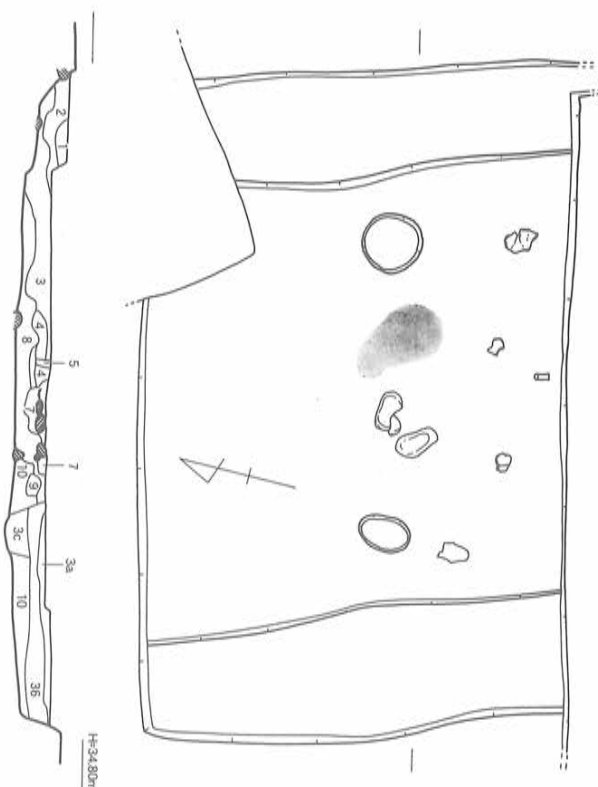
SB03



1. こげ茶色土と黄白色パウダー砂まじる
2. 灰褐色荒砂と黄茶色土まじる
3. 灰褐色砂に茶色土粒状に入る
4. 3より茶色土多く入る
5. こげ茶色土
6. 黄色土に灰褐色細砂まじる

7. 灰褐色砂にこげ茶色土まじる
8. こげ茶色土と黄灰色細砂まじる
9. 黄灰色細砂 (9'とは茶色筋で分かれている)
10. こげ茶色土に白灰色細砂少しまじる
11. 黄灰色細砂
- 基. 白灰色細砂

SB07



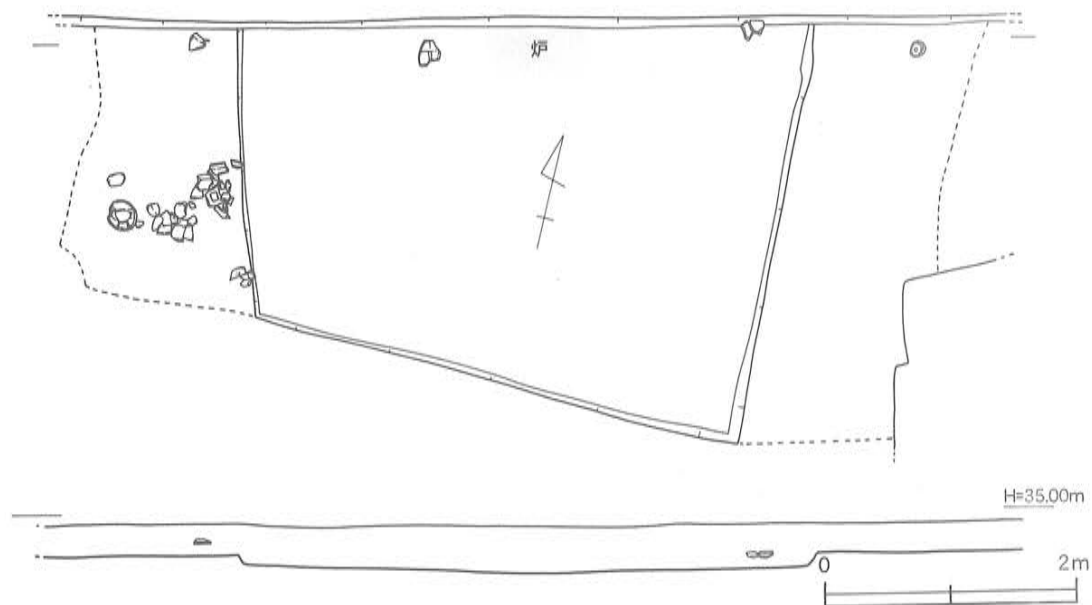
1. 淡黄茶色砂質土
2. 淡黄茶色砂質土 (やや灰黄色気味)
3. 暗灰色荒砂+暗茶灰色砂質土
- 3a. 3層より茶灰色気味
- 3b. 3層+準大の礫
- 3c. 暗茶色強い
4. 淡黄茶色砂質土

5. 淡黄茶色砂質土 (4層より若干暗い)
6. 淡黄茶色砂質土
7. 暗茶暗灰色砂質土 (土器片あり)
8. 淡黄茶色砂質土 (4層より若干茶気味)
9. 暗茶灰色砂質土 (土器片あり)
10. 淡茶暗灰色砂質土

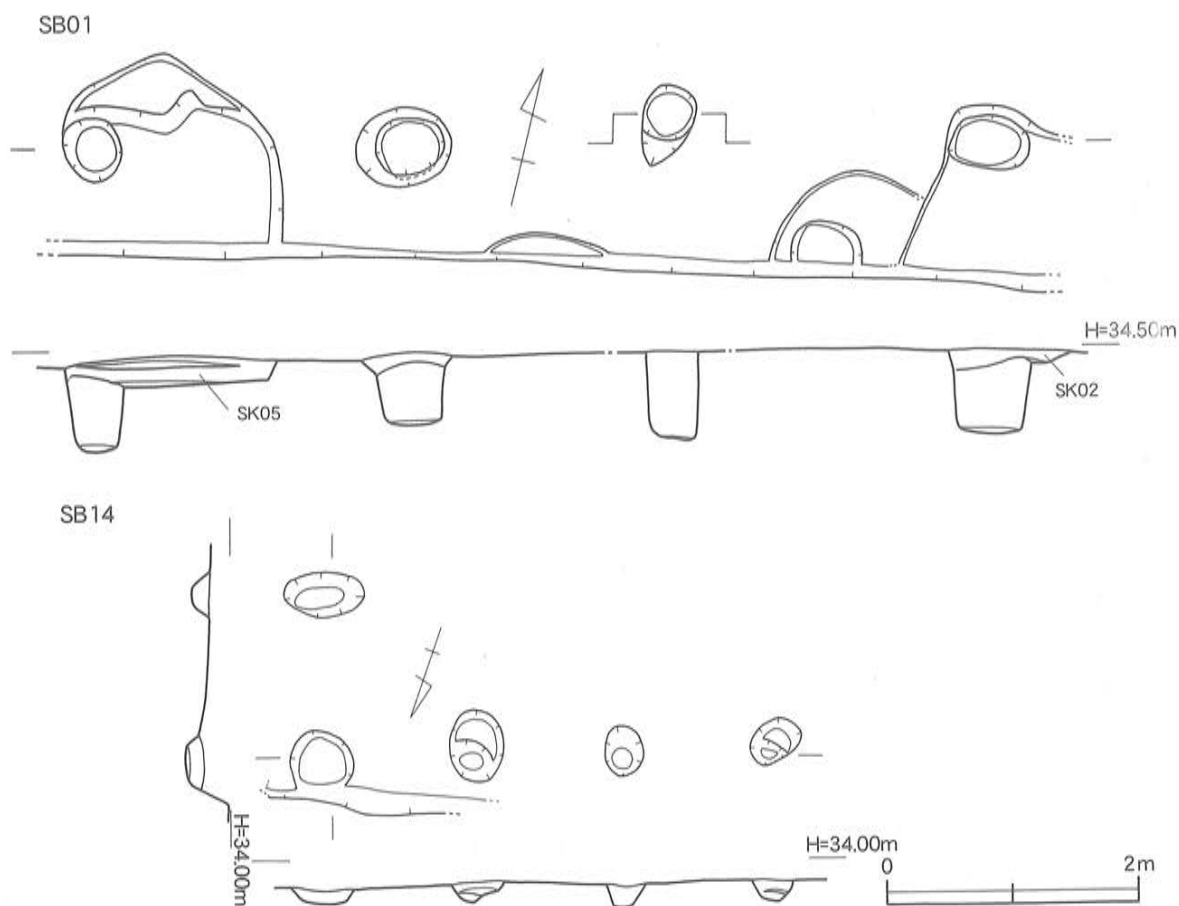
※茶灰色砂 (若干黄灰色気味) + 丸礫→基盤

河川砂利土流入を示す。

第28図 2次調査1地点 2号・3号・4号・7号竪穴住居 (SB02・03・04・07) 実測図 [1/60]



第29図 2次調査1地点 15号竪穴住居 (SB15) 実測図 [1/60]



SB14

第30図 2次調査1地点 1号・14号堀立柱建物 (SB01・14) 実測図 [1/60]

15号竪穴住居 (SB15) (第29図)

竪穴住居は北壁に接し全形はわからないが大型の住居と思われる。床面まで壁は5～6cm程度しか残っておらず柱穴も検出できなかった。東西両側にベッドを持つ可能性有。出土遺物として、甕、壺等が出土している。

b) 掘立柱建物 (SB)

掘立柱建物は調査区より2棟検出した。3間×1間以上の建物で棟方向も同じで、2棟の掘立柱建物は同時期に存在したものと思われる。遺物が出土していないため時期は不明であるが竪穴住居とほぼ同じ時期と思われる。

掘立柱建物

1号掘立柱建物 (SB 01) (第30図)

SK 02、SK 05と切り合っているが、関係は不明である。桁行の方向は、ほぼ北東-南西で3間×1間以上の建物である。建物の規模は桁行7.5m、梁行は不明で、柱穴の掘り方も一辺70cmから80cmを測る、柱痕跡は確認できないが、掘り方は深さ60cmから70cmも残っている。出土遺物はほとんどない。

14号掘立柱建物 (SB 14) (第30図、図版16-2)

3間×1間以上の建物である。建物の規模は桁行3.5m、梁行2.0m以上で、柱穴の掘り方も一辺30cmから50cmあり、柱痕跡が20cm前後ある。掘り方は、深さ15cmから20cmも残っており、掘り方内からの遺物の出土はない。

C) 土塋 (SK)

土塋は8基検出された。

土 塋

土塋は調査区のほぼ全域で8基検出された。

1号土塋 (SK 01)

南東の壁に接し、形、大きさは不明。深さは15cmを測る。出土遺物はない。

2号土塋 (SK 02)

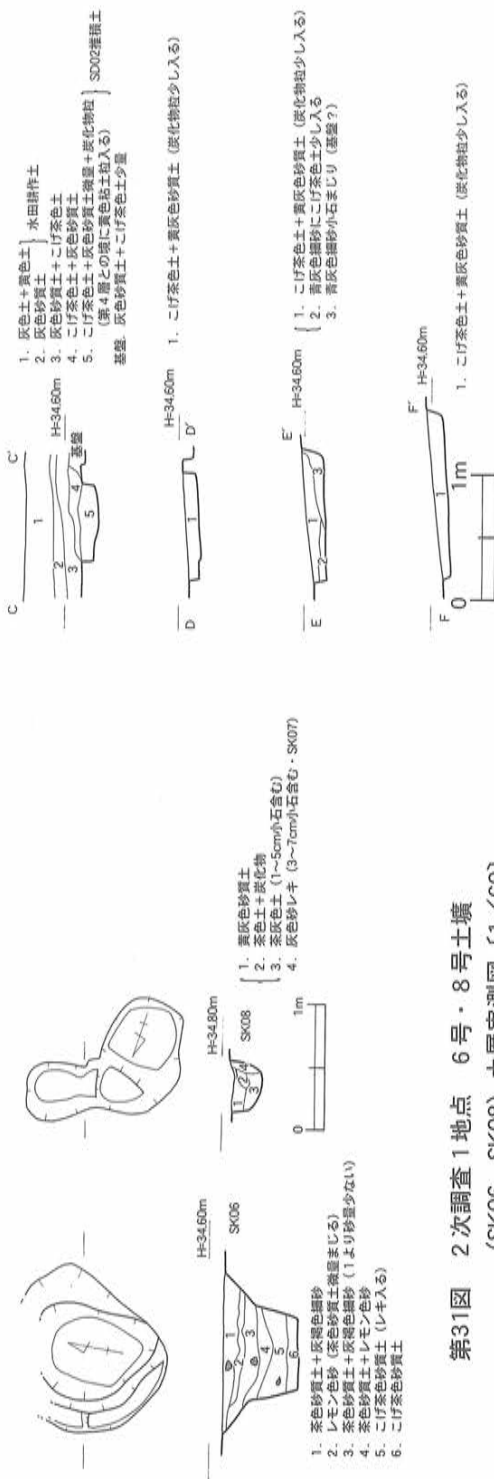
南壁に接しており形は不明。東西1.8m、南北1.2m以上。深さは5cmを測る。北西の角にSB 01の柱穴(p-1)を噛んでいる。南壁に面している所が炭化している。出土遺物はない。

3号土塋 (SK 03)

南壁に接し、SK 02に切られて、形、大きさとも不明。深さは20cmを測る。出土遺物は甕が出土している。

4号土塋 (SK 04)

南壁に接し、形、大きさは不明。深さは10cmを測る。遺物として、椀が出土した。



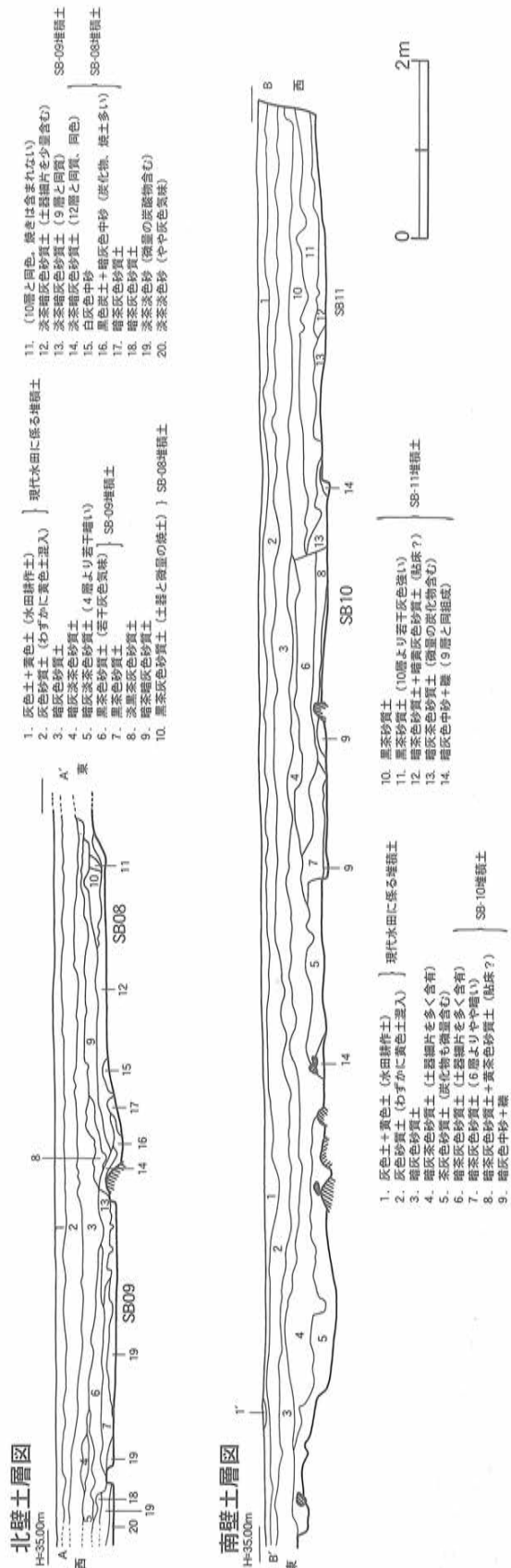
第31図 2次調査1地点 6号・8号土壇
(SK06・SK08) 土層実測図 [1/60]

5号土壇 (SK05)

南壁に接し、形、大きさは不明。北西の角をSB01の柱穴に切られる。深さは、東側で15cmを測るが西側ではSB01の柱穴に吸収されている。遺物としてはほぼ完形の椀、甕の底部が出土している

6号土壇 (SK06) (第31図)

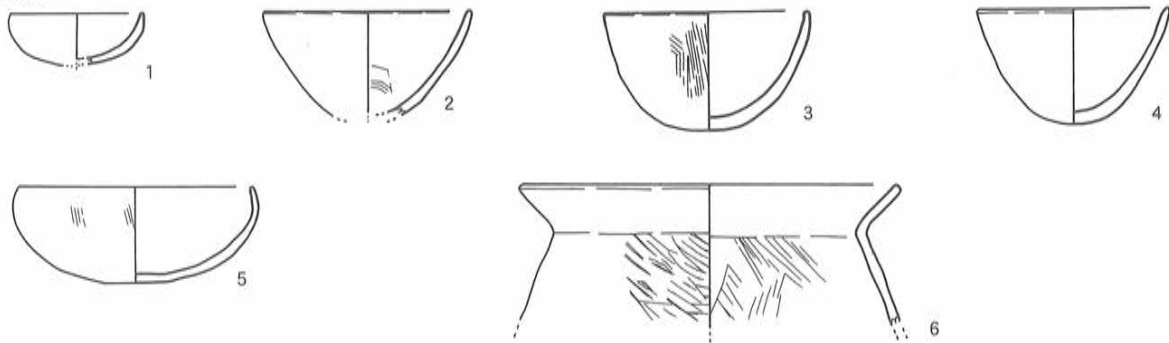
北側を一部、SB03に切られているが、直径約1.3mを測り、円形の土壇と思われる。深さは60cmとかなり深い出土遺物はない。



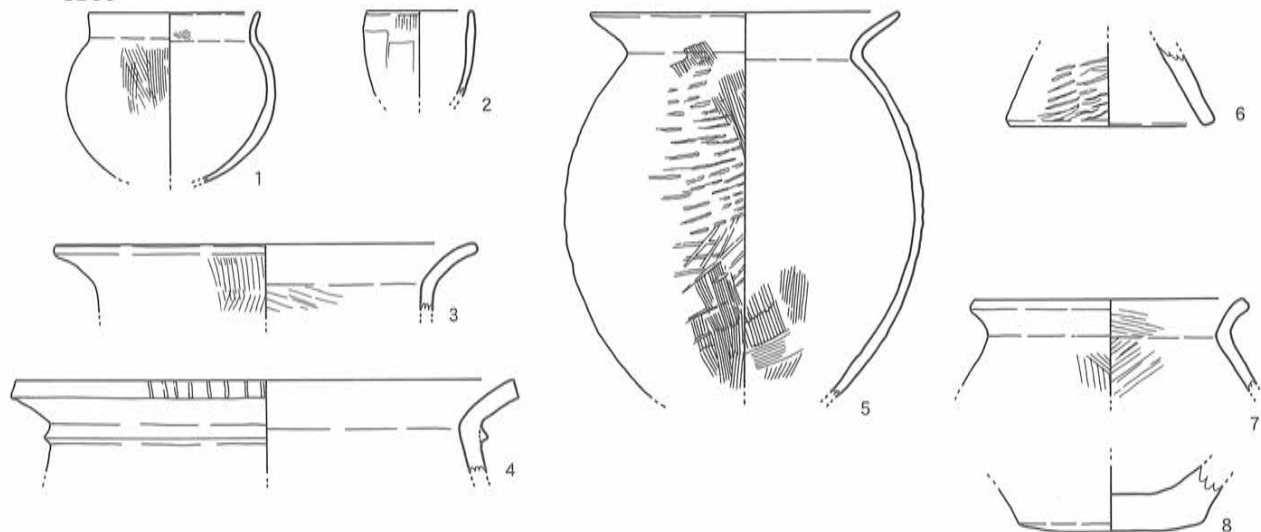
第32図 2次調査1地点 2号溝 (SD02)
土層実測図 [1/60]

第33図 2次調査1地点 北壁・南壁土層実測図 [1/80]

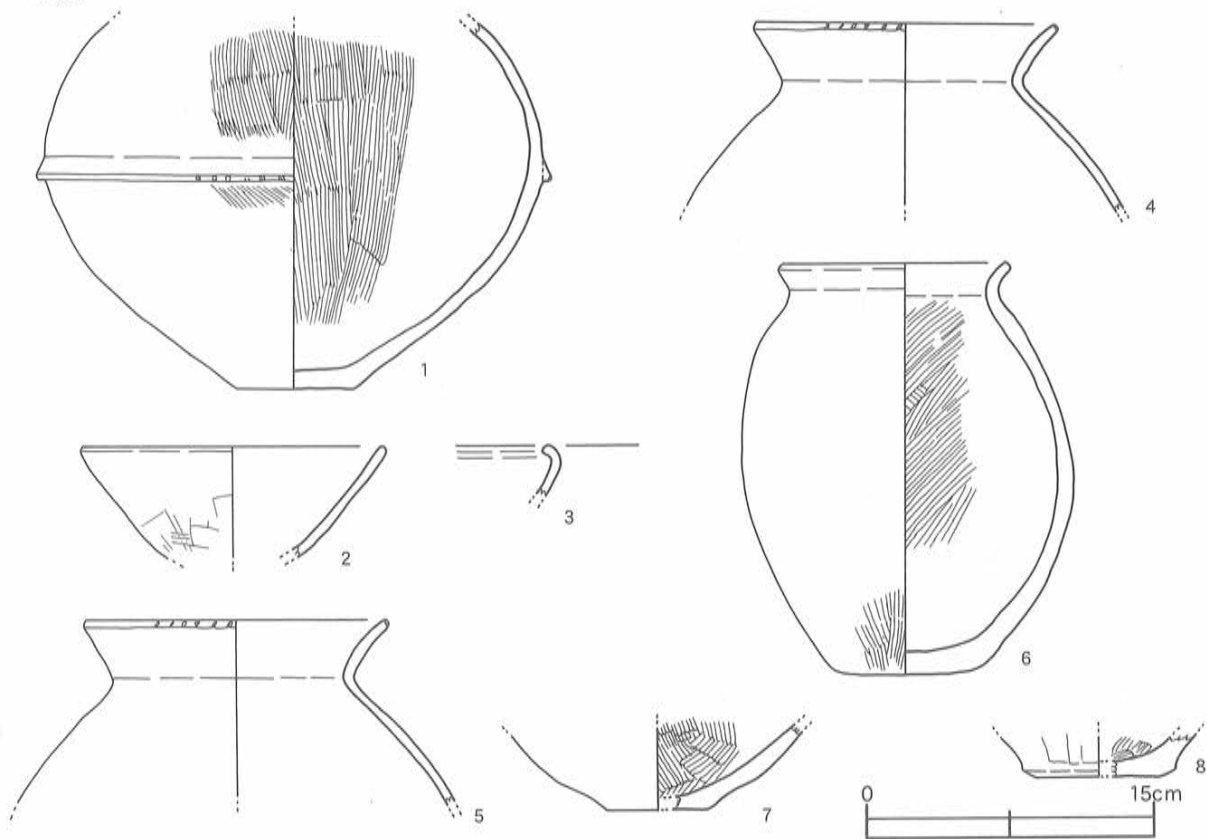
SB03



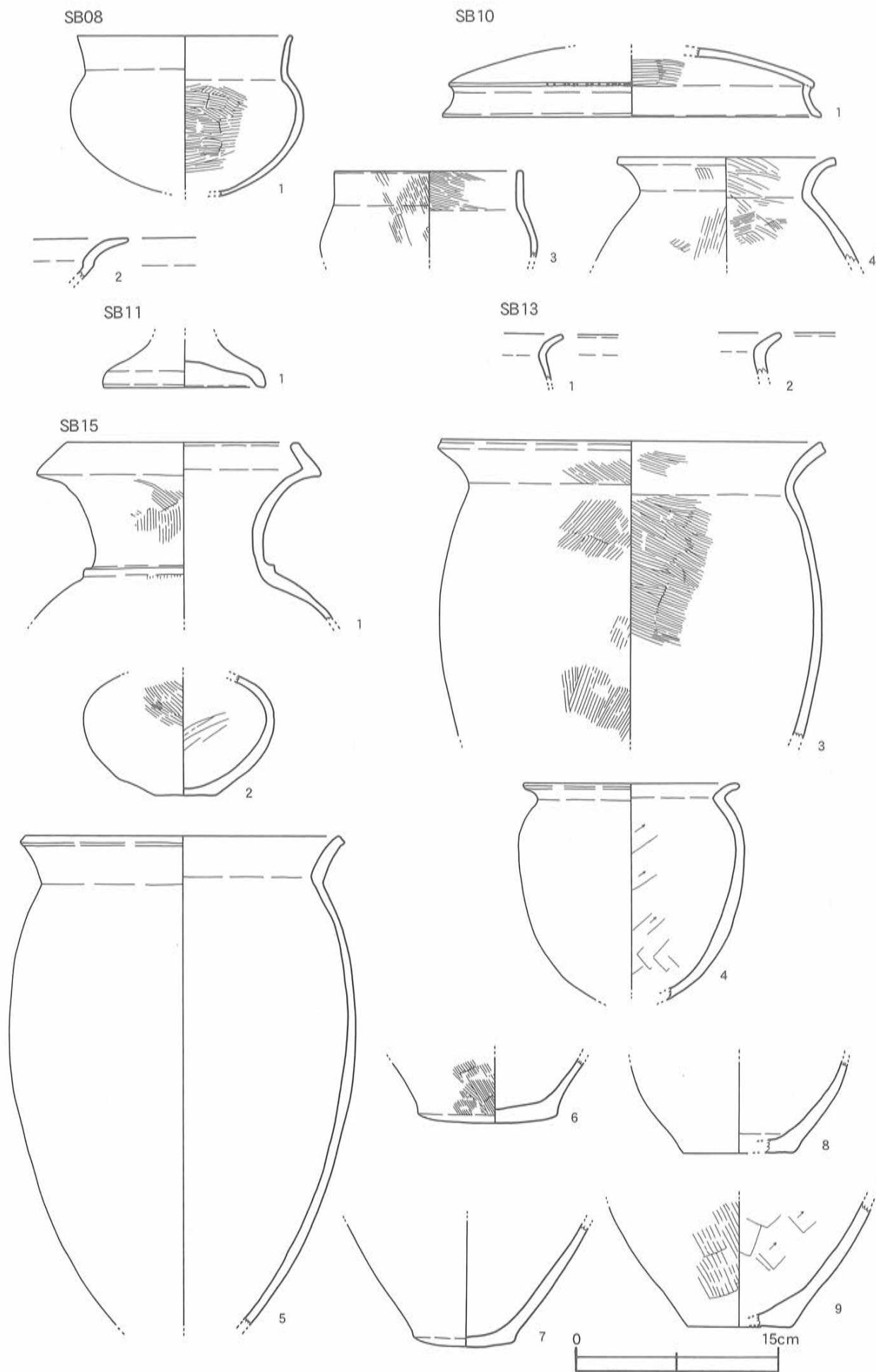
SB06



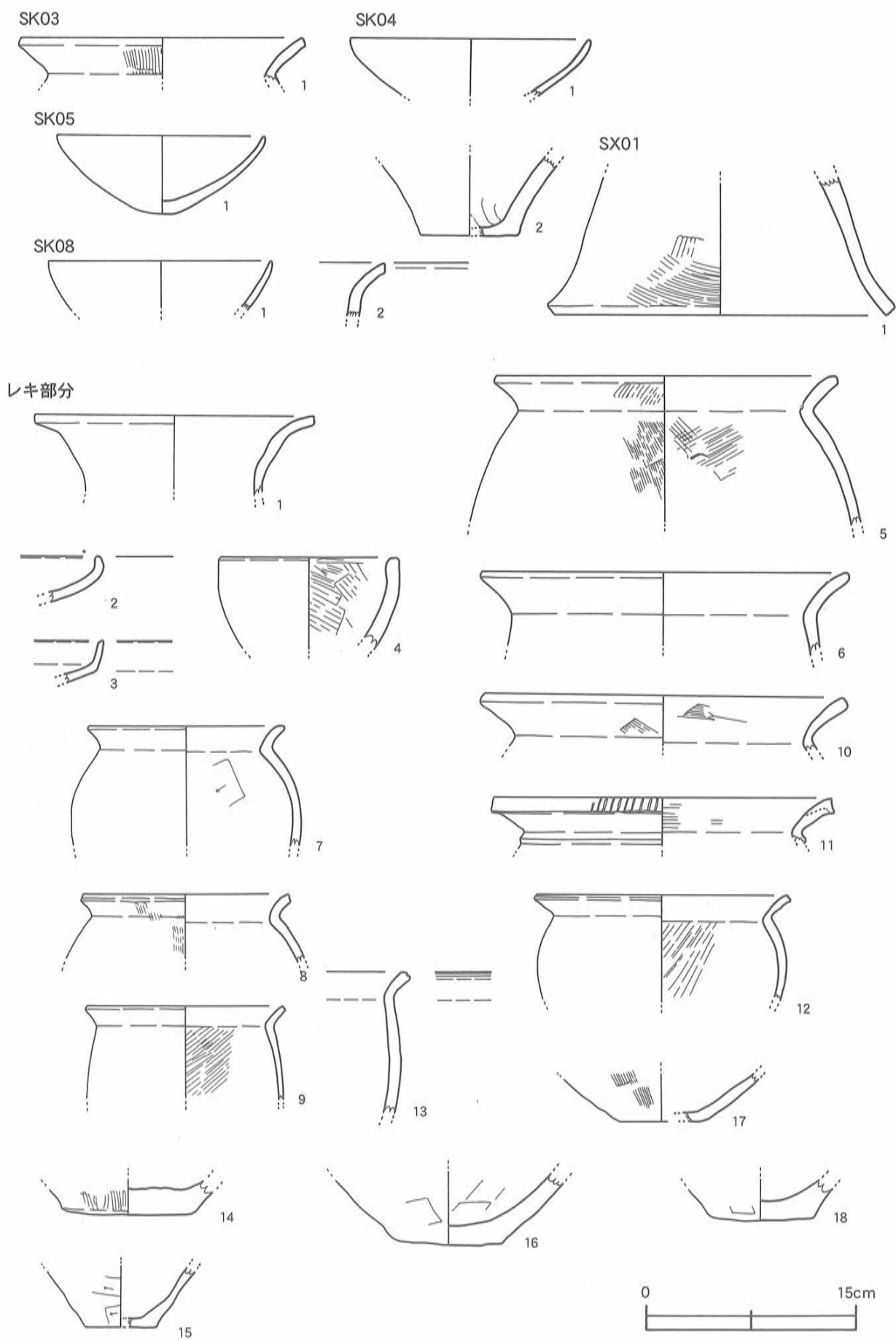
SB07



第34図 2次調査1地点 3号・6号・7号竪穴住居 (SB03・06・07) 出土土器実測図 [1/4]

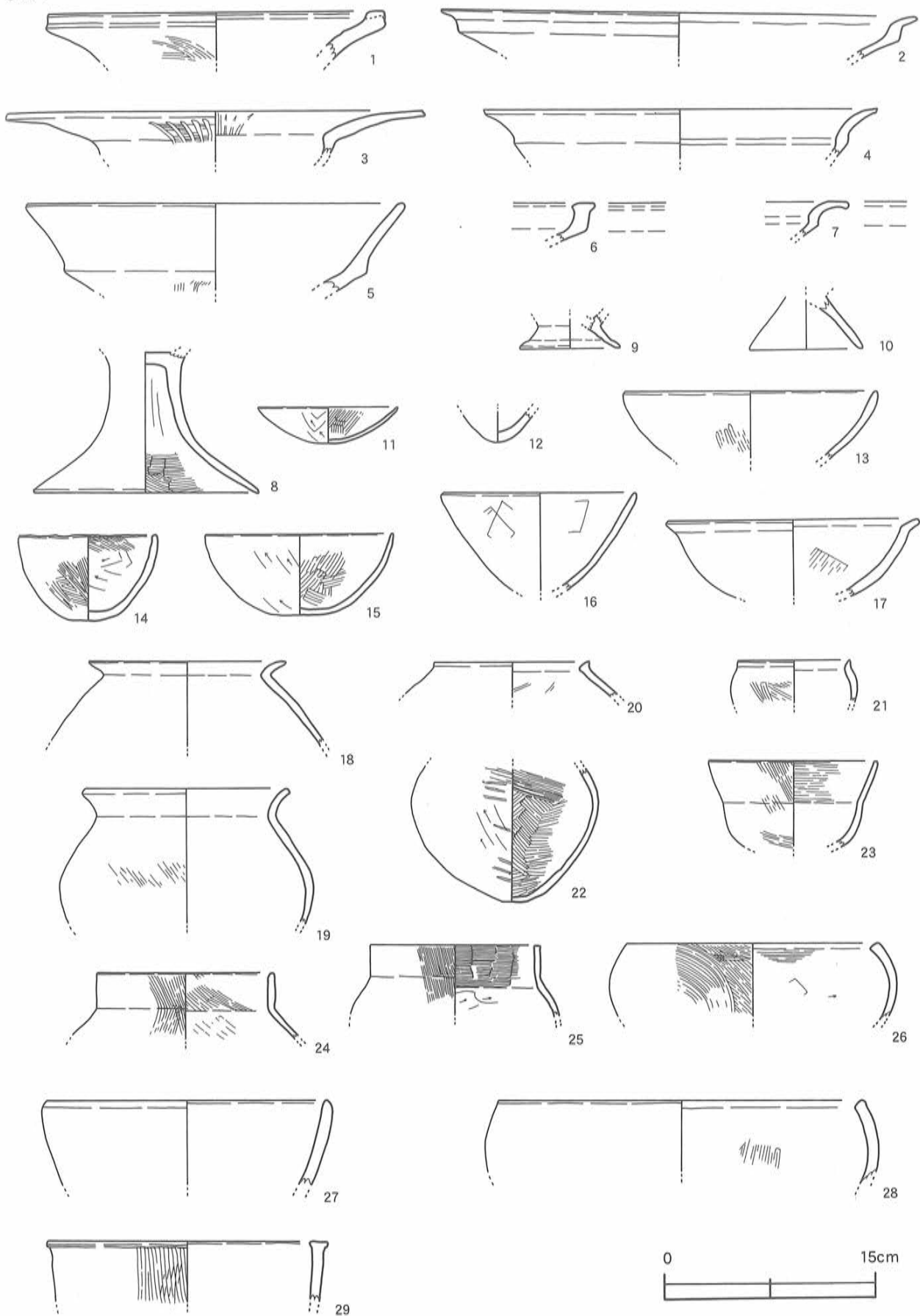


第35図 2次調査1地点 8号・10号・11号・13号・15号 竪穴住居 (SB08・10・11・13・15) 出土土器実測図〔1/4〕



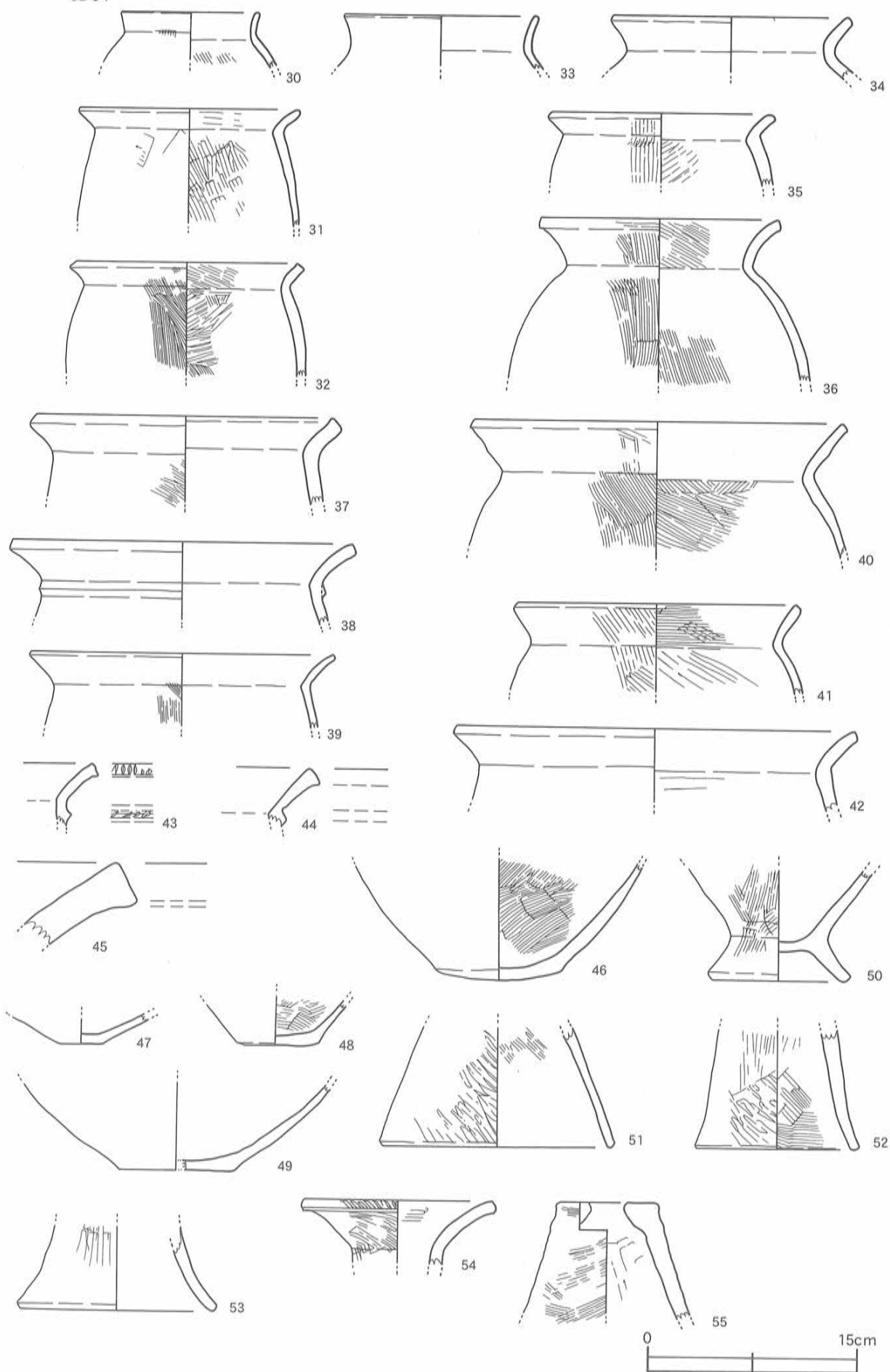
第36図 2次調査1地点 3号・4号・5号・8号土坑 (SK03・04・05・08) 不明遺構(SX01) レキ部分 出土土器実測図 (1/4)

SD01

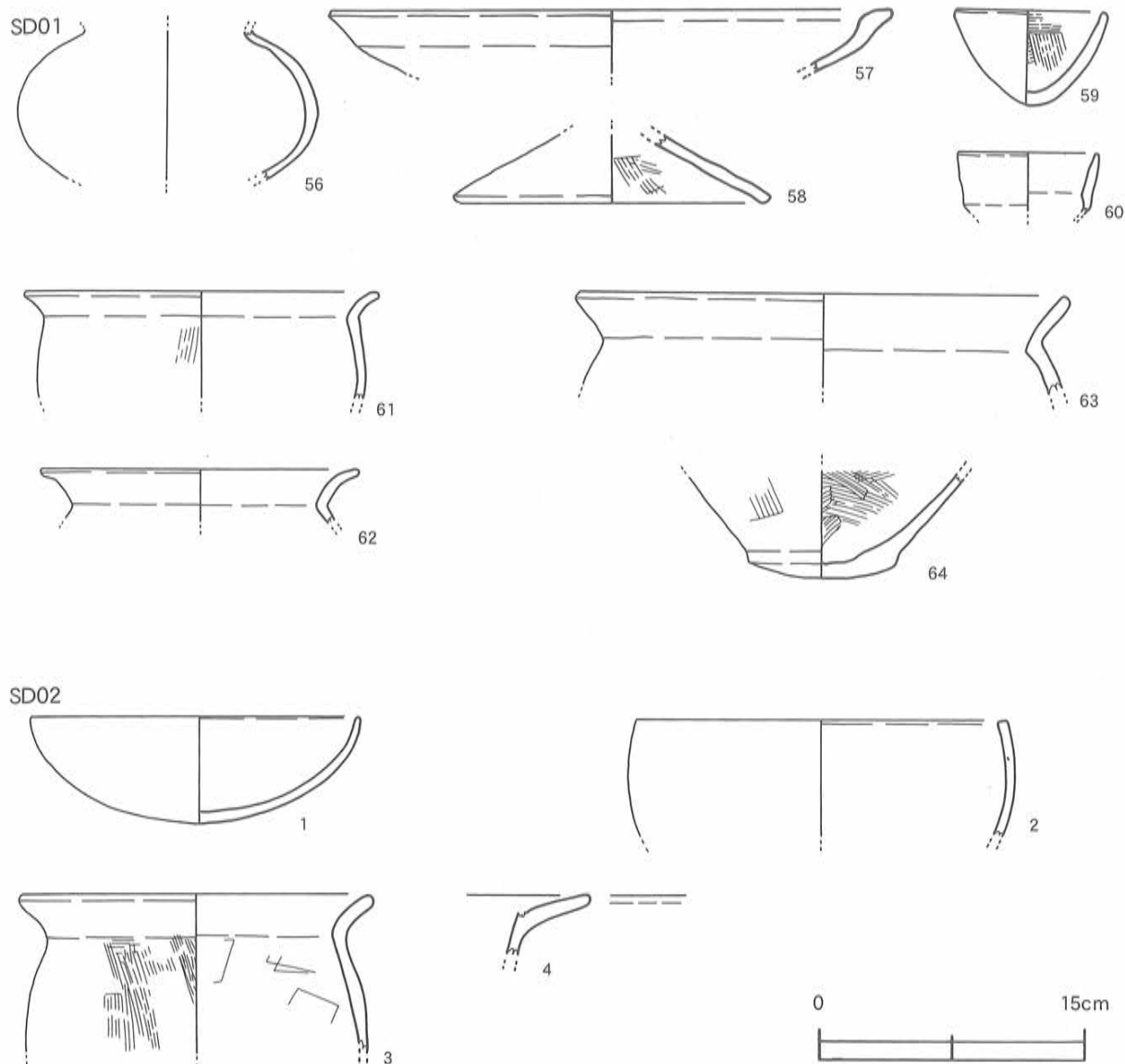


第37図 2次調査1地点 1号溝 (SD01) 出土土器実測図 [1/4]

SD01



第38図 2次調査1地点 1号溝 (SD01) 出土土器実測図 [1/4]



第39図 2次調査1地点 1号・2号溝 (SD01・SD02) 出土土器実測図 [1/4]

7号土坑 (SK 07)

南壁に接し、形、大きさは不明。深さは25cmを測る。出土遺物はない。

8号土坑 (SK 08) (第31図)

東西1.2m、南北0.9mの不整形である。掘立柱建物 (SB 14) に囲まれるている。遺物として甕の細片と椀が出土した。

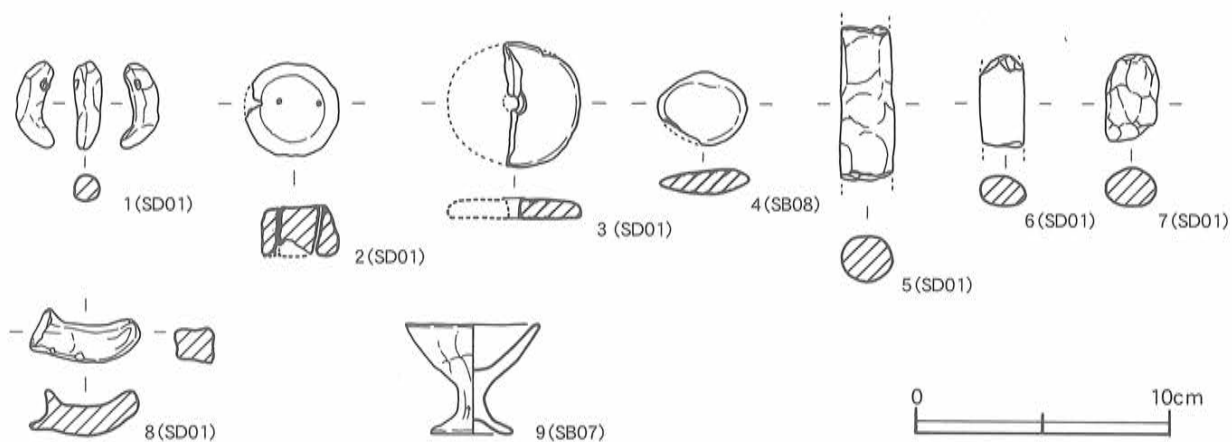
d) SX 01

SX 01

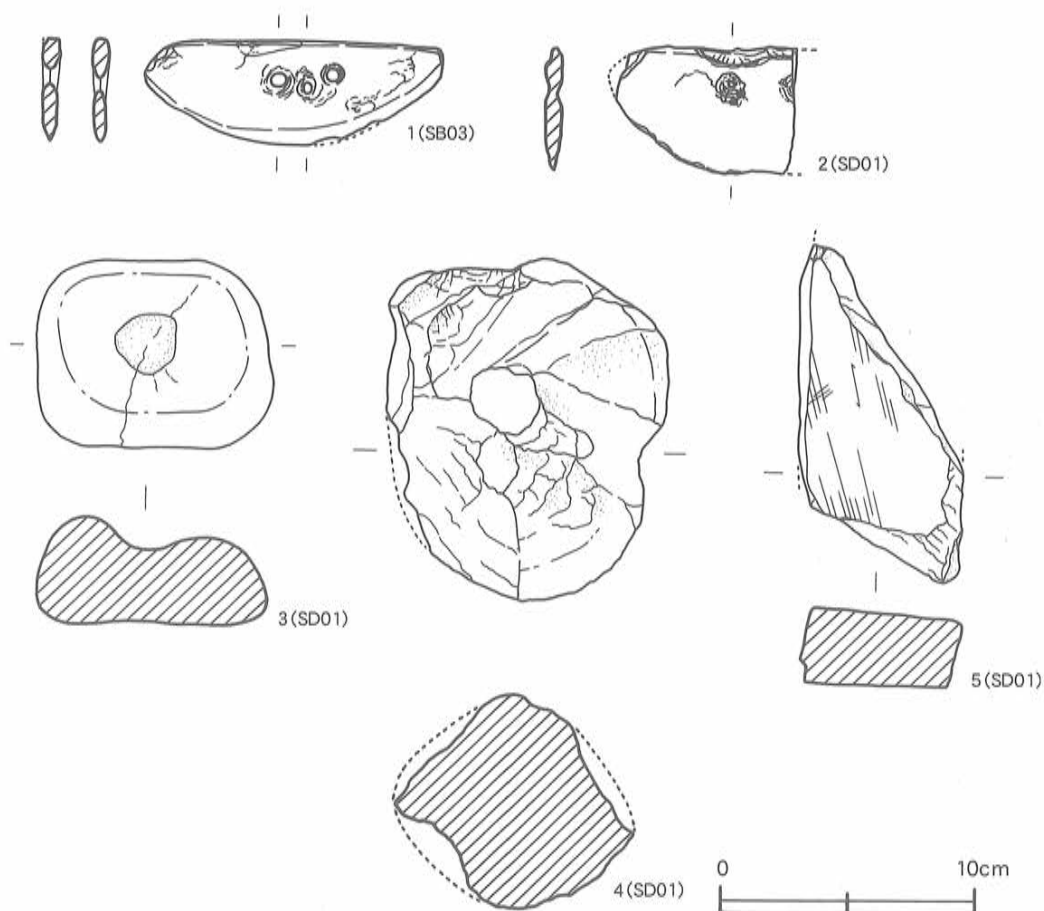
一辺約1.5mの方形で北側でSB 05によって切られ、深さ1m、遺物は出土していない。

e) 溝

調査区より2条の溝が検出された。



第40図 2次調査1地点 7号・8号竪穴住居 (SB07・08) 1号溝 (SD01) 出土土製品実測図 [1/3]



第41図 2次調査1地点 3号竪穴住居 (SB03) 1号溝 (SD01) 出土石製品実測図 [1/3]

1号溝 (SD01) (図版 17-2)

溝の東側の溝壁の深さは20cm前後、西側は確認出来なかった。幅、全長も確認できない。遺物は多く土器として壺、甕、器台、高杯、埴、鉢、土製勾玉等、石器として石包丁、砥石、軽石が出土している。

2号溝 (SD02) (第32図)

SB01とSK05を取り囲む形で検出された。全長8m以上、幅1m前後。深さ5~10cmと浅い。出土遺物は少なく甕、鉢が出土している。(赤崎)

3 第2次調査（2地点）

（1）調査の概要

今回調査の結果、耕作土、旧耕作土下より整地層が検出された。整地層は厚く、上層と下層に別けることができた。上層の整地層を切り込んで竪穴住居4軒、溝1条、土塋5基、不明遺構6基と柱穴が検出された。整地層上層を掘り下げた結果、弥生式土器が出土、続いて下層面での遺構の確認を行った。整地層下層を掘り下げた結果多量の弥生式土器が出土した。下層下面で遺構を検出したところ溝状遺構1（SX07）、土塋5基、柱穴を確認した。

（2）遺構と遺物

a）竪穴住居（SB）

竪穴住居は4軒を検出した。残存状態は良いが、調査区の幅が狭いために、ほとんどの住居に住居の一部分しか確認できなかった。

1号竪穴住居（SB01）（第45図、図版21-1）

竪穴住居は南壁に接しており棟方向は不明。南北の長さ3.4m以上、東西の長さ5.8mである。全体に床面まで壁は5～15cm程度残っている。柱穴と思われるPit3個検出。深さは床面より約20cmを測る。出土遺物としては甕、高杯、壺が出土している。

2号竪穴住居（SB02）（第45図、図版21-2）

竪穴住居は北壁に接しており棟方向は不明。南北の長さ1.1m以上、東西の長さ3.8m以上である。床面まで壁は10cm程度残っている。出土遺物はない。

3号竪穴住居（SB03）（第45図、図版22-1）

竪穴住居は南壁に接しており棟方向は不明、又東側はSX06切る。南北の長さ5.0m、東西の長さ3.0m以上である。壁は床面から10cm程度残っている。出土遺物としては甕、高杯、壺、甗等が出土している。

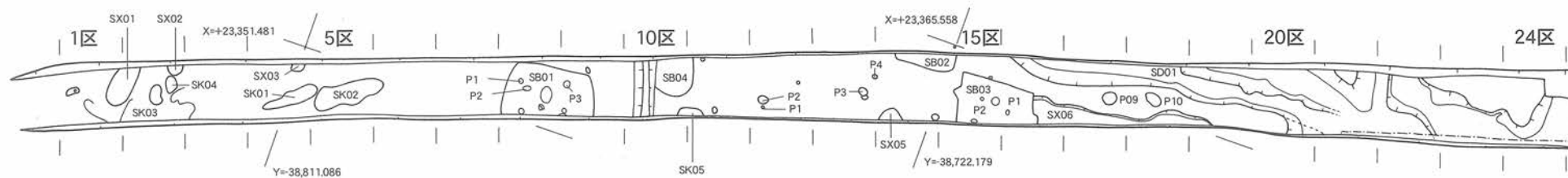
4号竪穴住居（SB04）（第45図、図版28-1）

竪穴住居は当初SX04としていたが掘り下げていく内に住居に変更した。竪穴住居は北壁に接しており棟方向は不明。南北の長さ2.5m以上、東西の長さ6.5mである。壁面は西側で15cm東側では40cmを測る。出土遺物は甕、高杯、壺等が出土している。

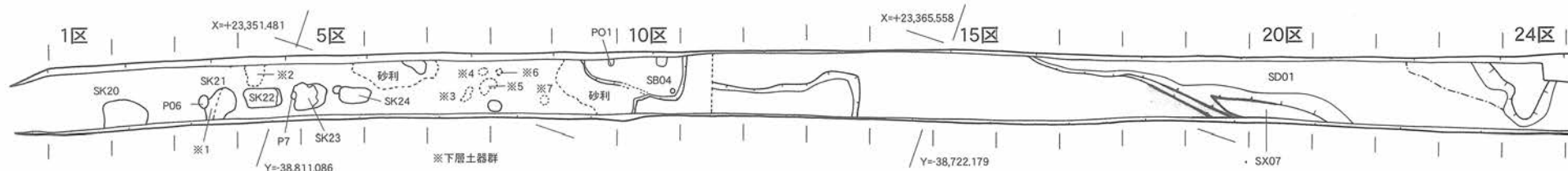
b）土塋（SK）

土塋は整地層上層で5基（SK01～SK05）、下層で5基（SK20～SK21）が検出された。

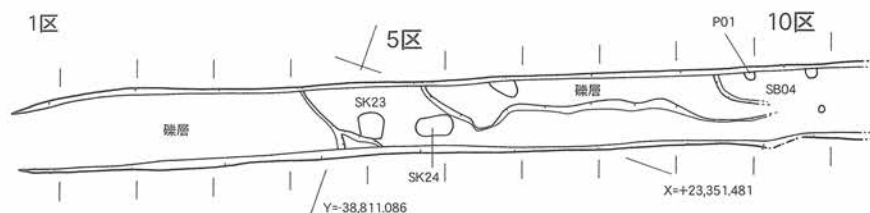
整地層上層下面検出遺構



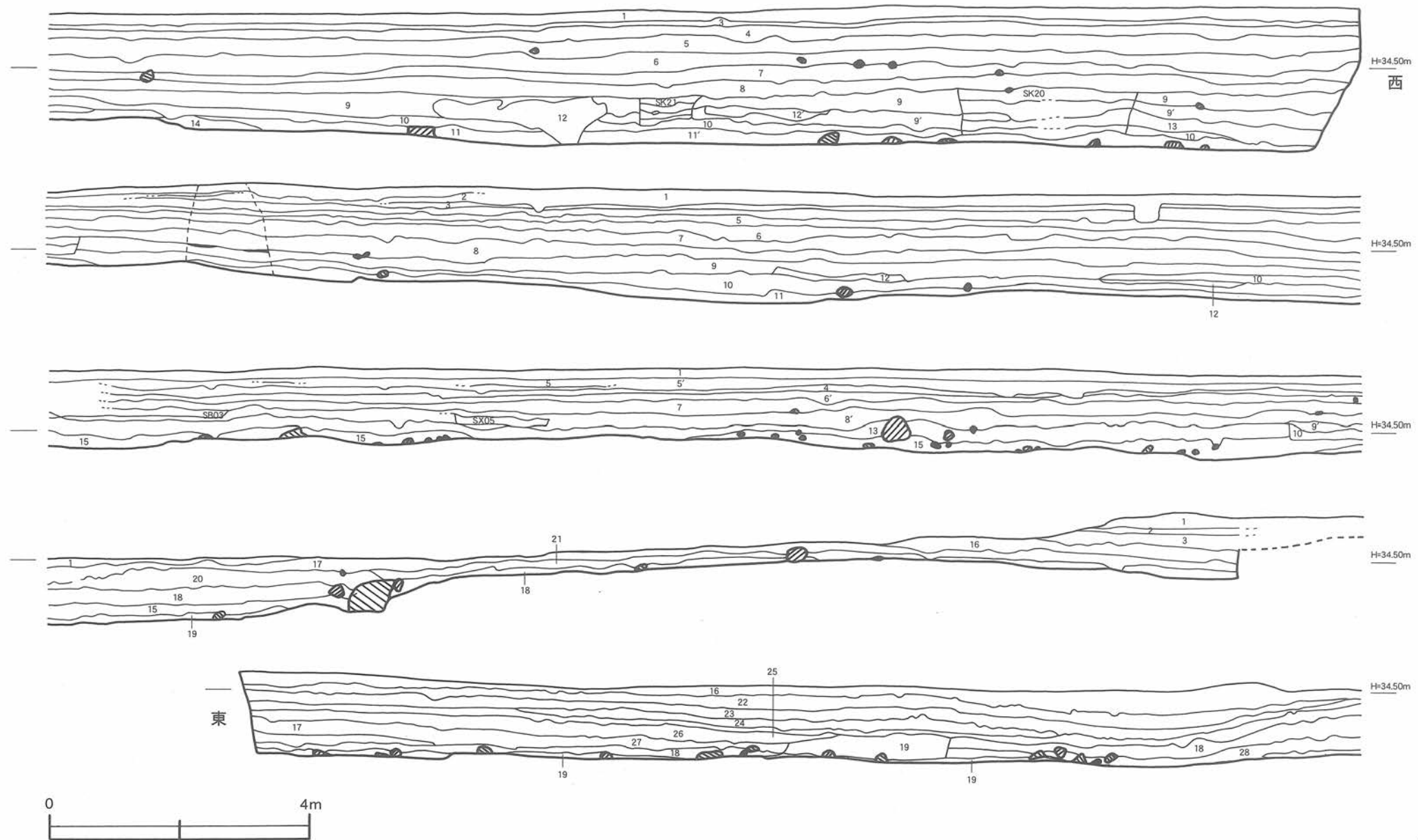
整地層下層上面検出遺構



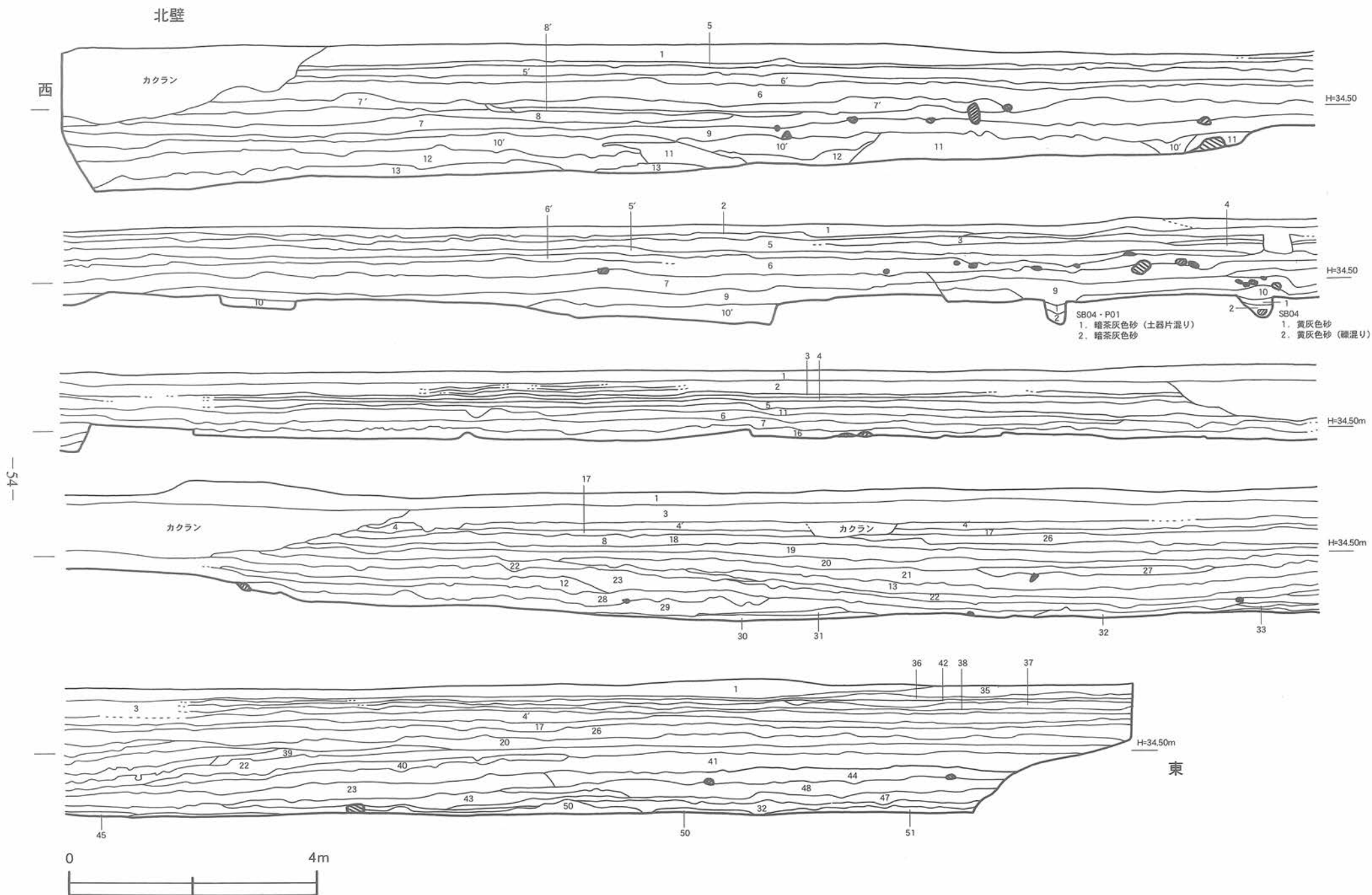
整地層下層下面検出遺構



第42図 津江八升町遺跡 2次調査2地点 遺構配置図〔1/400〕



第43図 津江八升町遺跡 2次調査2地点 南壁土層図〔1/80〕



南壁土層

1. 黒茶色土 (耕作土)
2. 赤茶色土 (床土)
3. 黄褐色土 (床土)
4. 暗灰色土 (旧耕作土①)
5. 暗灰色土 (旧耕作土②)
- 5'. 暗灰色土 (5より深い)
6. 暗灰色土 (旧耕作土③)
- 6'. 黄灰色土 (黄褐色土を含む)
7. 暗灰色土 (土器片、磁器)
8. 暗灰色土 (7層より明るい、褐色気味、磁、土器片混在)
- 8'. 暗灰色土 (赤褐色を多く含む、土器片少ない)
9. 暗灰色土 (褐色気味、灰化ブロック混在)
- 9'. 暗灰色土 (小磁器)
10. 暗灰色土 (褐色気味、磁、土器片混在)
- 10'. 暗灰色土 (大きい磁、土器片混在)
11. 暗灰色土 (やや黄色気味、土器片、磁器)
- 11'. 赤茶色土 (土器片混在)
12. 灰色土
- 12'. 灰色土 (磁器)
13. 暗灰色土 (磁、土器片混在)
14. 灰色土 (土器片混在)
15. 黄灰色土 (磁器)
16. 暗灰色土 (耕作土2)
17. 黄褐色土 (耕作土)
18. 暗灰色土 (土器片混在)
19. 暗灰色土 (土器片混在)
20. 黄褐色土 (土器片混在)
21. 暗灰色土
22. 黄褐色土 (土器片混在)
23. 暗灰色土 (土器片混在)
24. 黄褐色土 (黄褐色土あり)
25. 黄褐色土 (黄褐色土あり)
26. 黄褐色土 (黄褐色土あり)
27. 黄褐色土 (黄褐色土あり)
28. 灰色土 (黄褐色土あり、磁あり) 最下層

北壁土層

1. 黒茶色土 (赤褐色土を含む)
2. 暗灰色土
3. 灰色土
4. 黄褐色土
5. 黄褐色土 (明るい)
6. 暗灰色土 (土器片、磁器)
- 6'. 暗灰色土 (土器片、磁器)
7. 暗灰色土 (赤褐色を多く含む、土器片混在)
- 7'. 暗灰色土 (赤褐色を多く含む、土器片混在)
8. 暗灰色土 (磁、土器片、灰化ブロック混在)
- 8'. 暗灰色土 (灰化ブロック混在)
9. 暗灰色土 (磁、土器片混在)
10. 暗灰色土 (磁、土器片混在)
- 10'. 暗灰色土 (磁、土器片混在)
11. 暗灰色土 (土器片混在)
- 11'. 暗灰色土 (土器片混在)
12. 暗灰色土 (10'よりやや明るく赤みがある、磁、土器片混在)
13. 赤茶色土 (土器片、磁、灰色土混在)
14. 暗灰色土 (やや黄褐色がある)
15. 暗灰色土
16. 暗灰色土 (土器片混在)
17. 暗灰色土 (土器片混在)
18. 暗灰色土
19. 暗灰色土
20. 暗灰色土
21. 暗灰色土
22. 暗灰色土 (黄褐色気味)
23. 暗灰色土

南壁・北壁 土色一覧表

1号土層 (SK 01) (第46図、図版22-2)
 整地層上層で検出。大きさは長軸3.8m、短軸0.9mの細長い楕円形。深さは約15cmを測る。出土遺物はない。

2号土層 (SK 02) (第46図、図版23-1)
 整地層上層で検出。長軸4.6m、短軸1.4mの楕円形。深さは西側で約30cm、東側で約15cmを測る。出土遺物は甕、壺が出土している

3号土層 (SK 03) (第46図、図版24-1)
 整地層上層で検出。長軸1.4m、短軸0.7mの楕円形。深さは20cmを測る。出土遺物はない。

4号土層 (SK 04) (第46図、図版24-1)
 整地層上層で検出。長軸1.1m、短軸0.6mの楕円形。深さは10cmを測る。遺物はない。

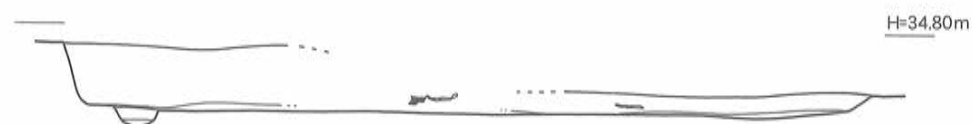
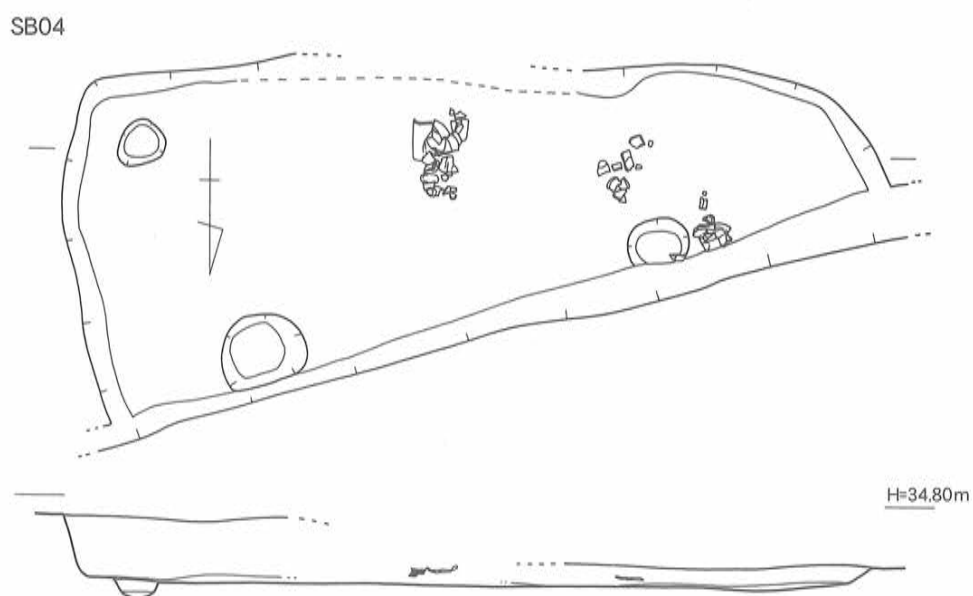
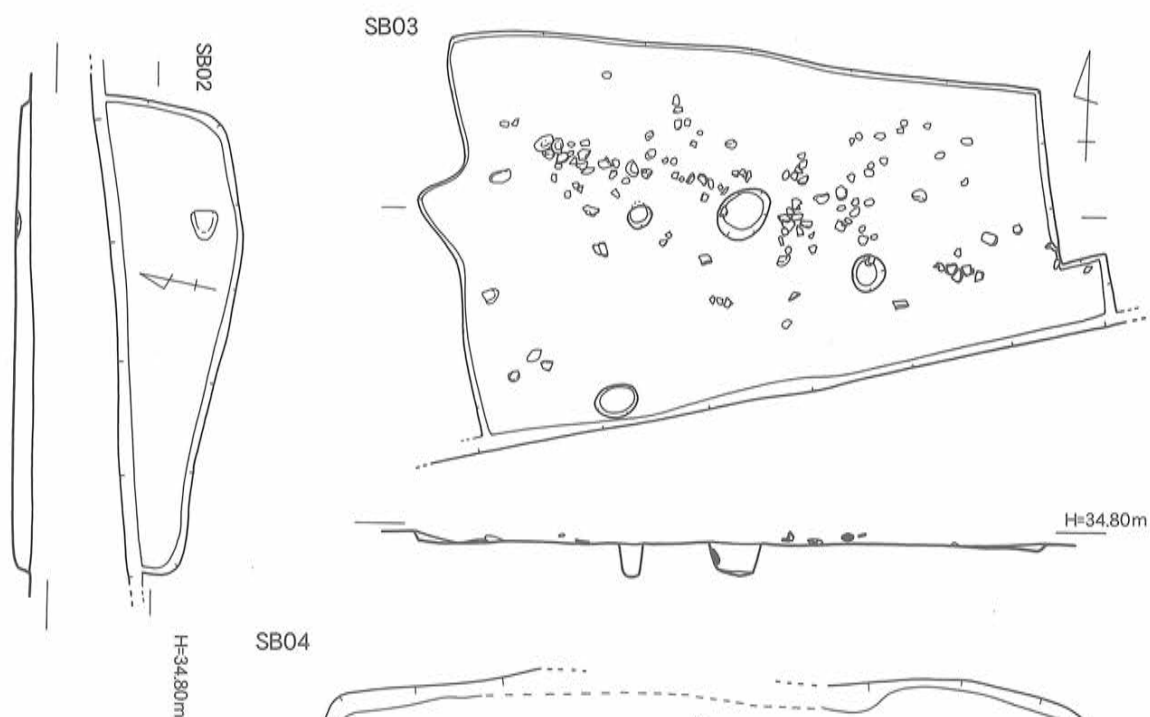
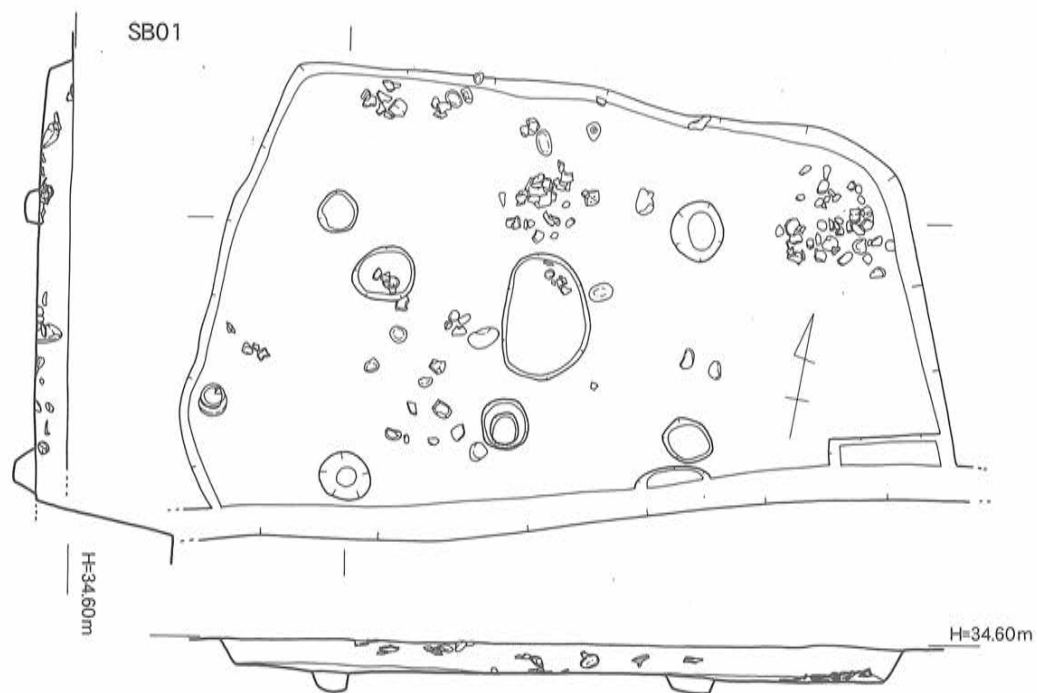
5号土層 (SK 05) (第46図、図版24-2)
 整地層上層で検出。南壁に接し、形、大きさは不明。遺物はない

20号土層 (SK 20) (第47図、図版30-1)
 整地層下層で検出。南側壁に接しているが楕円形と思われる。長軸2.8m、短軸1.6m以上。深さは50cmを測る。出土土器はない。

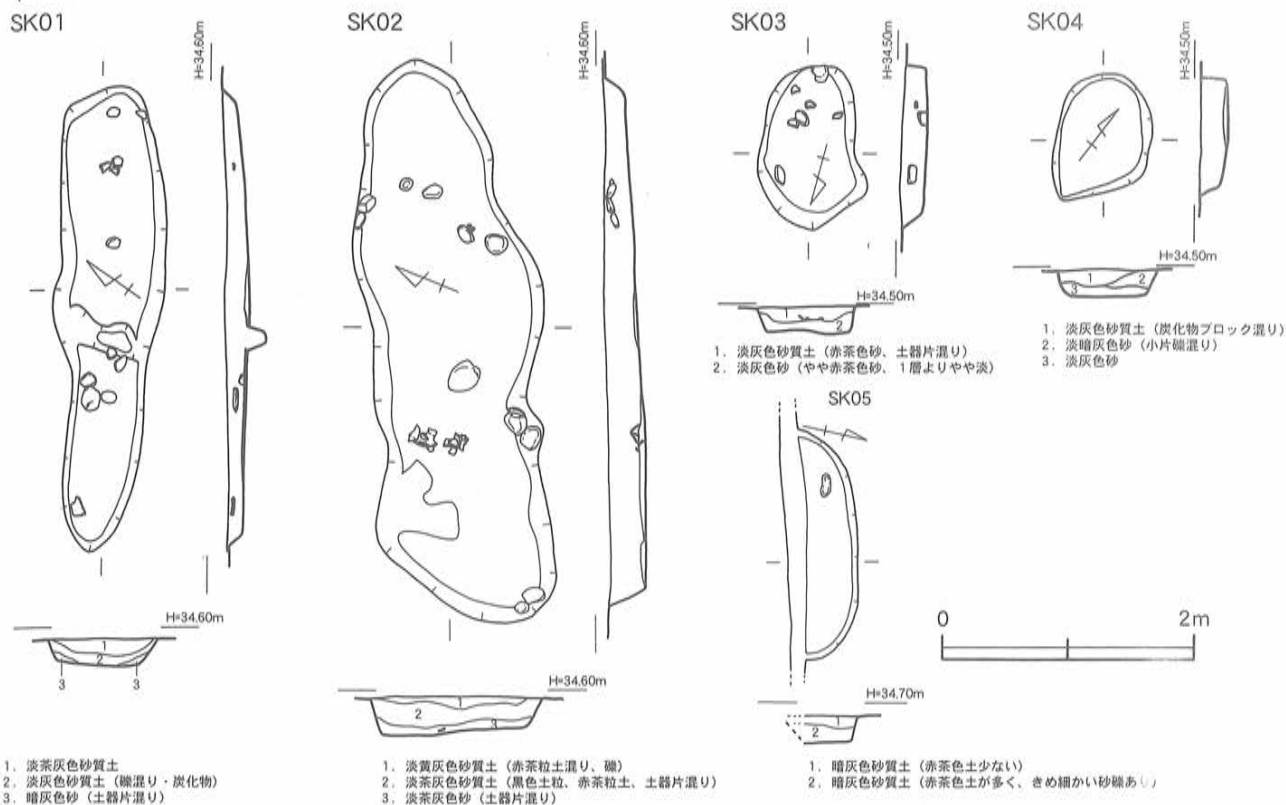
21号土層 (SK 21) (第47図、図版30-2)
 整地層下層で検出。南側壁に接しているが楕円形と思われる。長軸2.2m、短軸1.8m以上。深さは50cmを測る。遺物として甕、器台、高杯が出土した。

22号土層 (SK 22) (第47図、図版31-1)
 整地層下層で検出。東西2.3m、南北1.2mの隅丸長方形である。深さは約50cmを測る。遺物として壺が出土した。

23号土層 (SK 23) (第47図、図版31-2)
 整地層下層で検出。東西1.9m、南北1.5mの楕円形。深さは西側で60cmを測るが東側では15cmを測る。遺物として鉢が出土している。



第45図 2次調査2地点1号・2号・3号・4号竪穴住居 (SB01・02・03・04) 実測図 [1/60]



第46図 2次調査2地点1号・2号・3号・4号・5号土坑 (SK01・02・03・04・05) 土層図・実測図 (1/60)

24号土坑 (SK24) (第47図、図版32-1)

整地層下層で検出。東西2.0m、南北0.9mの隅丸長方形である。深さは50cm前後である。遺物として甕が出土している。

c) 溝

調査区が一番東側、整地層上層で1条の溝が検出された。

1号溝 (SD01)

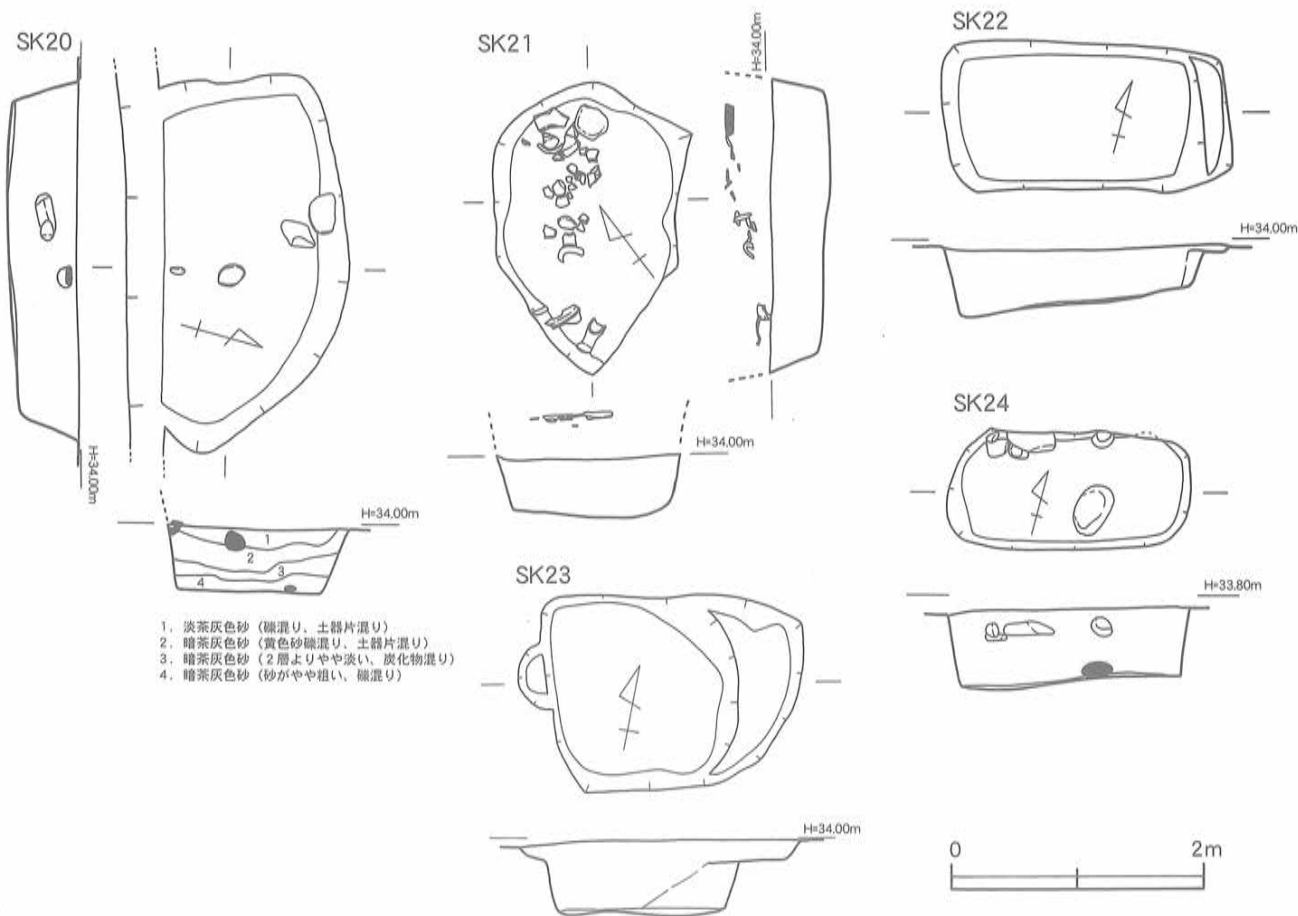
現存の溝幅7~8m、全長は確認できない。遺物は土器として、甕、壺が、石器として摩石が出土している。

e) 柱穴 (P)

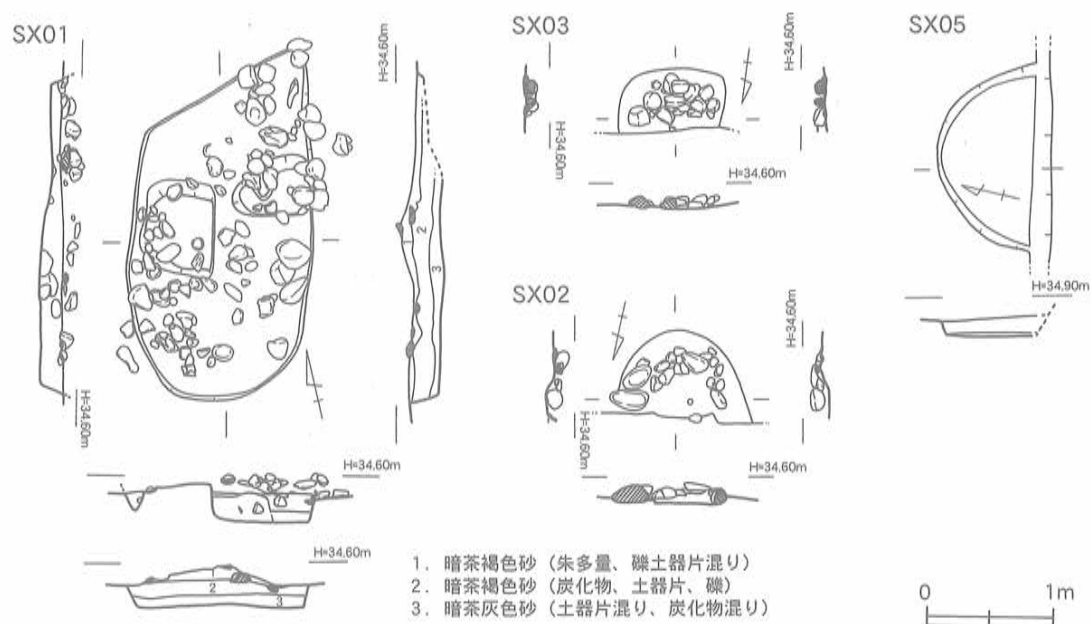
小柱穴が多いが、まとまるものはない。遺物は、P2より甕が出土している。

(3) 小 結

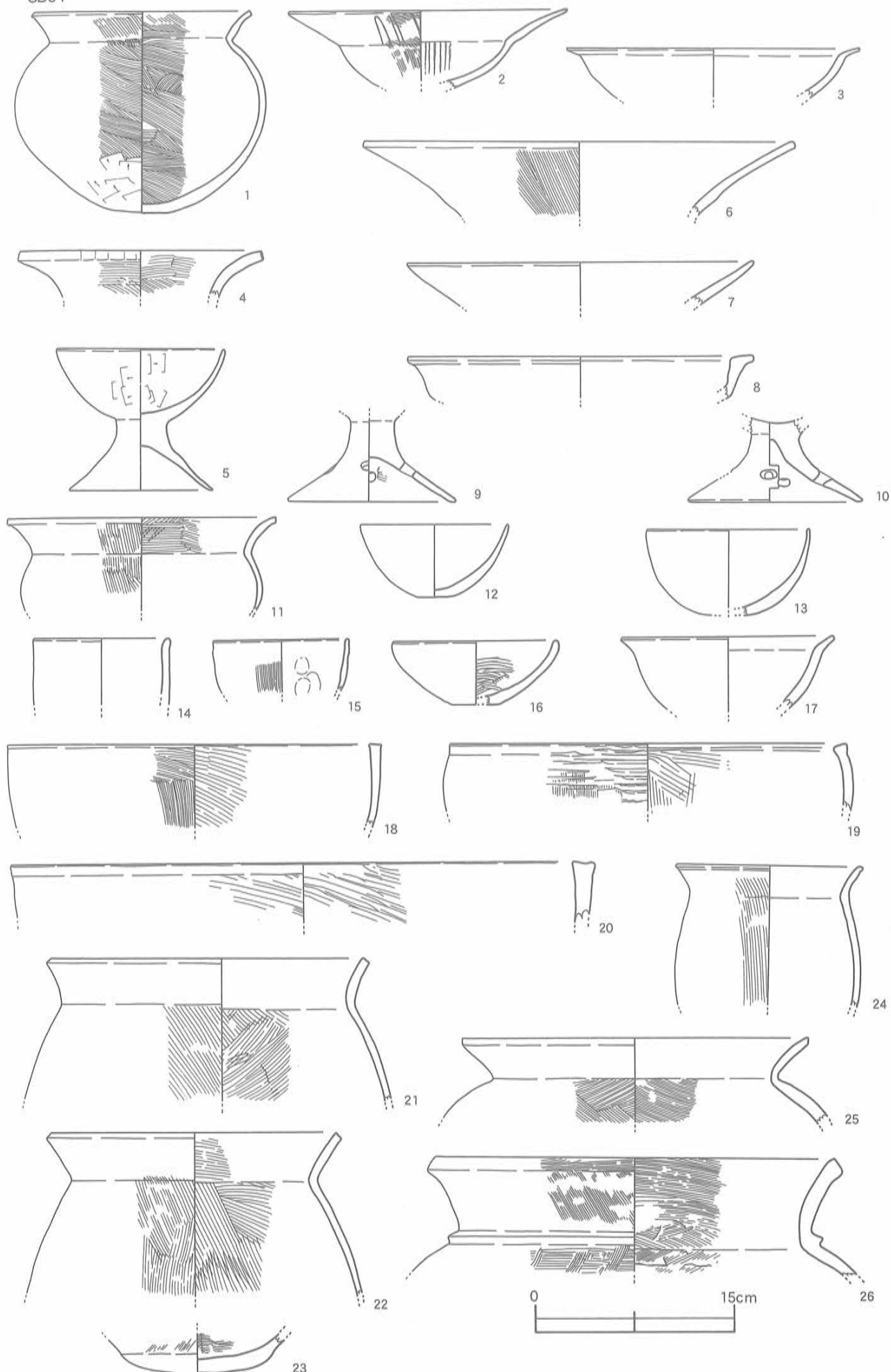
2次の調査では17軒の竪穴住居、掘立柱建物2棟、土坑18基、溝が発見された。竪穴住居はいずれも弥生時代後期のもので、調査が道路幅のみという制約があったため全体を把握することはできなかったが、この一帯に集落が広がっている事は判明した。第1地点では礫層中に集落を築き、2地点では礫層の上に整地を行なって、集落を形成している。このためこの付近一帯が矢部川の旧河道で弥生時代後期になって河道を造成し、集落をつくったもとと考えられる。(赤崎)



第47図 2次調査2地点 20号・21号・22号・23号・24号土層図・実測図 (1/60)

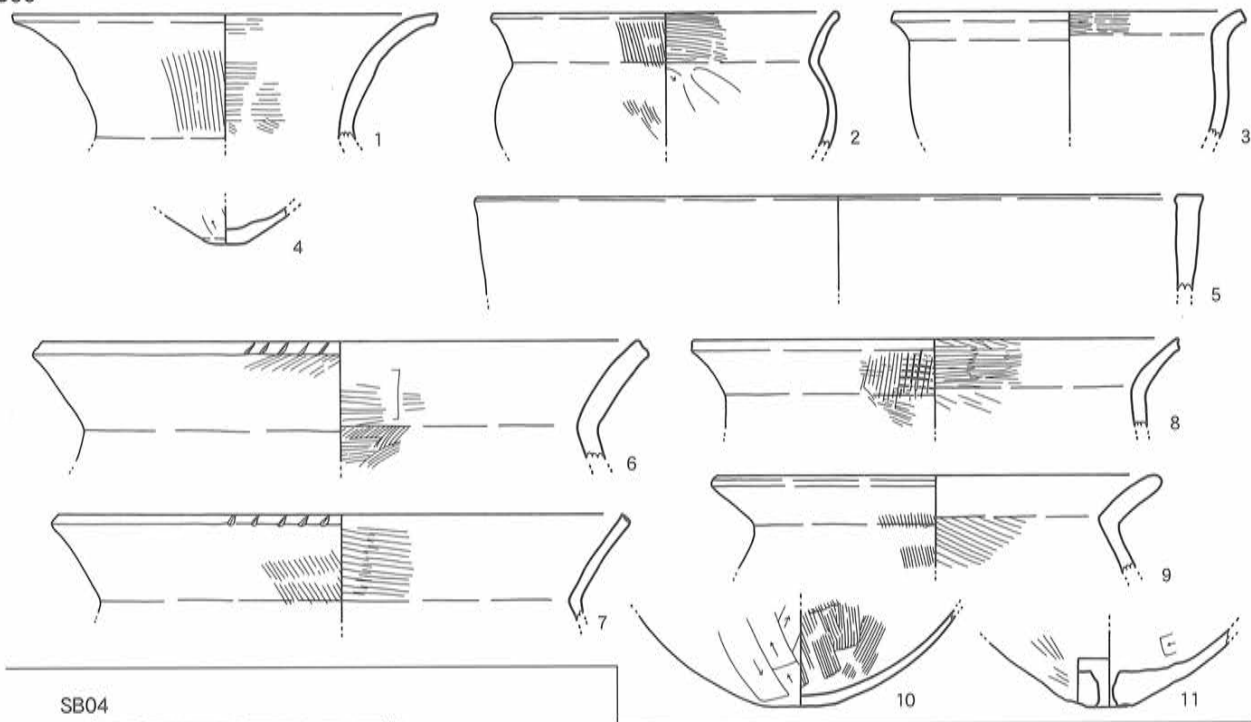


第48図 2次調査2地点 1号・2号・3号・5号不明遺構 (SX01・02・03・05) 土層図・実測図 (1/60)

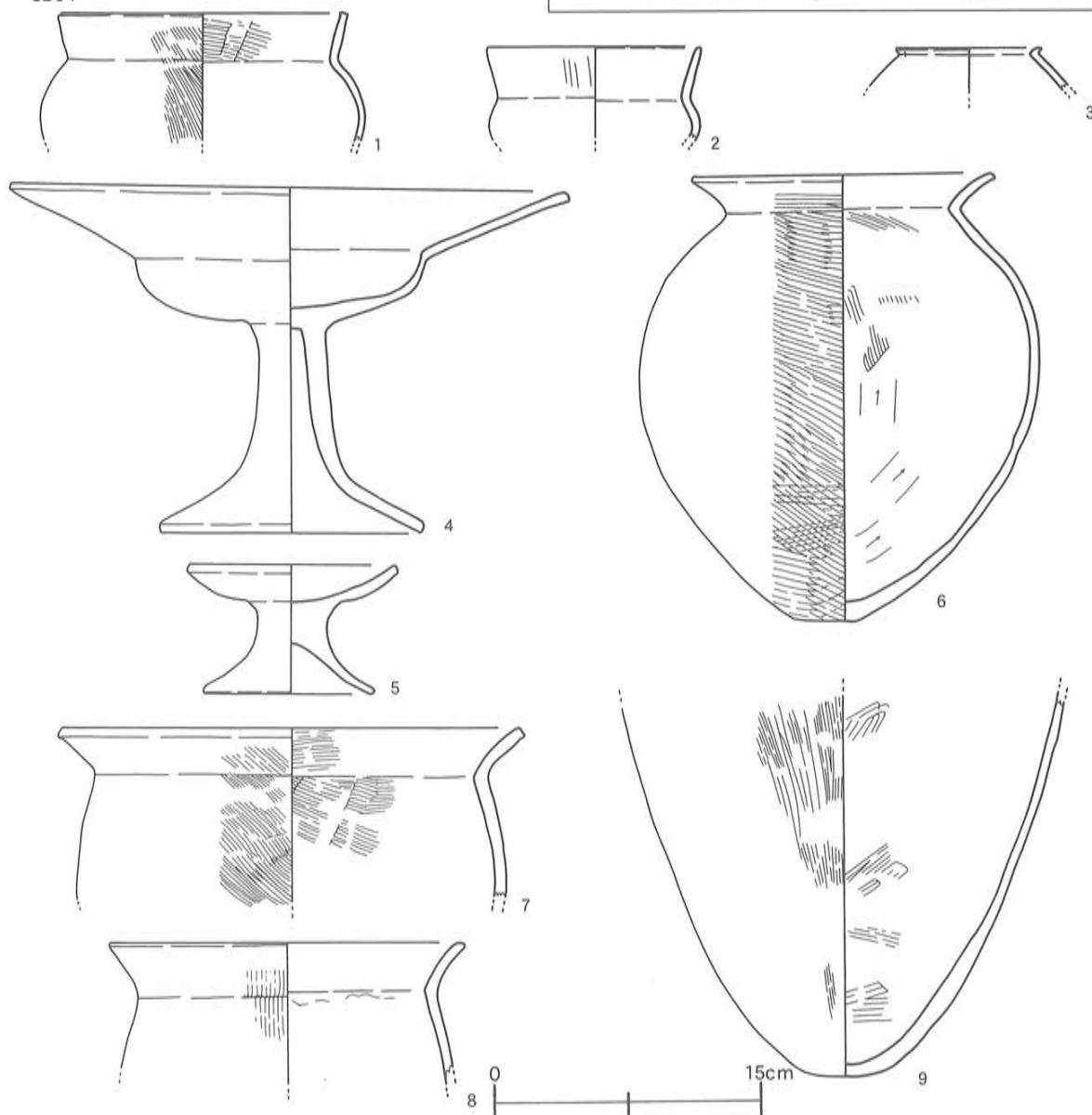


第49図 2次調査2地点 1号竖穴住居 (SB01) 出土土器実測図 [1/4]

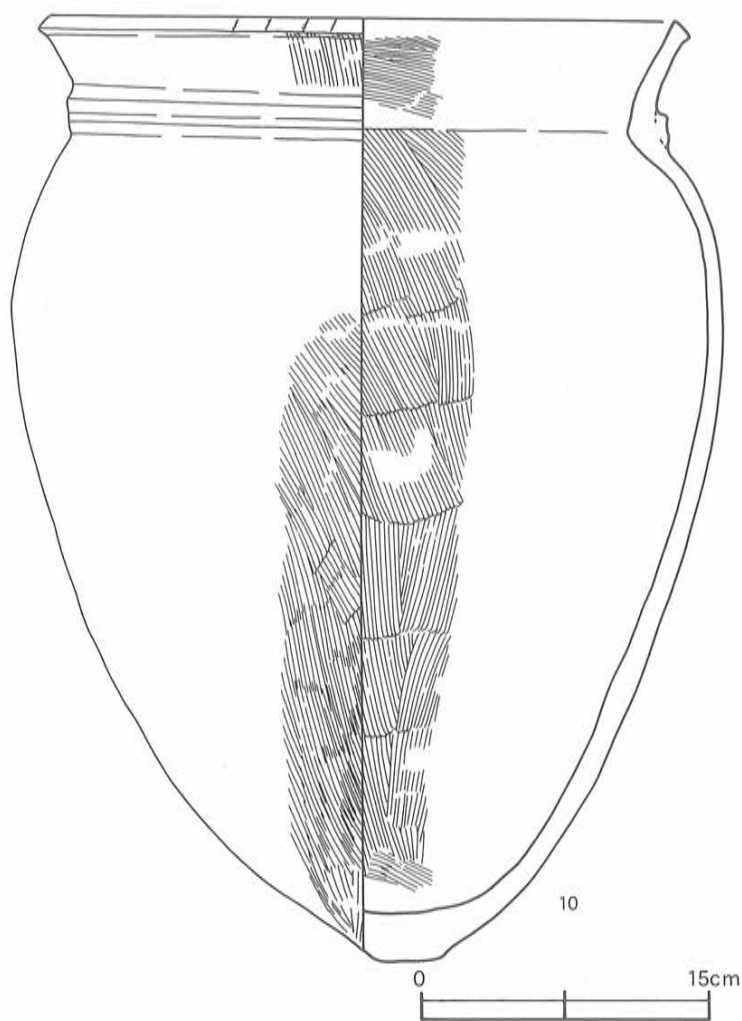
SB03



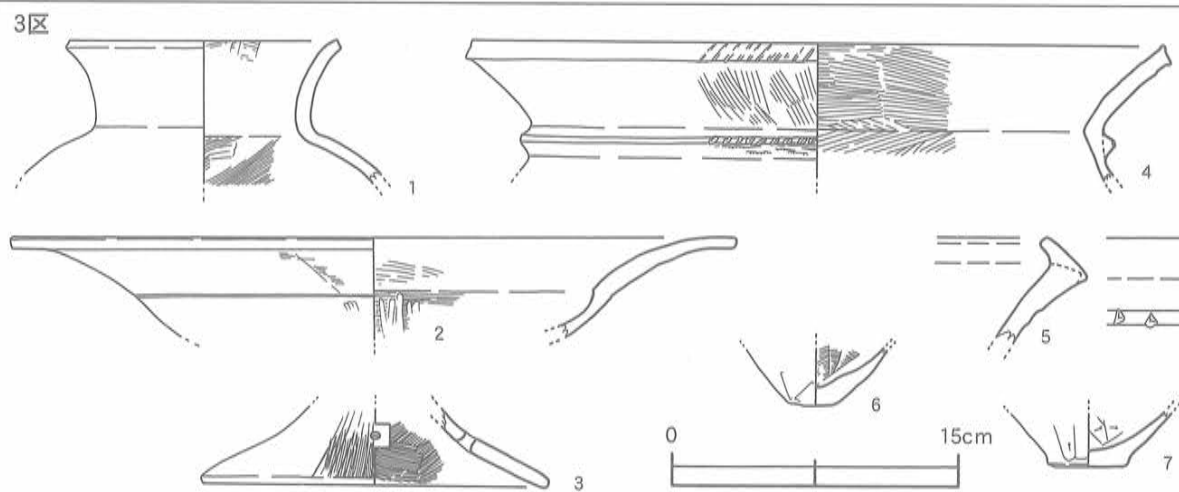
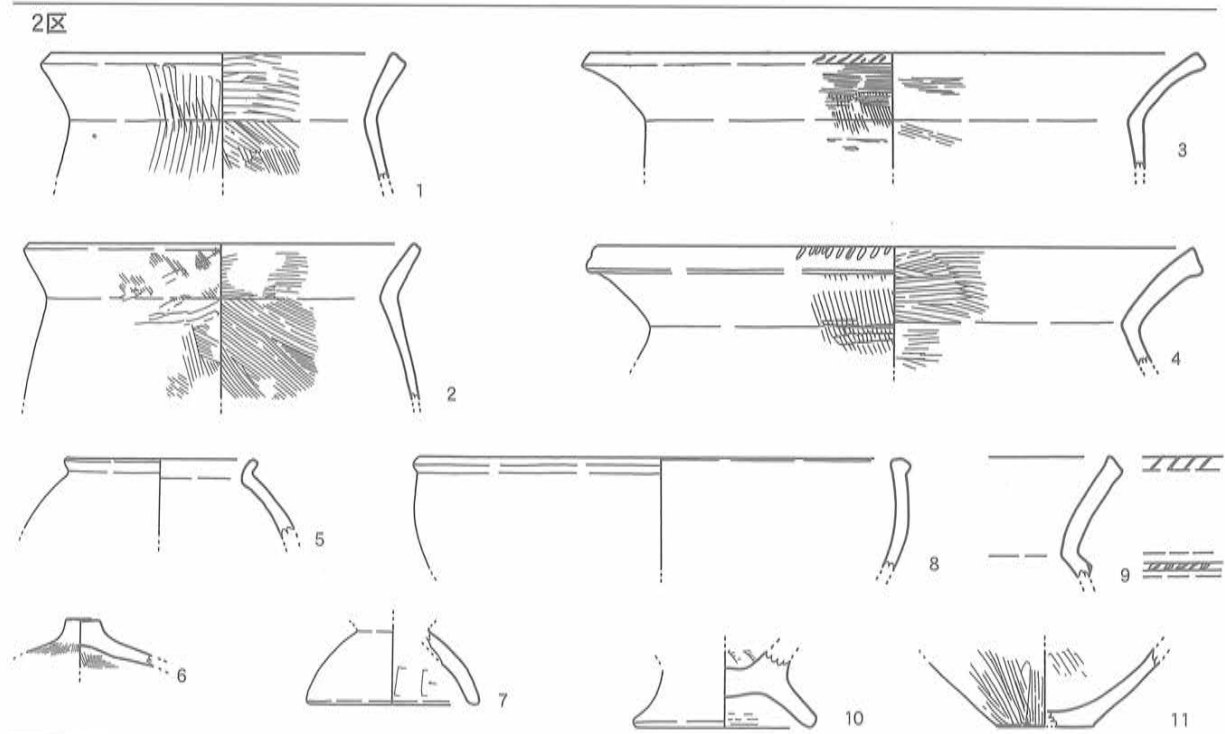
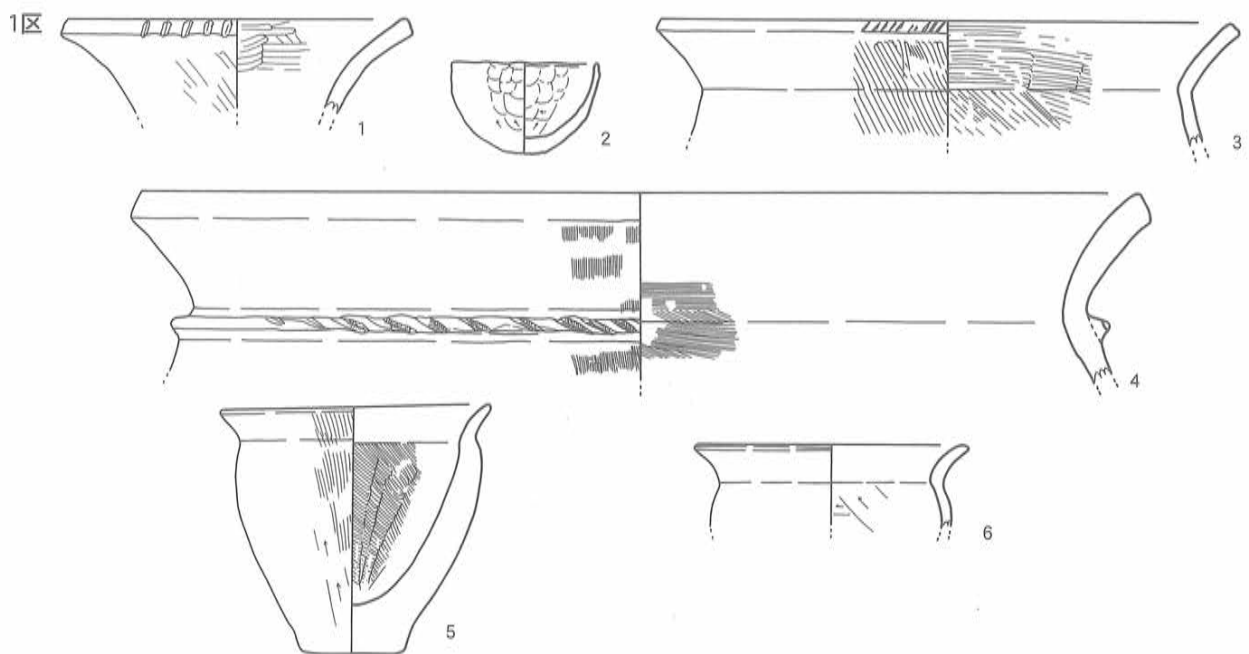
SB04



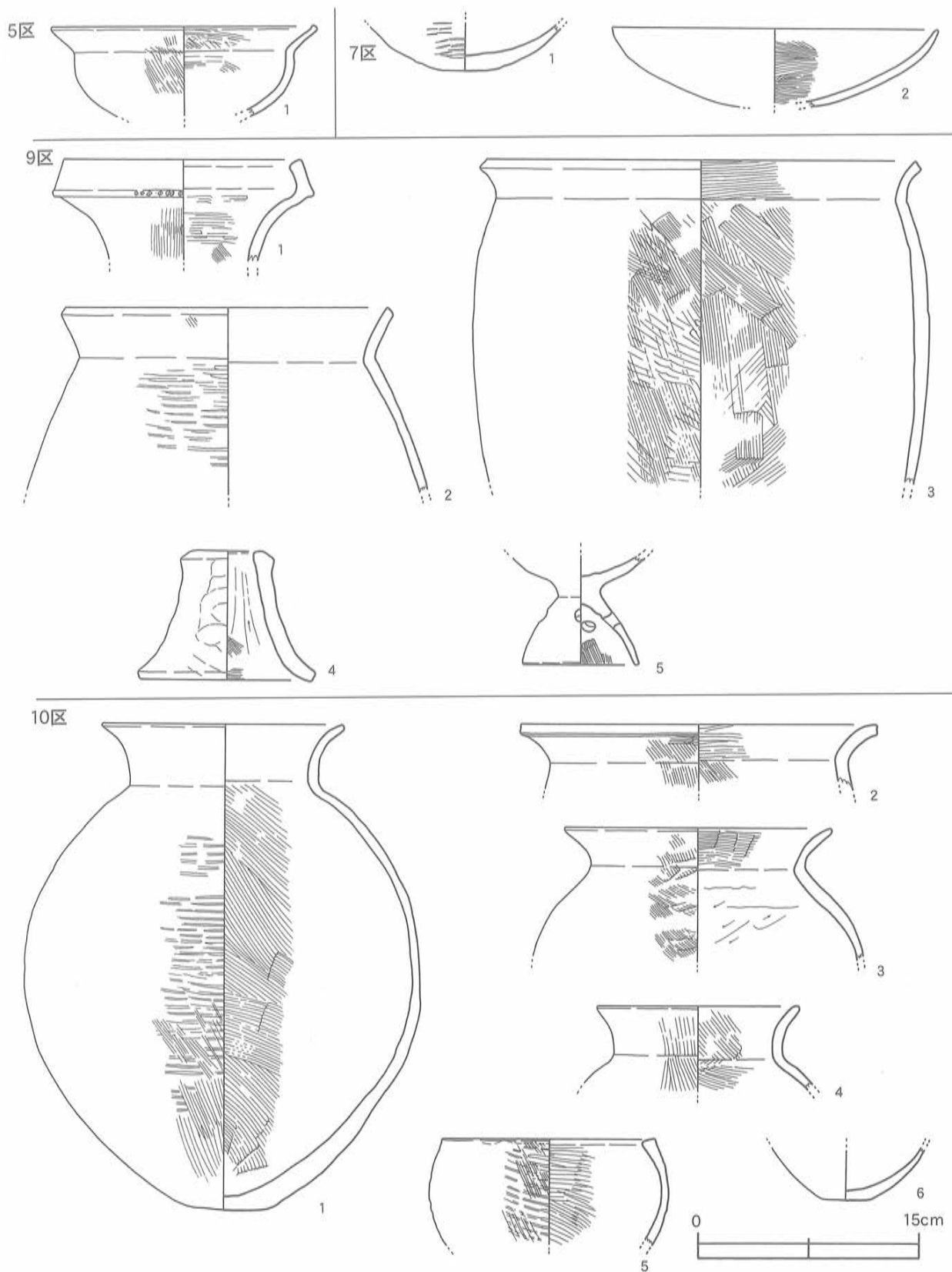
第50図 2次調査2地点 3号・4号竪穴住居 (SB03・04) 出土土器実測図 [1/4]



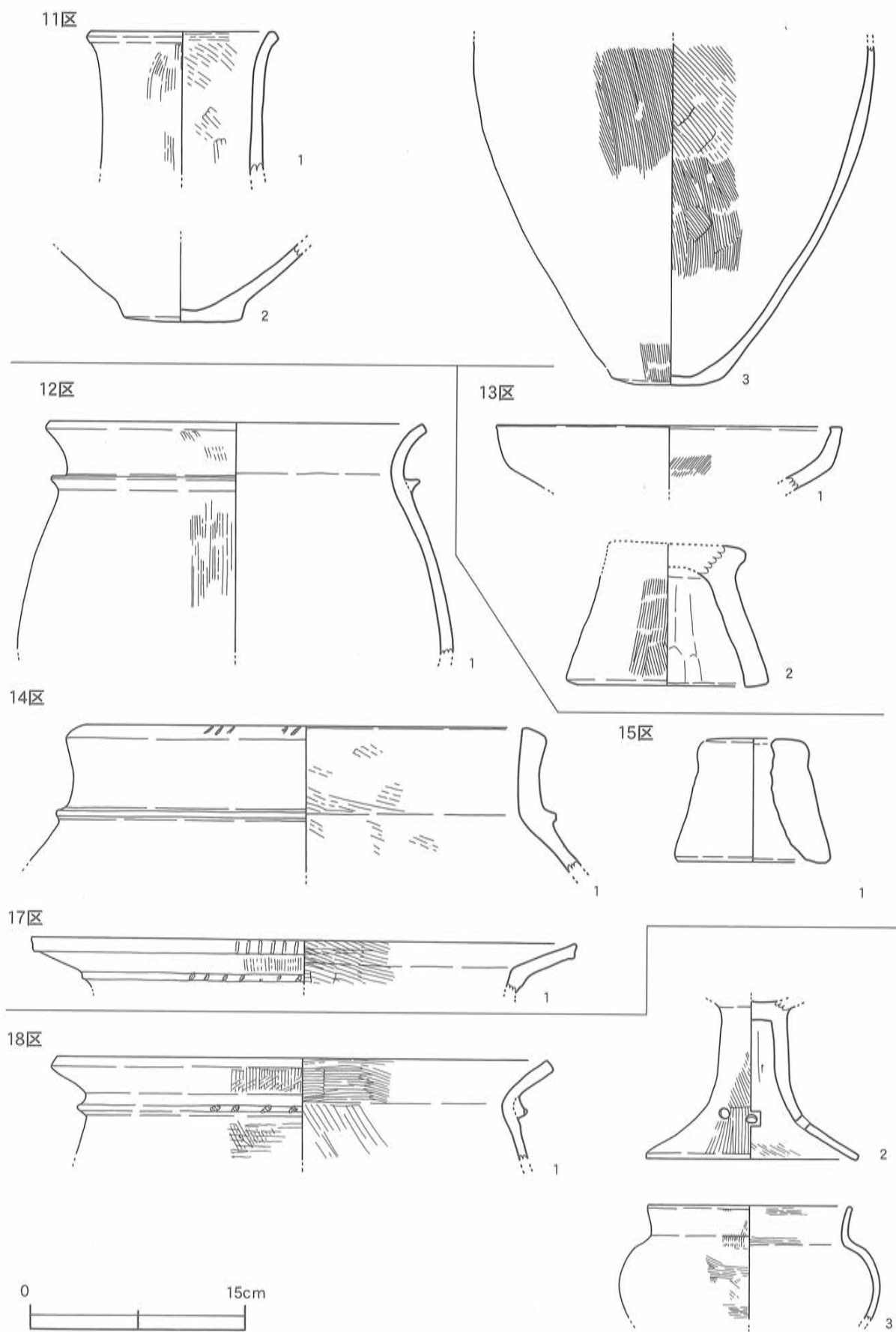
第51図 2次調査2地点 4号竪穴住居 (SB04) 出土土器実測図〔1/4〕



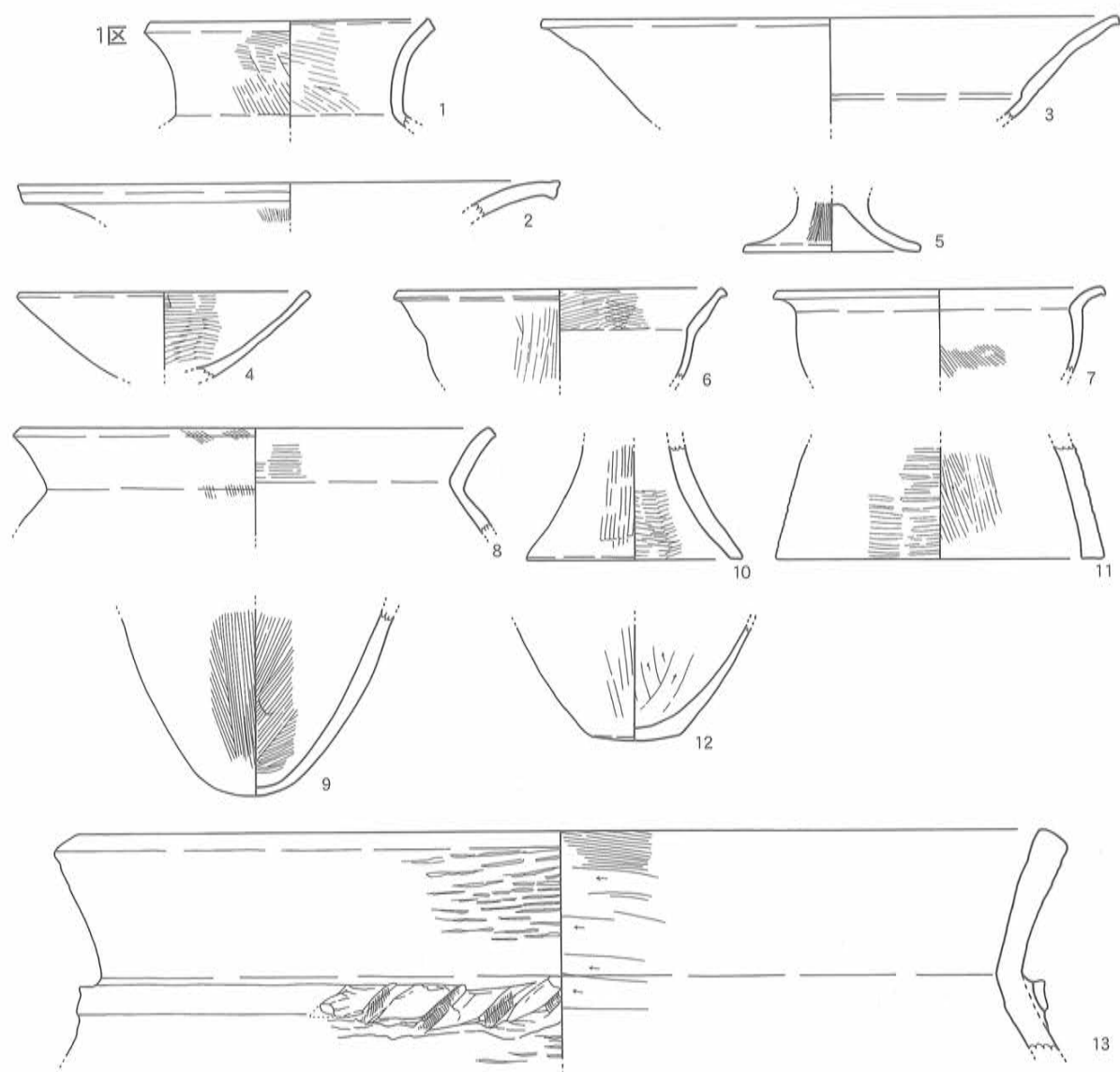
第52図 2次調査2地点 1・2・3区 整地層（上層）出土土器実測図〔1/4〕



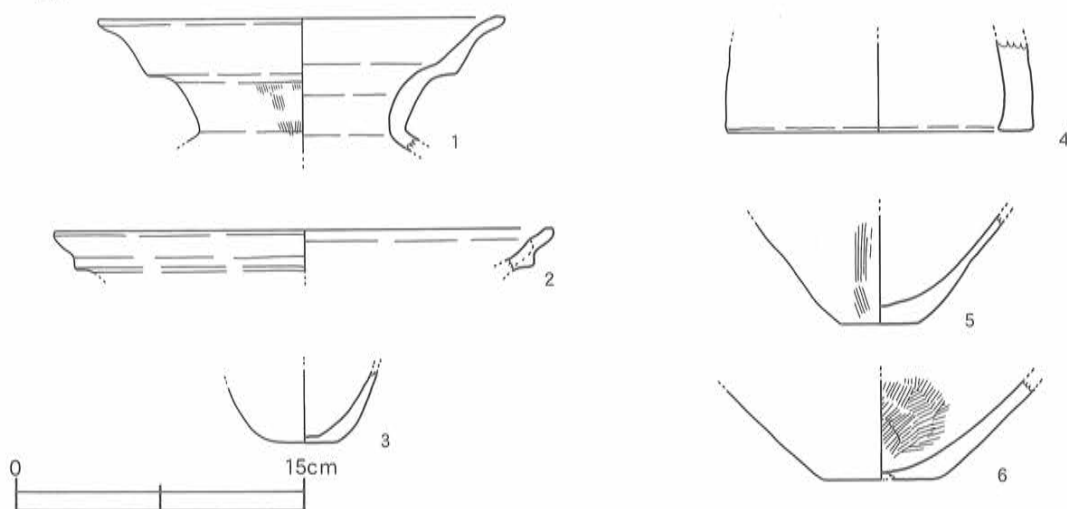
第53図 2次調査2地点 5・7・9・10区 整地層（上層）出土土器実測図〔1/4〕



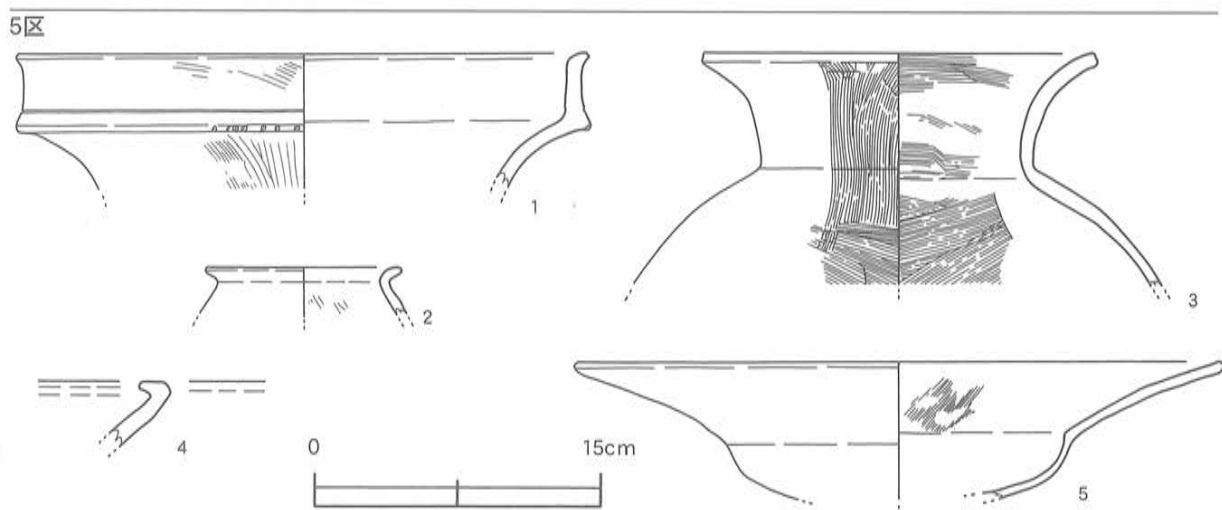
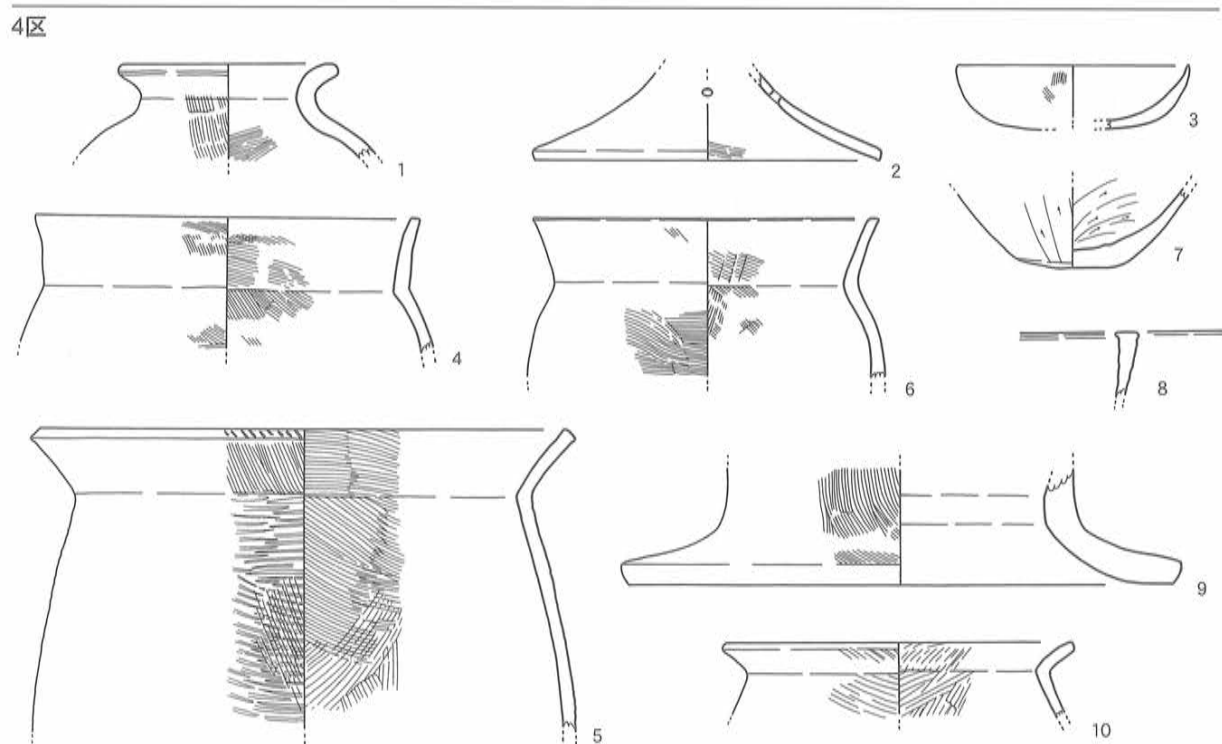
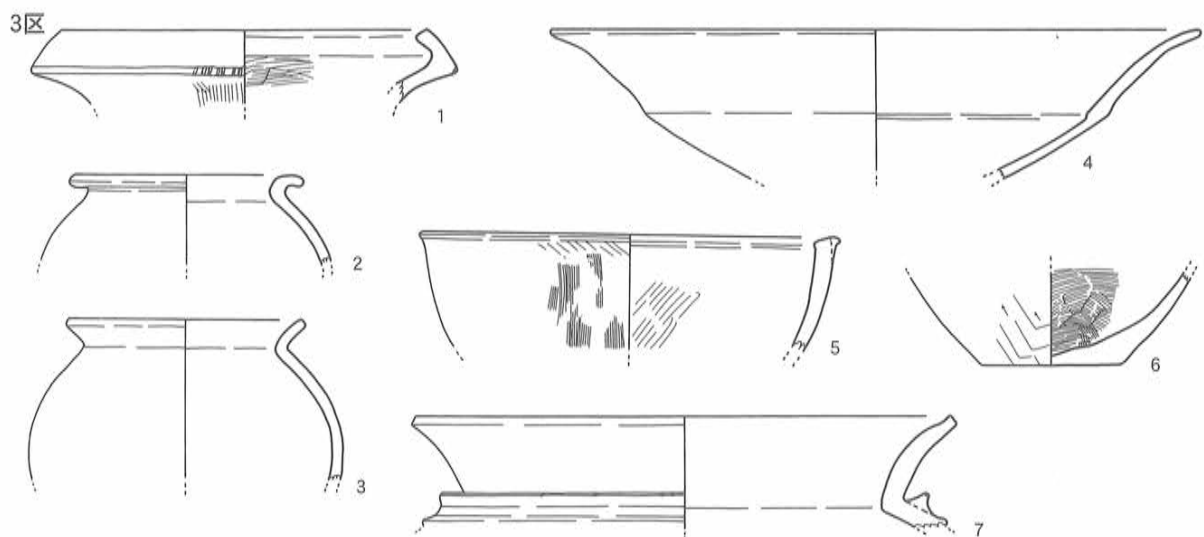
第54図 2次調査2地点 11・12・13・14・15・17・18区 整地層(上層)出土土器実測図〔1/4〕



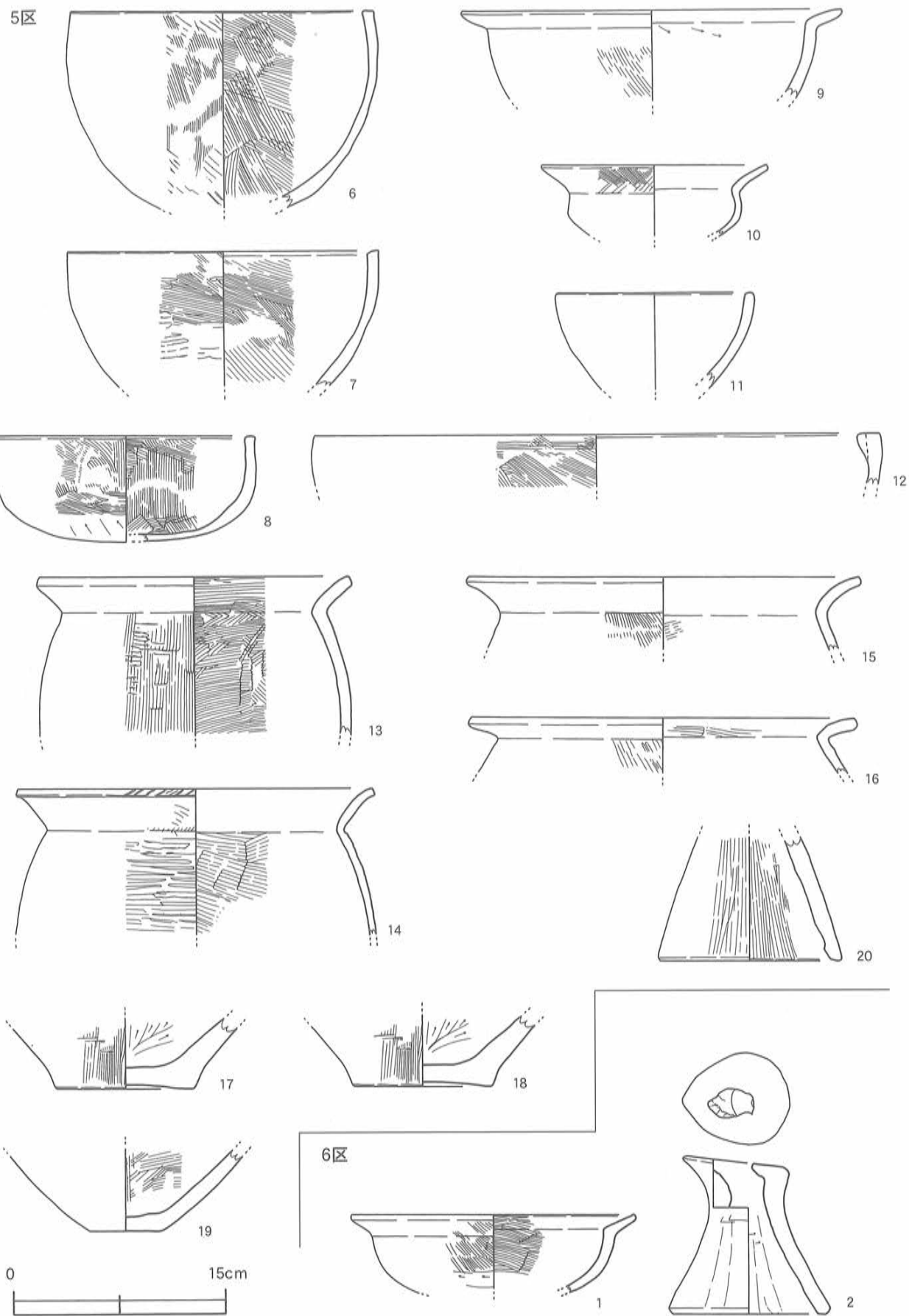
2区



第55図 2次調査2地点 1・2区 整地層（下層）出土土器実測図〔1/4〕

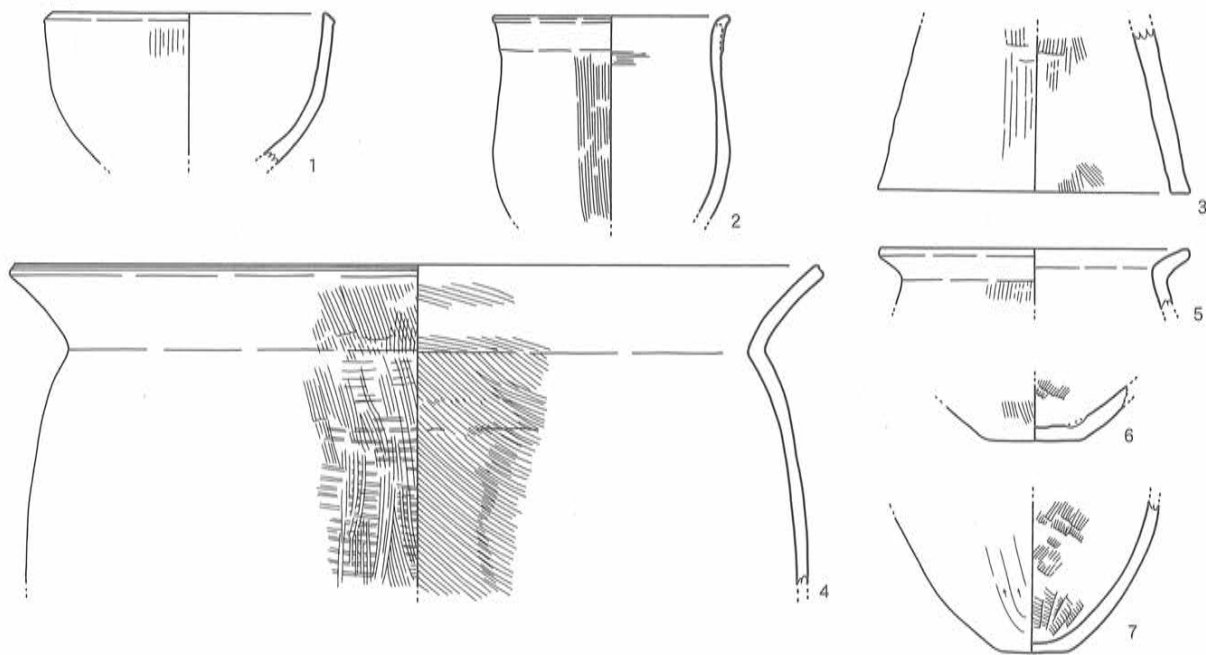


第56図 2次調査2地点 3・4・5区 整地層（下層）出土土器実測図〔1/4〕

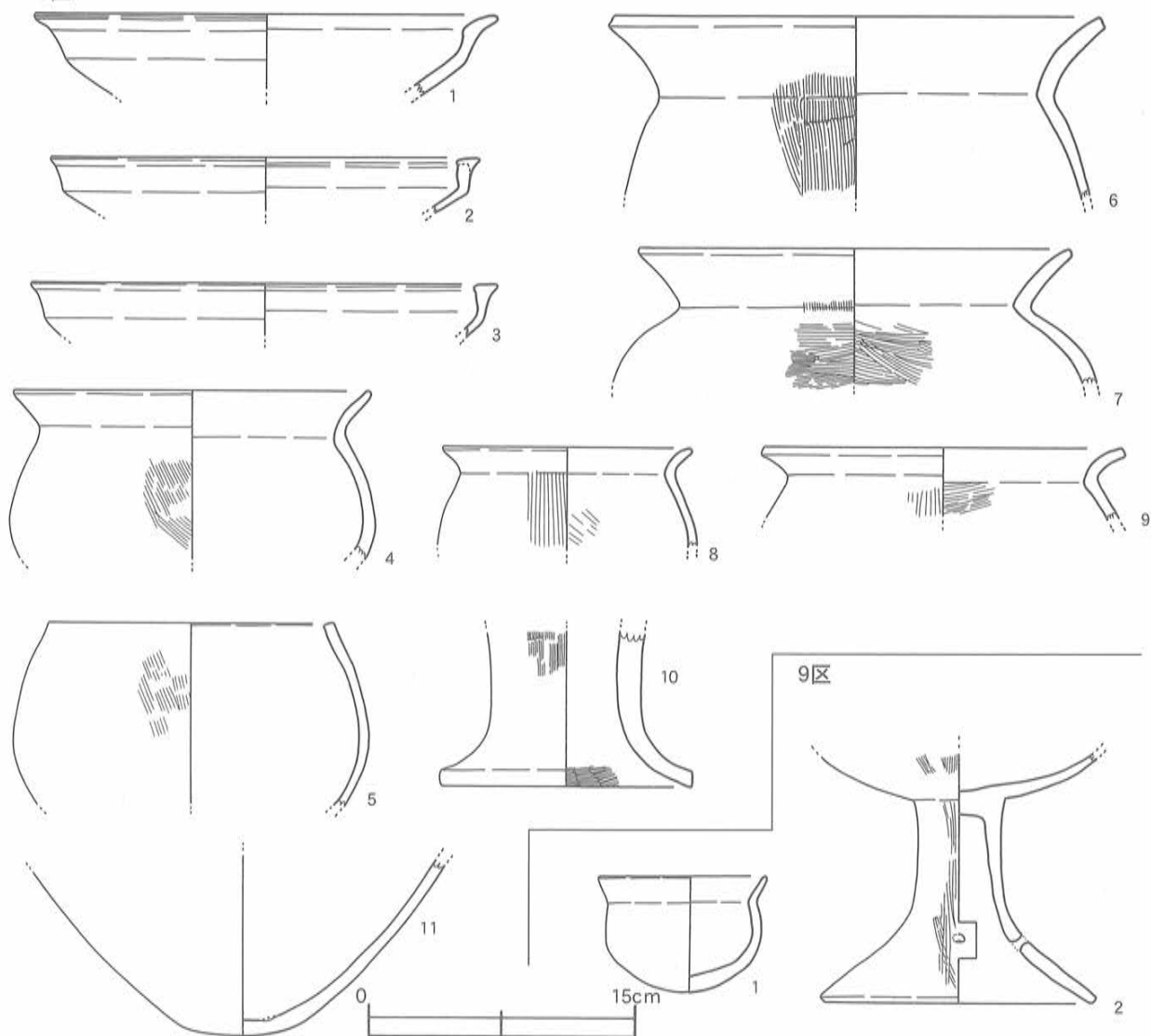


第57図 2次調査2地点 5・6区 整地層（下層）出土土器実測図〔1/4〕

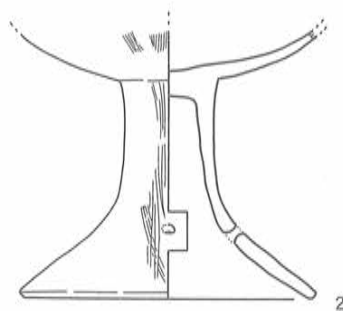
7区



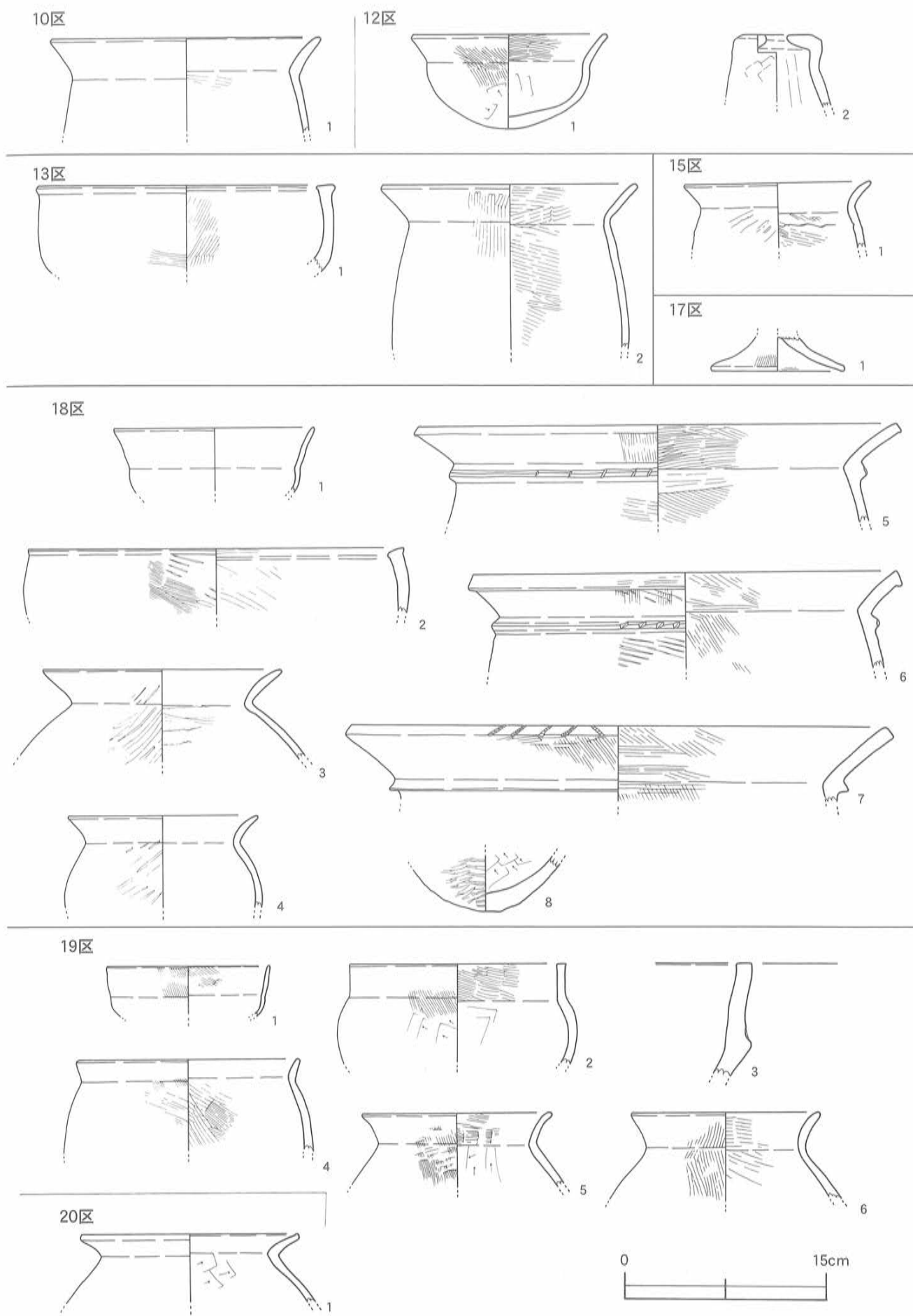
8区



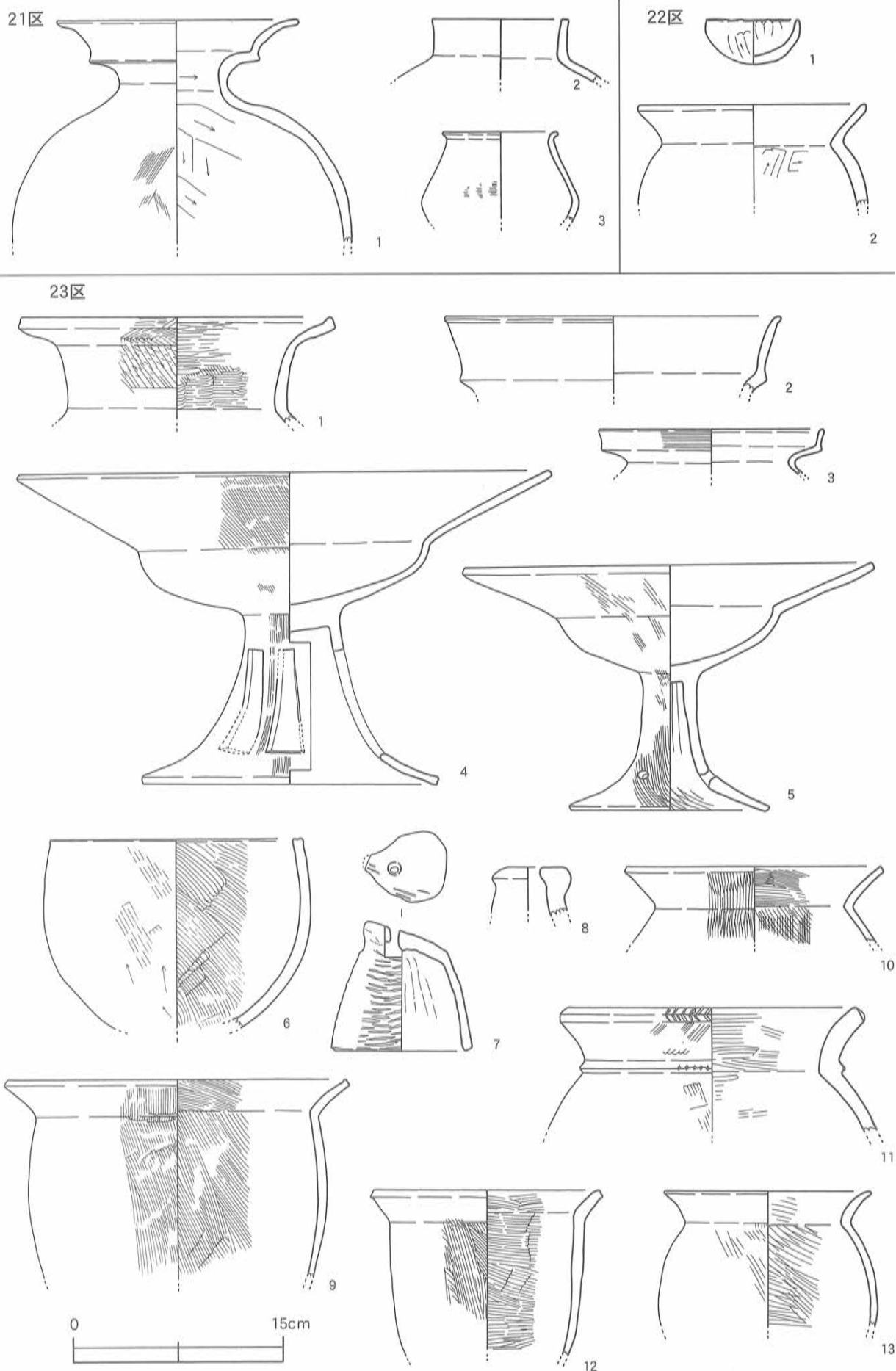
9区



第58図 2次調査2地点 7・8・9区 整地層（下層）出土土器実測図〔1/4〕

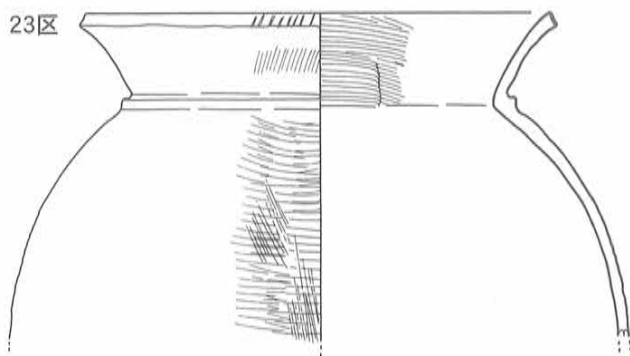


第59図 2次調査2地点 10・12・13・15・17・18・19・20区 整地層（下層）出土土器実測図〔1/4〕



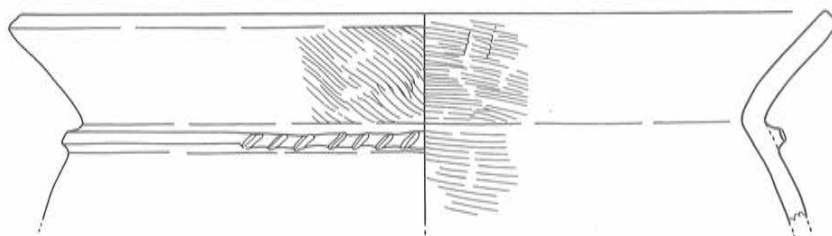
第60図 2次調査2地点 21・22・23区 整地層(下層)出土土器実測図〔1/4〕

23区

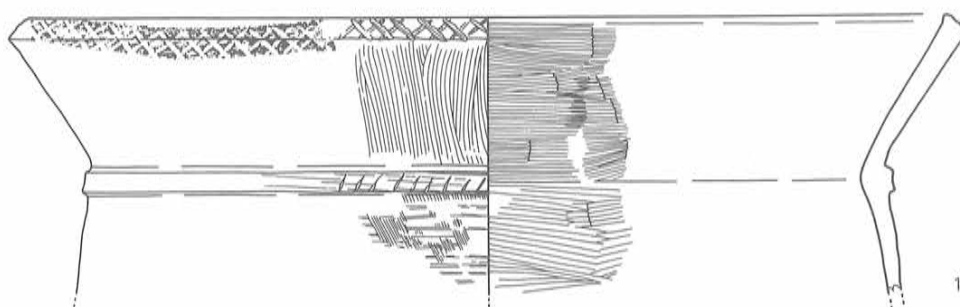


14

15

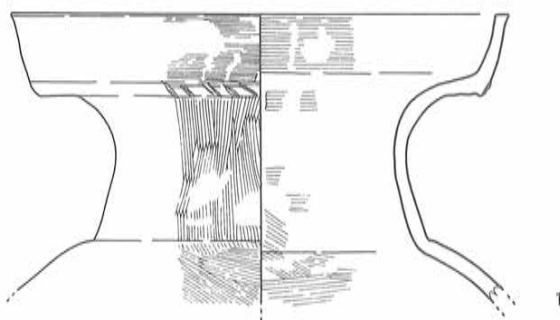


16

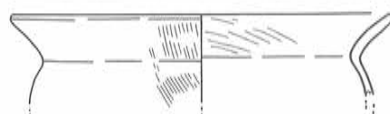


17

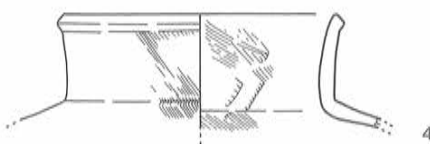
24区



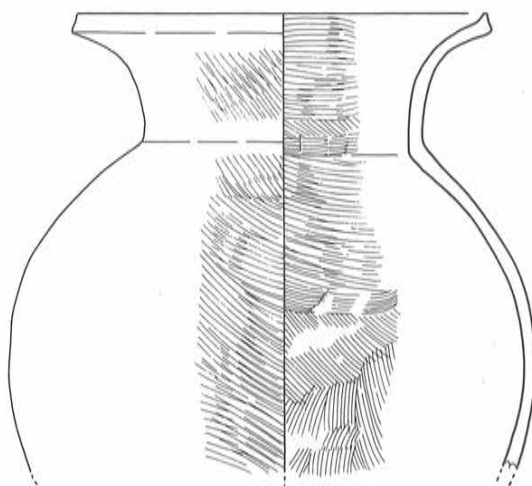
1



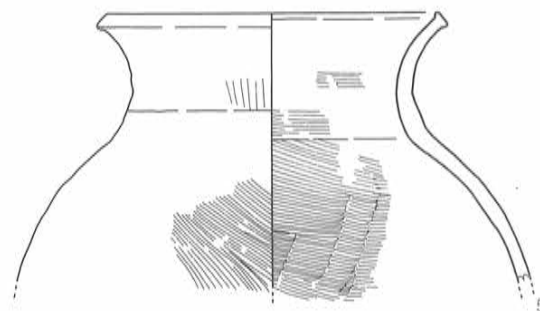
3



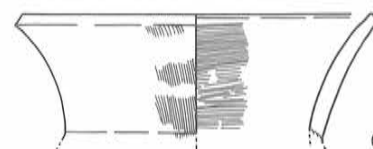
4



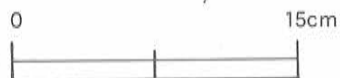
2



5

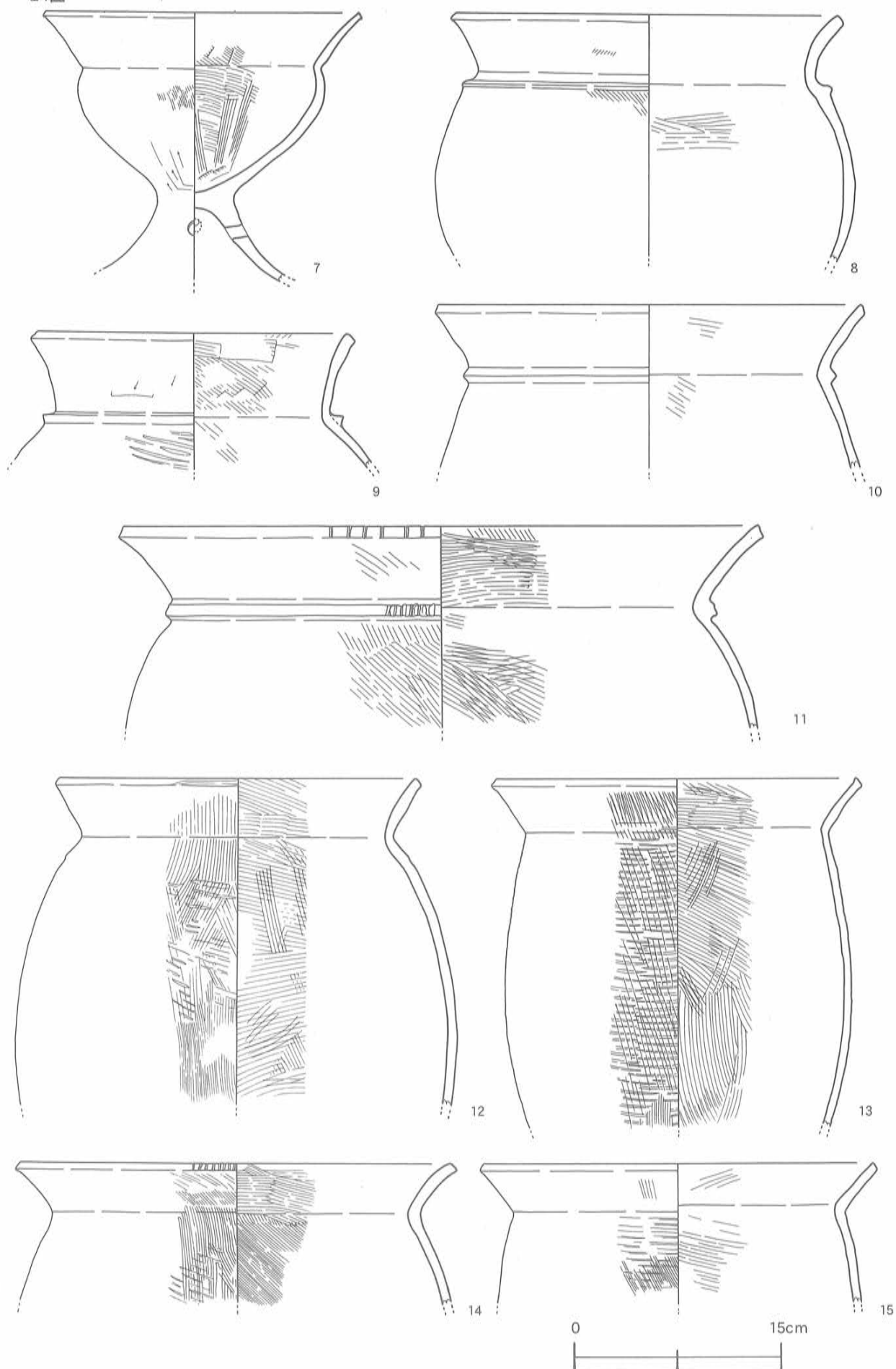


6



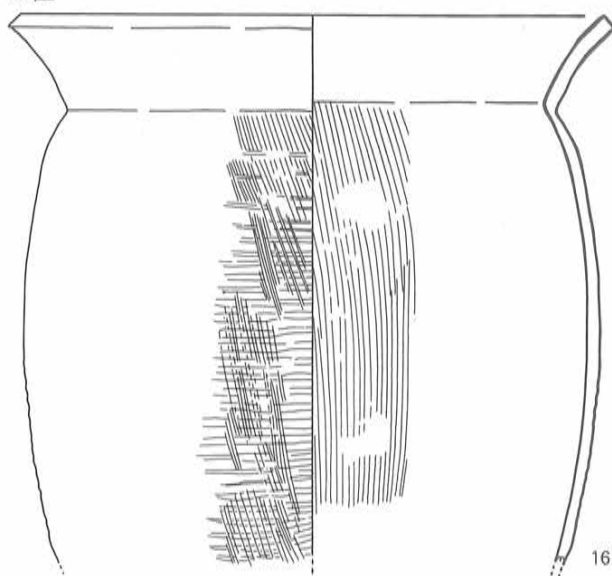
第61図 2次調査2地点 23・24区 整地層（下層）出土土器実測図（1/4）

24区

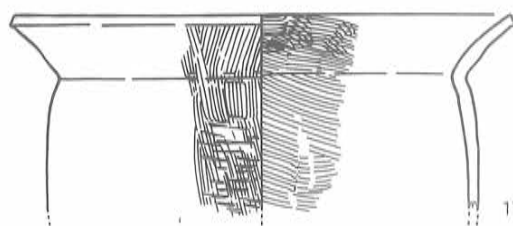


第62図 2次調査2地点 24区 整地層（下層）出土土器実測図〔1/4〕

24区



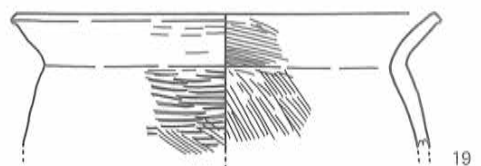
16



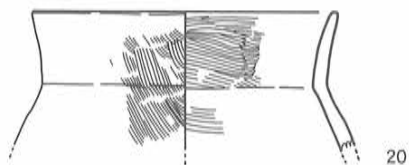
17



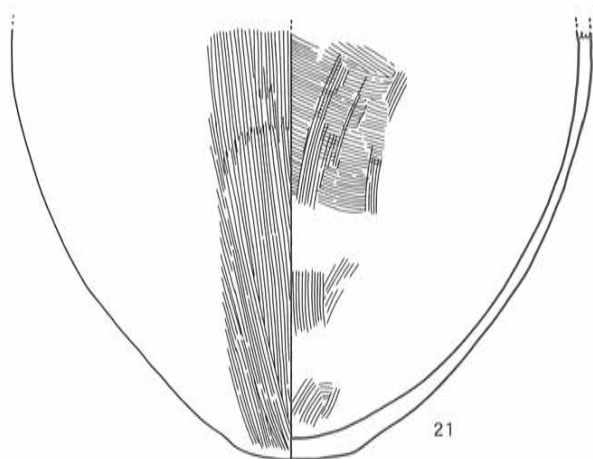
18



19



20



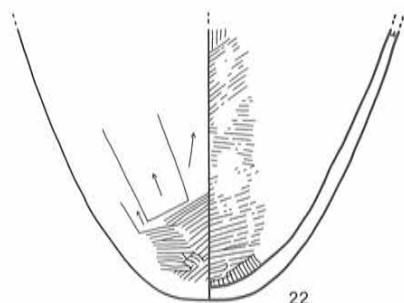
21



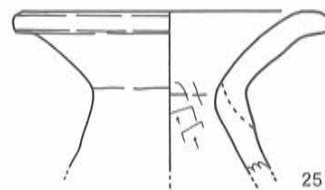
23



24



22

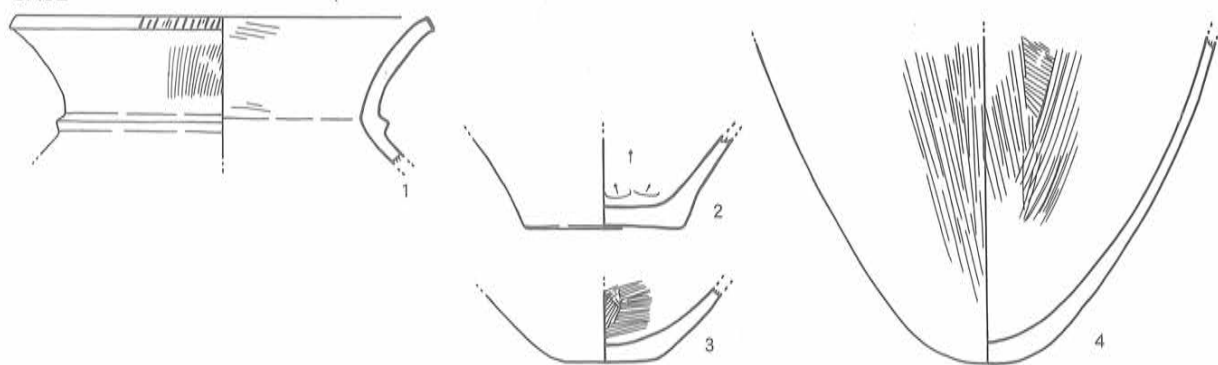


25

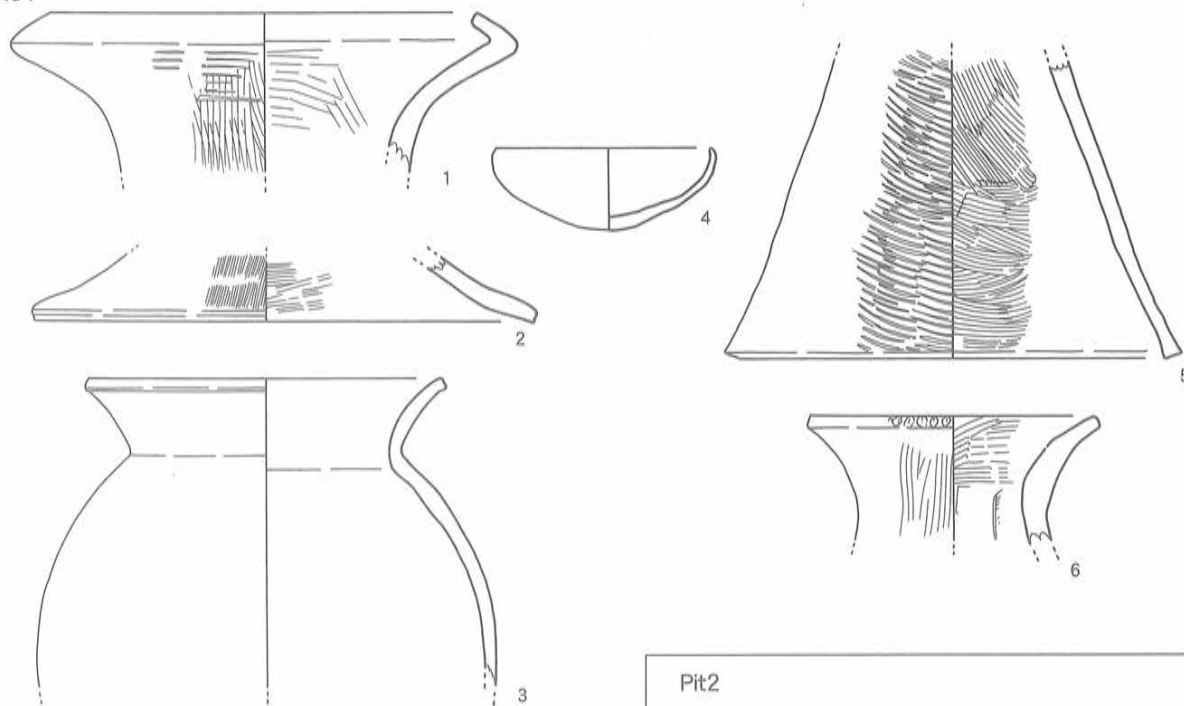


第63図 2次調査2地点 24区 整地層(下層)出土土器実測図〔1/4〕

SK02

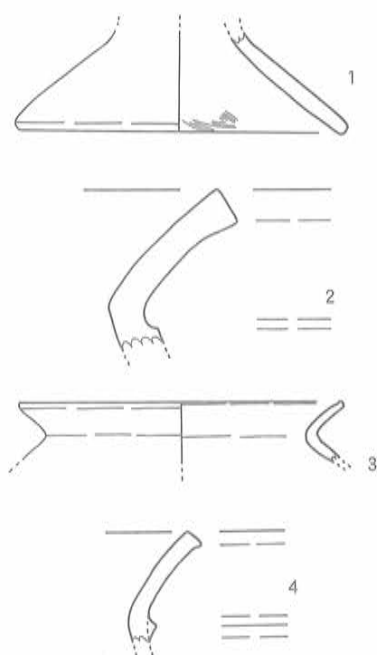


SX01

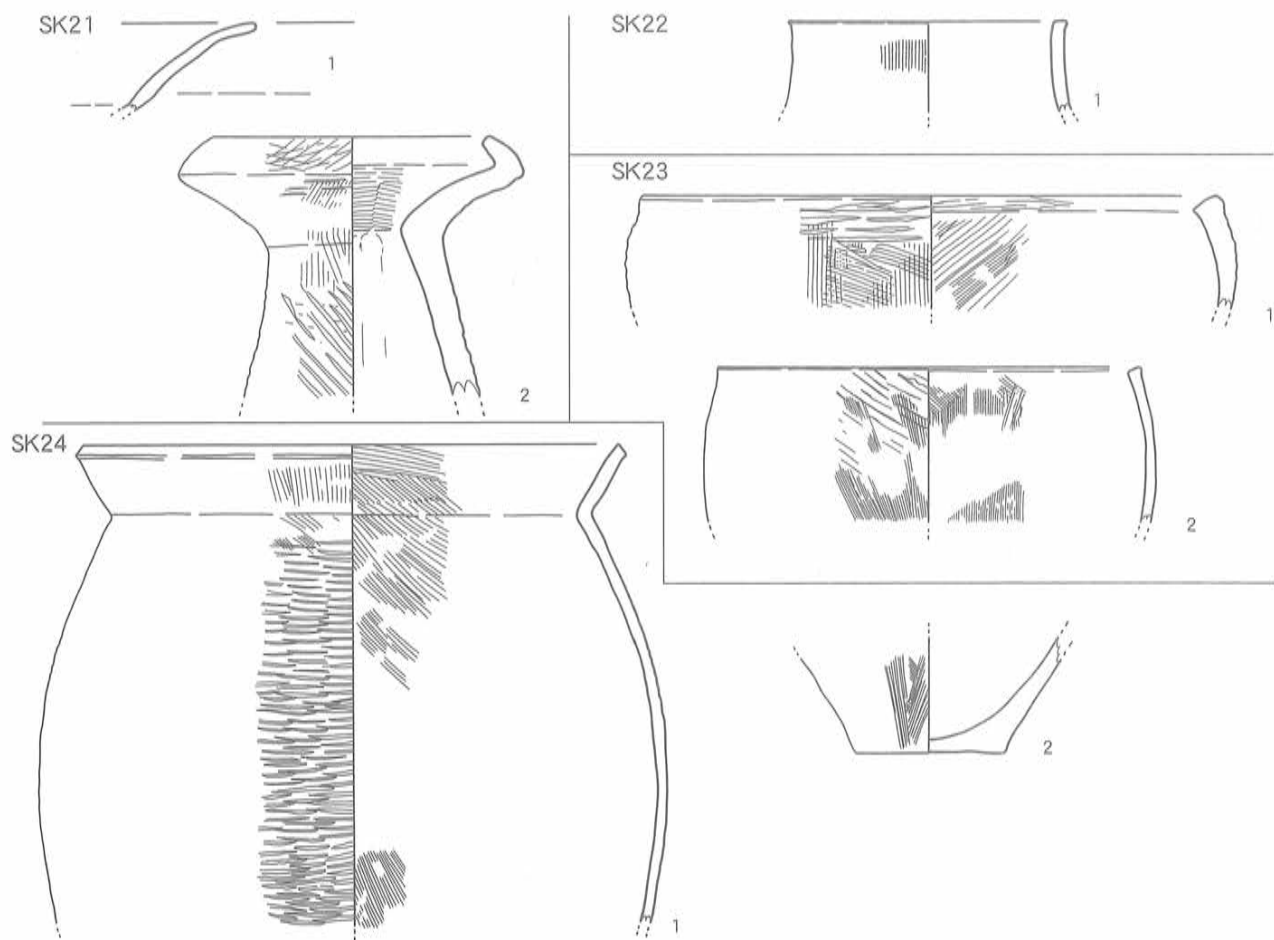


Pit2

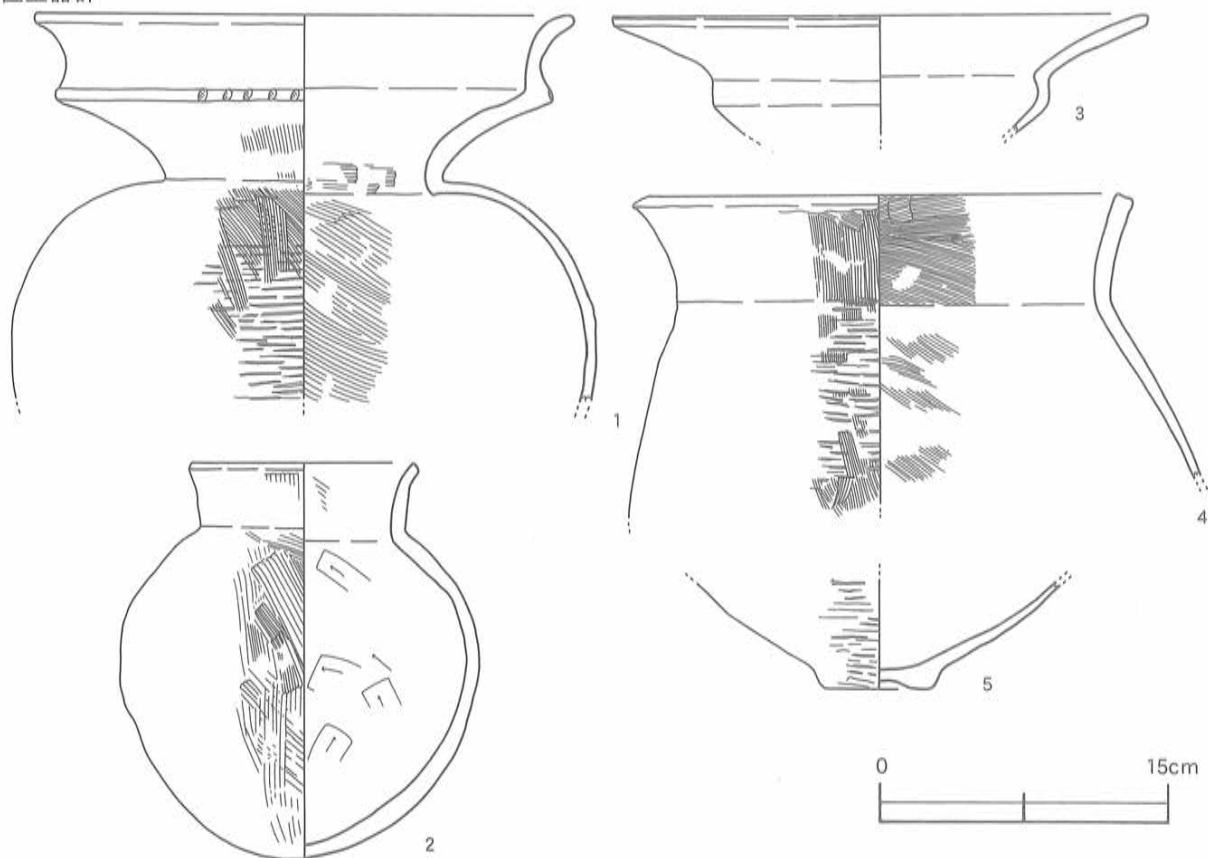
SD01



第64図 2次調査2地点 整地層(上層)2号土壙(SK02)・1号不明遺構(SX01)・1号溝(SD01) Pit出土土器実測図〔1/4〕

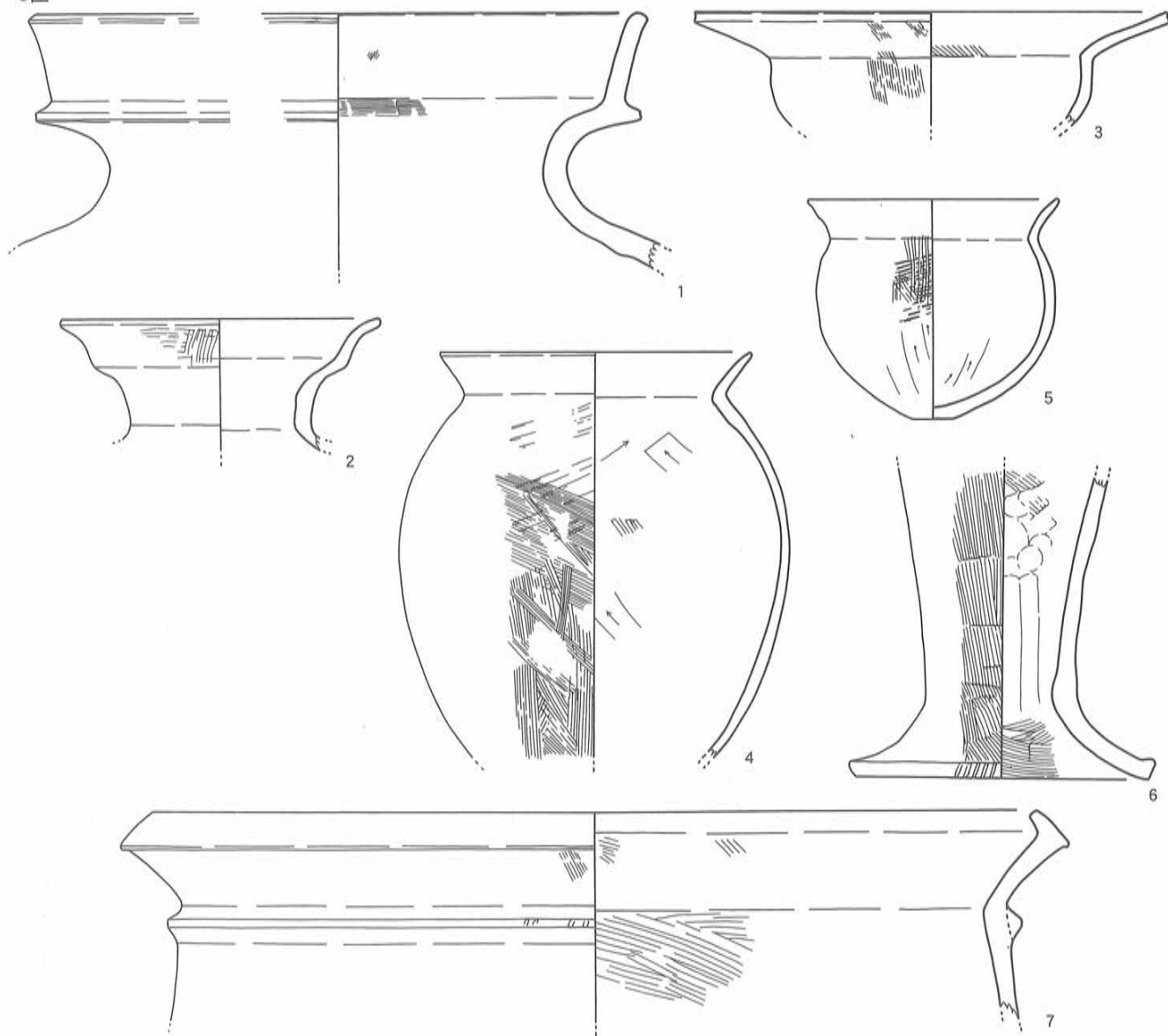


23区土器群

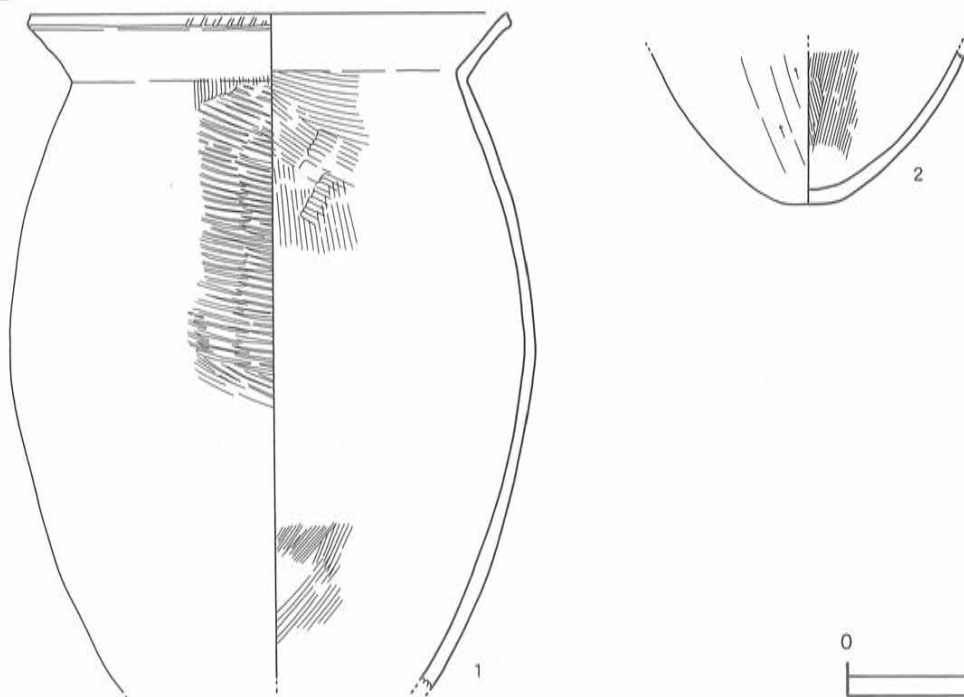


第65図 2次調査2地点 整地層(下層) 21号・22号・23号・24号土坑(SK21・22・23・24)・23区土器群出土土器実測図〔1/4〕

3区

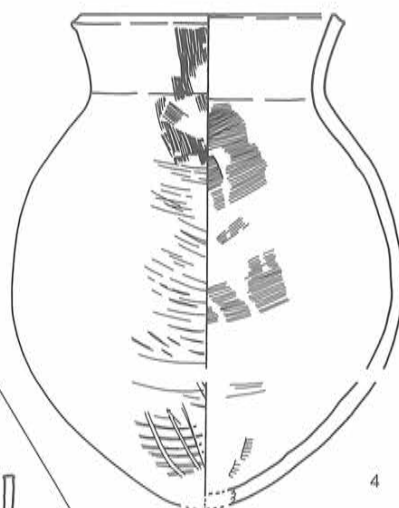
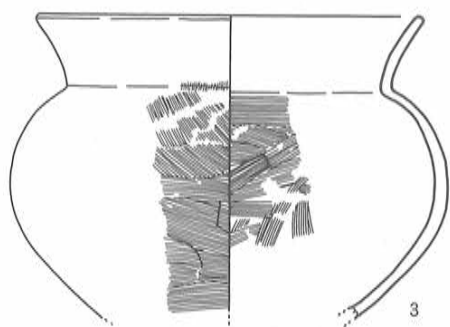


4区

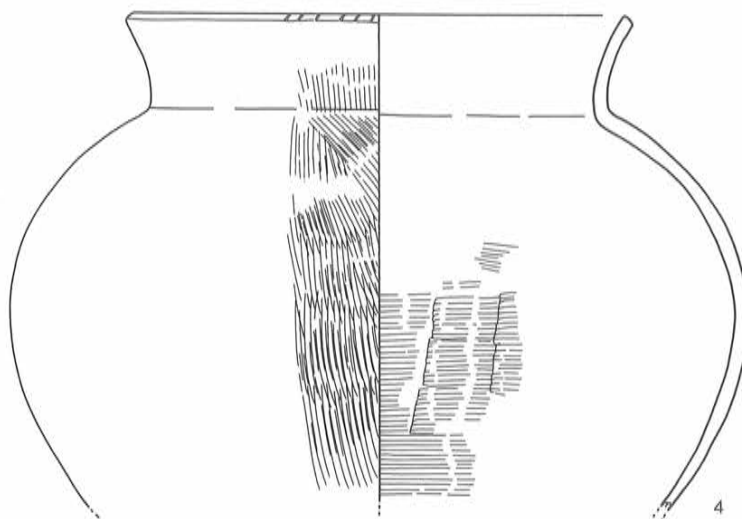
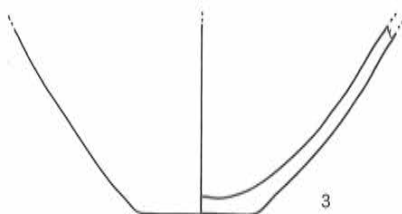
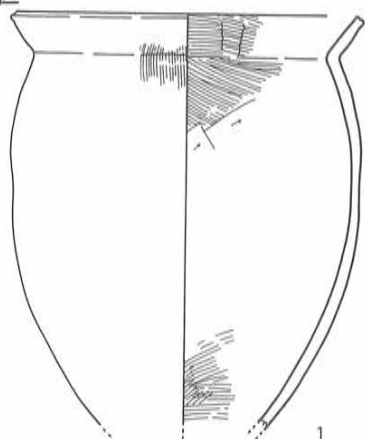


第66図 2次調査2地点 整地層(下層) 3・4区 土器群出土土製品実測図〔1/4〕

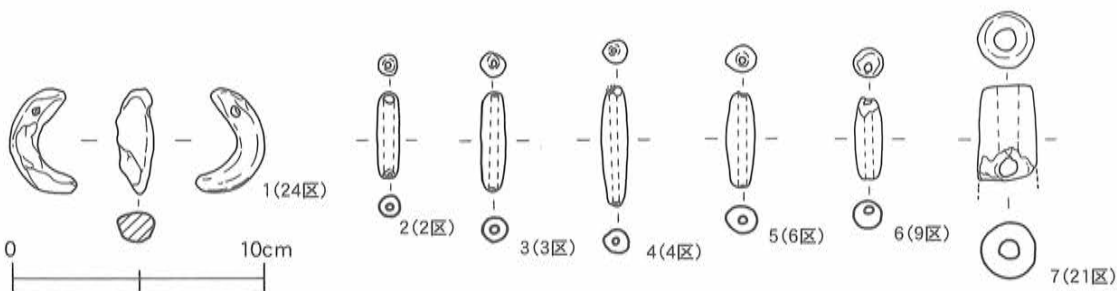
4区



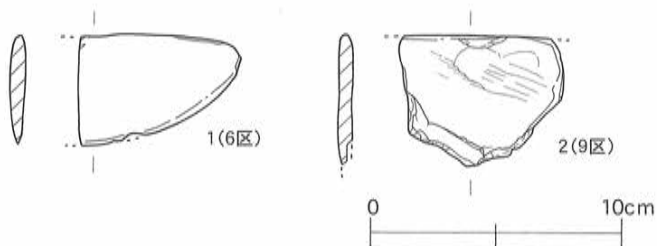
7.8区



第67図 2次調査2地点 整地層(下層) 4・7・8区 土器群出土土器実測図 [1/4]

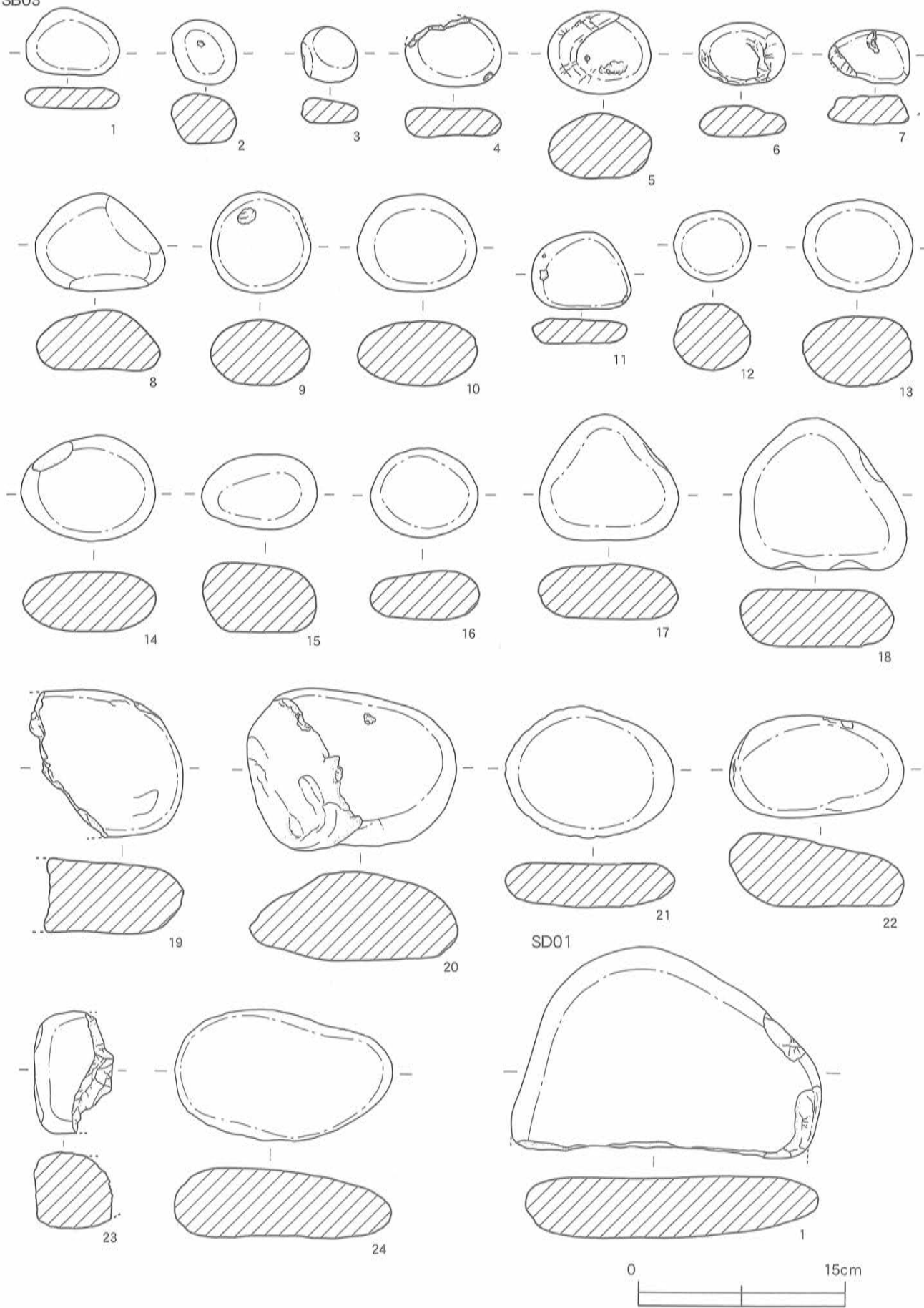


第68図 2次調査2地点 24・2・3・4・6・9・21区 出土土製品実測図 [1/3]

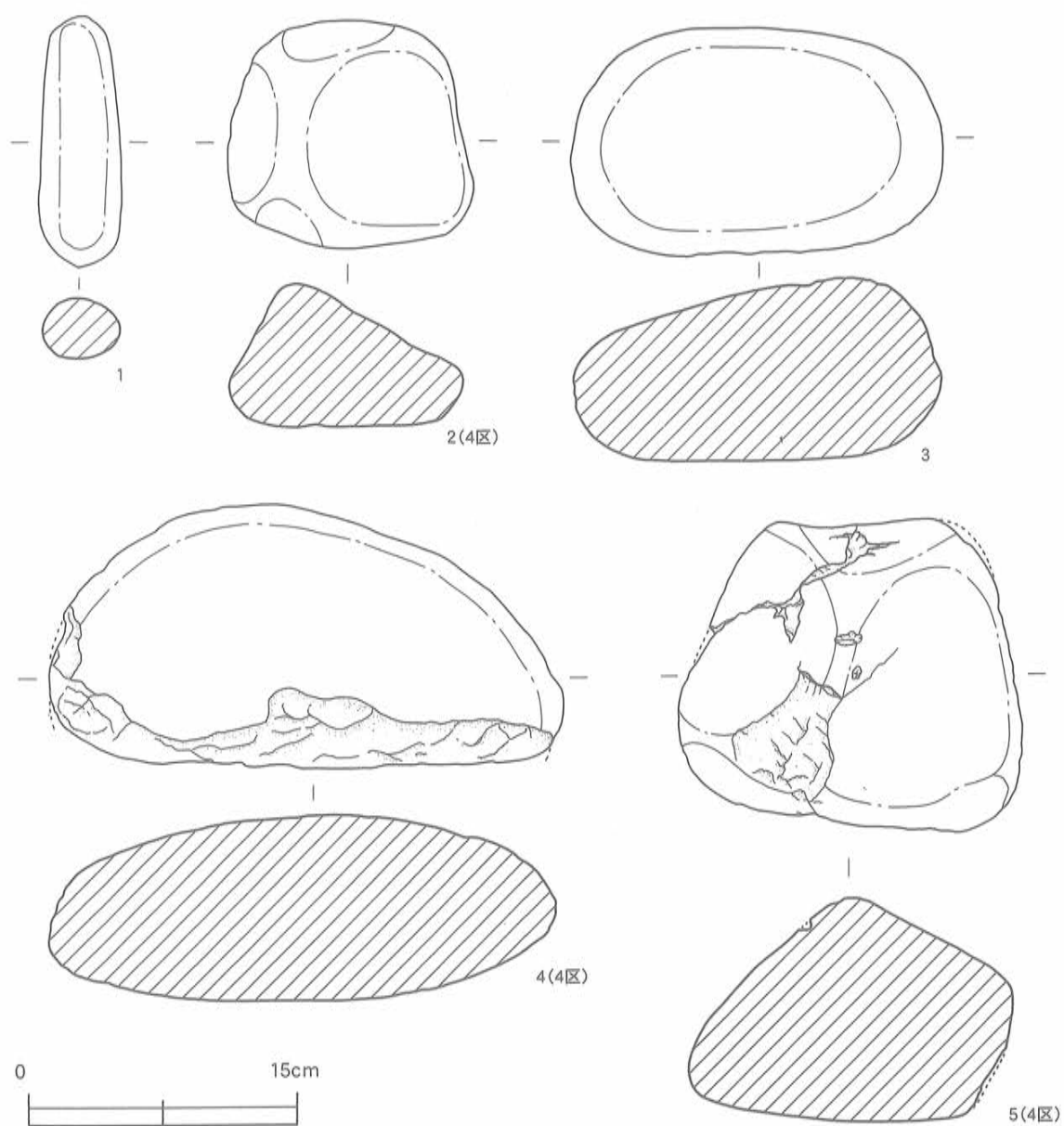


第69図 2次調査2地点 6区整地層(上層) 9区整地層(下層) 出土石器実測図 [1/3]

SB03

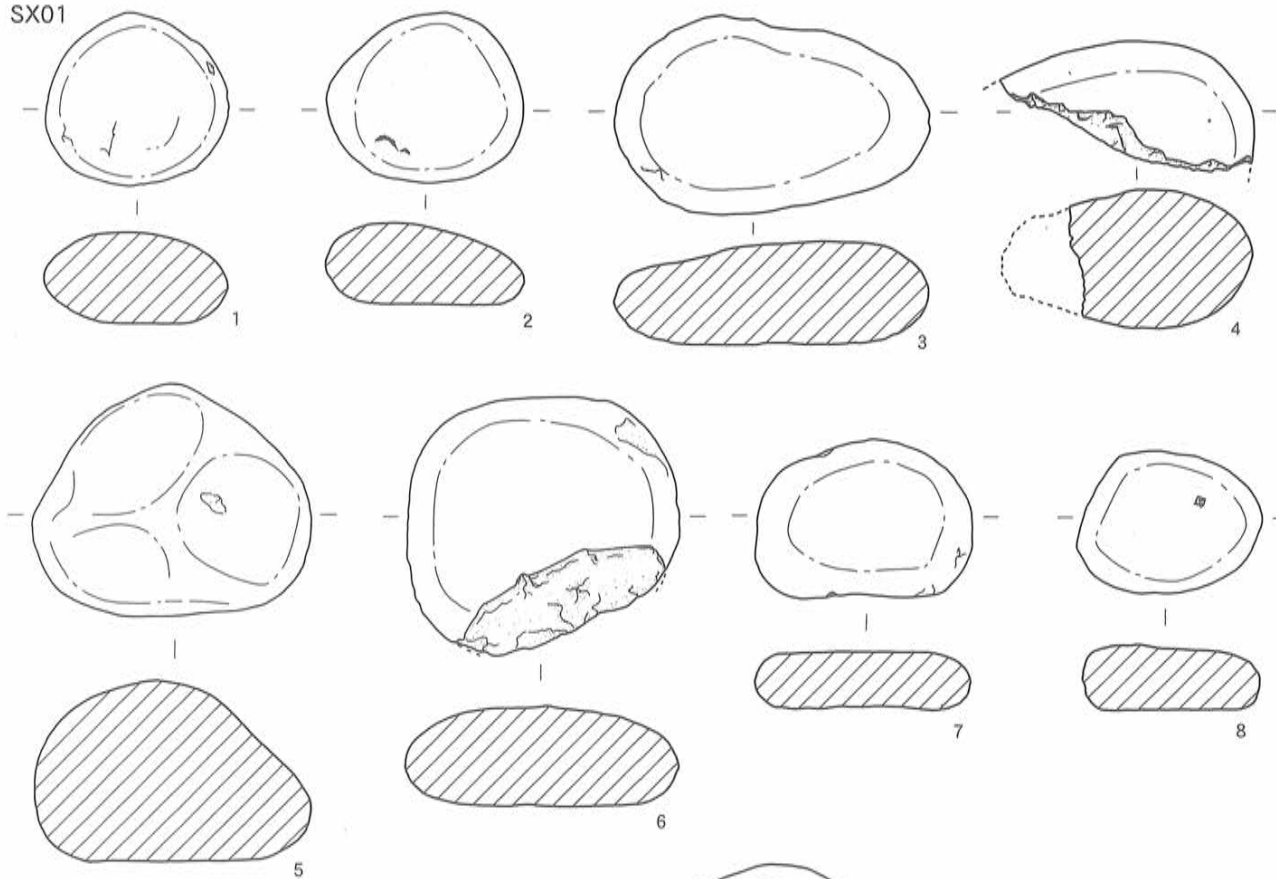


第70図 2次調査2地点 3号竪穴住居 (SB03) 1号溝 (SD01) 出土石製品実測図 [1/4]

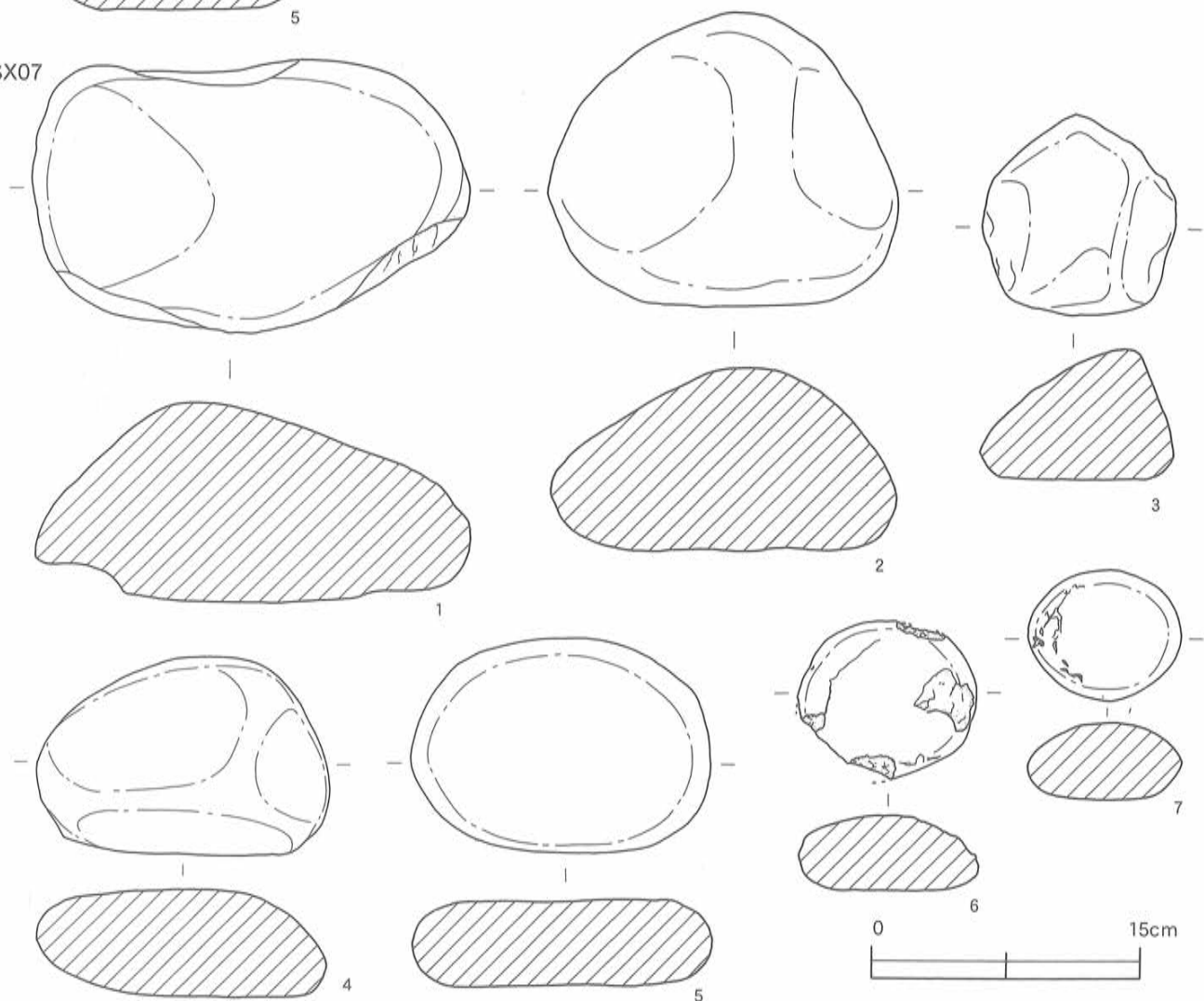


第71図 2次調査2地点 整地層（上層）出土石製品実測図〔1/4〕

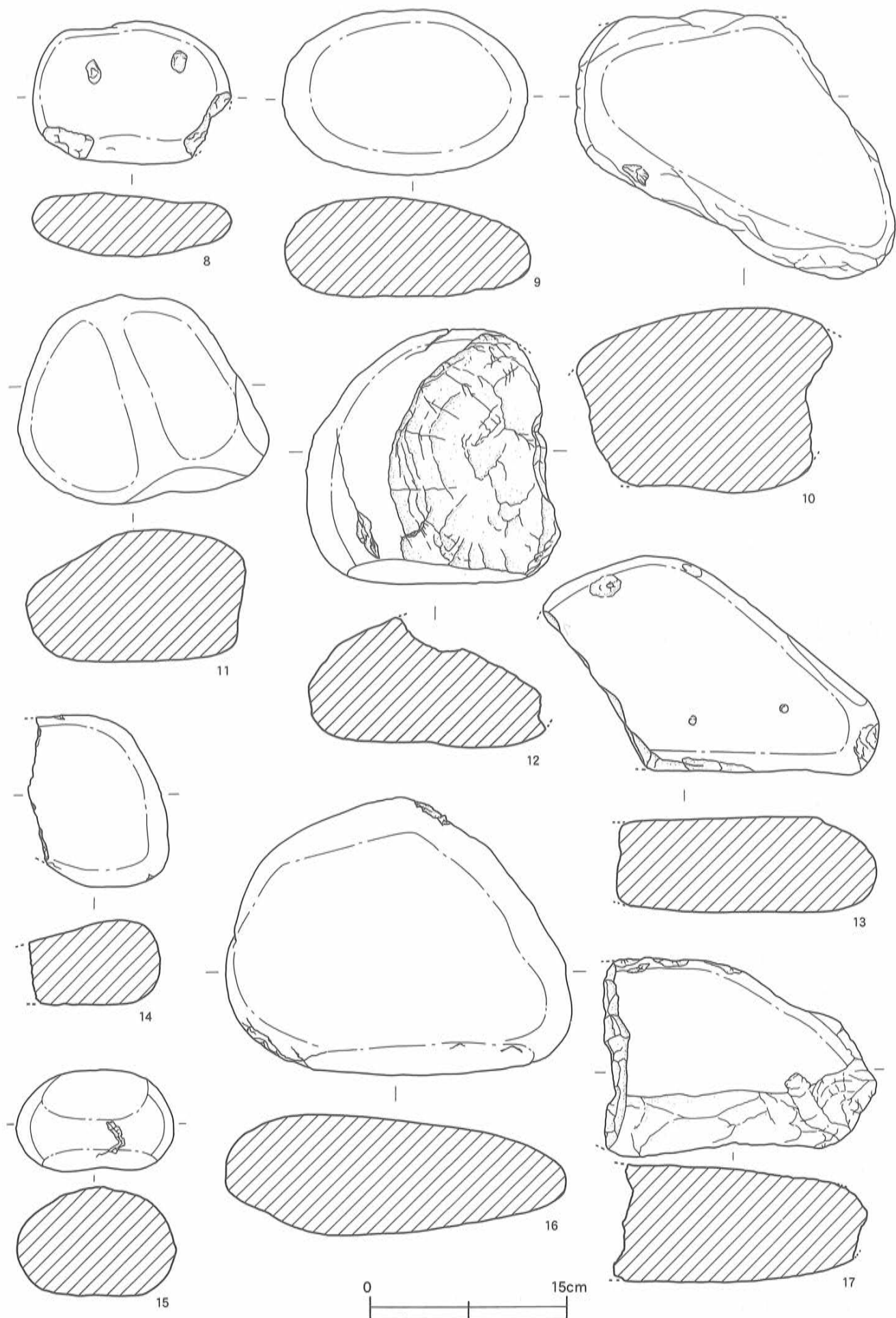
SX01



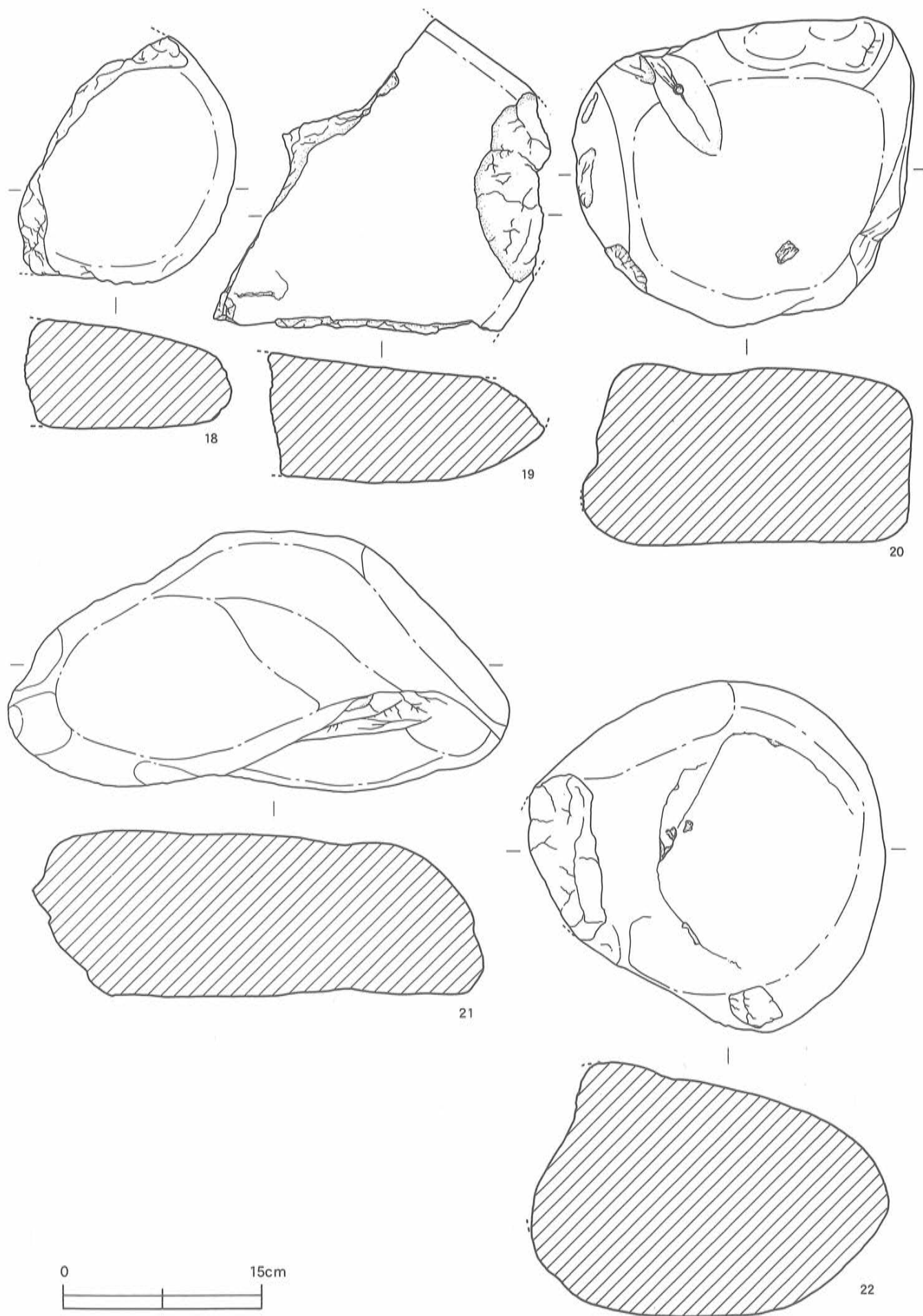
SX07



第72図 2次調査2地点 不明遺構 (SX01、07) 出土石製品実測図 [1/4]



第73図 2次調査2地点 不明遺構 (SX07) 出土石製品実測図 [1/4]



第74図 2次調査2地点 24区 不明遺構 (SX07) 出土石製品実測図 [1/4]

3 第3次調査

(1) 調査の概要

本調査は長さ約40m、幅員約5mの道路拡幅部分を調査対象地としたが、実質的な調査面積は約140m²であり、第2次調査1地点の東隣にあたる。

検出した遺構には、弥生後期の遺構として竪穴住居5軒、土坑4基、大溝1条、小溝1条があり、調査区の西端部は遺構が密集しているが、東端部は疎らである。

(2) 遺構と遺物

a) 竪穴住居

1号住居（第76図、図版35-1）

調査区の西北端に位置し、2号住居を切っている。大半が調査区外に伸展し、東壁長4.92mを確認したに留まる。壁高は南東隅部で0.43mを測る。床面で炉跡・柱穴は検出していないものの埋土下位には炭・焼土の堆積がみられた。埋土中から弥生土器の破片が出土している。

2号住居（第76図、図版35-1）

1号住居に西壁を切られて位置する。東壁長2.82m、壁高0.38mを測る。出土遺物も弥生土器片が出土した程度で、詳細は不明。

3号住居（第76図、図版35-2）

調査区の西側で、住居の南半部を検出した。2号住居の0.4m東側に位置し、4号住居、1号小溝を切っている。平面形は隅丸方形を呈し、南北方向に長軸を取る。南壁長2.36m、壁高0.32mを測る。炉跡・柱穴は検出していないが、南西隅部に長さ1.51m、幅0.72m、壁高6cmのベット状遺構を設けている。また、西壁の北側にある穴は屋内土坑になろう。

4号住居（第76図、図版36-1）

調査区の中央やや西側に位置し、3号住居、1号大溝に切られ、1号小溝を切っている。東西幅4.14m、壁高0.23mを測るが、南北長は1号大溝に南半部を切られるため不明。遺物も埋土中から弥生土器片が出土した程度。

5号住居（第78図、図版36-2）

調査区の南西側に位置し、1号土坑に切られ、3号土坑を切っている。北壁を検出した程度で、詳細は不明。検出長3.1m、壁高0.1mを測る。埋土中から弥生土器片が出土している。

b) 土 坑

1号土 坑（第78図、図版37-1）

調査区の南西隅に位置し、5号住居を切っている。北東部のみの検出で、大半が調査区外にあ

るため詳細は不明。壁高は15cm遺存する。

2号土 坑 (第79図、図版37-2)

調査区の中央北側で検出した。北半部が調査区外に位置するため詳細は明らかでない。検出長0.9m、幅0.78m、深さ0.31mを測る。埋土中から弥生土器片が出土した程度。

3号土 坑 (第78図、図版36-2)

調査区の南東側に位置し、5号住居、1号大溝に切られる。北半部が遺存する程度で、平面形・規模等詳細は不明。東西長2.4m、壁高0.3mを測る。床面から弥生土器甕の底部が出土している。

4号土 坑 (第79図、図版37-3)

調査区の東端側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.45m、短軸0.9m、深さ0.74mを測る。埋土は締まりのない暗茶褐色土で、土坑内には円礫が落ち込んでいた。遺物の出土はなく、埋土の状虚からみて新期の遺構の可能性を有する。

c) 大 溝

1号大 溝

調査区の中央南側に位置し、4号住居、3号土坑を切っている。北半部のみの検出で形態・規模等詳細は不明。検出長12.4m、検出最大幅2.46mで、壁高は0.5mを測る。埋土からは弥生土器片が出土しているが、数量は僅かなものであった。

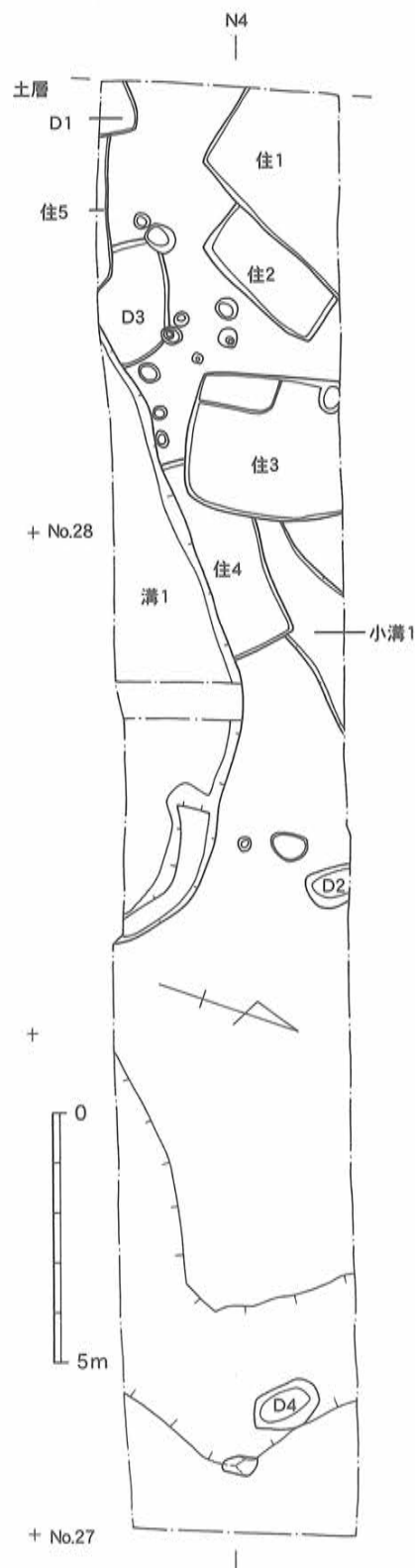
d) 小 溝

1号小 溝

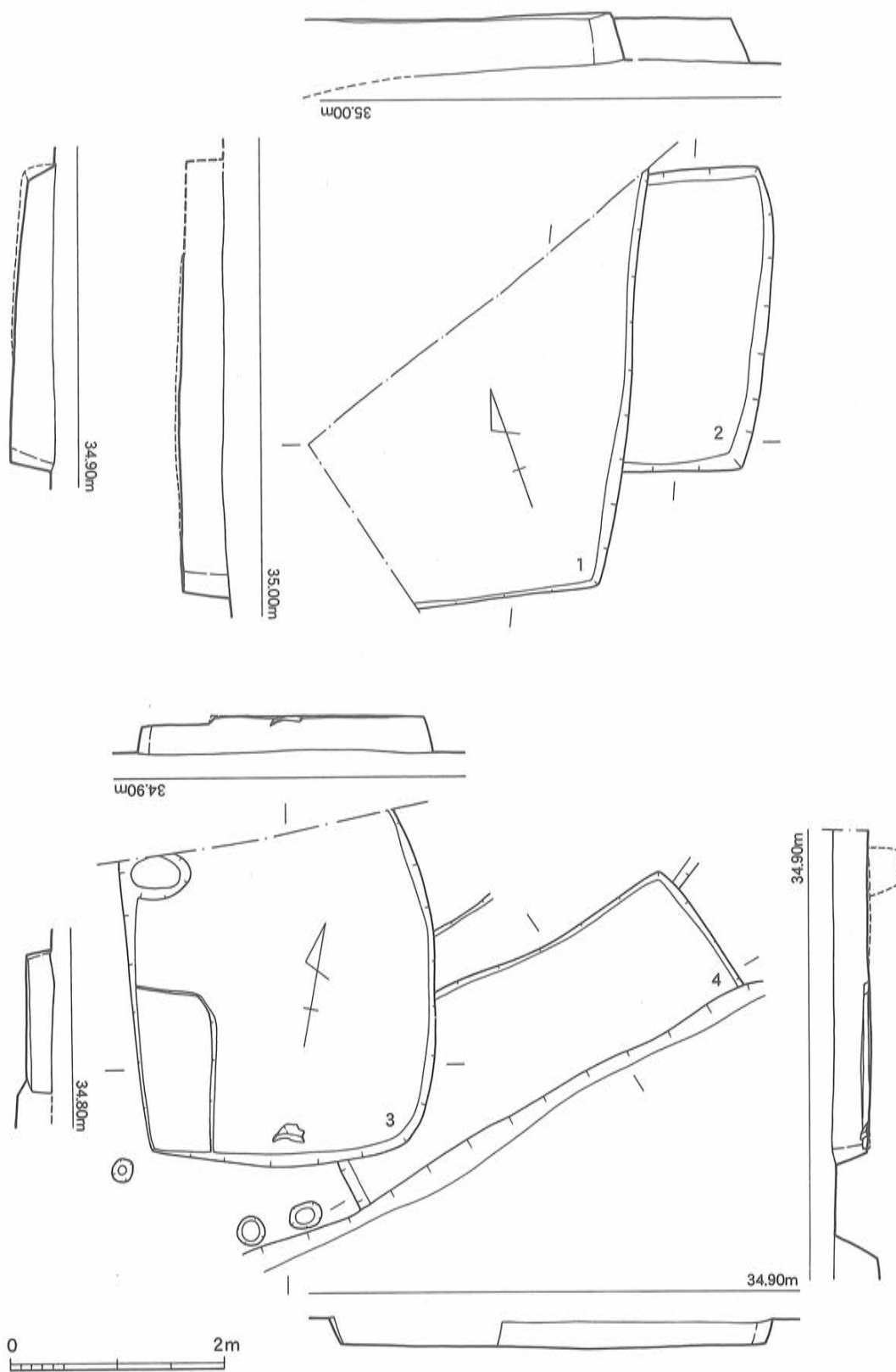
調査区の中央北側に位置し、3・4号住居跡に切られる。北東側は調査区外に伸展するが、南西側は3号住居以西には伸びない。検出長4.7m、最大幅1.46m、壁高0.2mを測る。埋土中から弥生土器片が出土している。

(3) 小 結

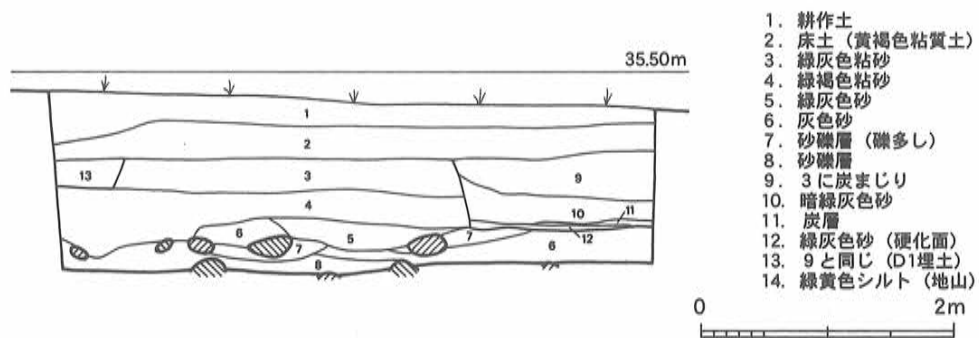
検出した遺構には、弥生後期の遺構として竪穴住居5軒、土坑4基、大溝1条、小溝1条があり、調査区の西側は遺構が密集しているが、東側は疎らである。また、地形的にも一段下がっていることから集落の東縁と考えられる。(小田)



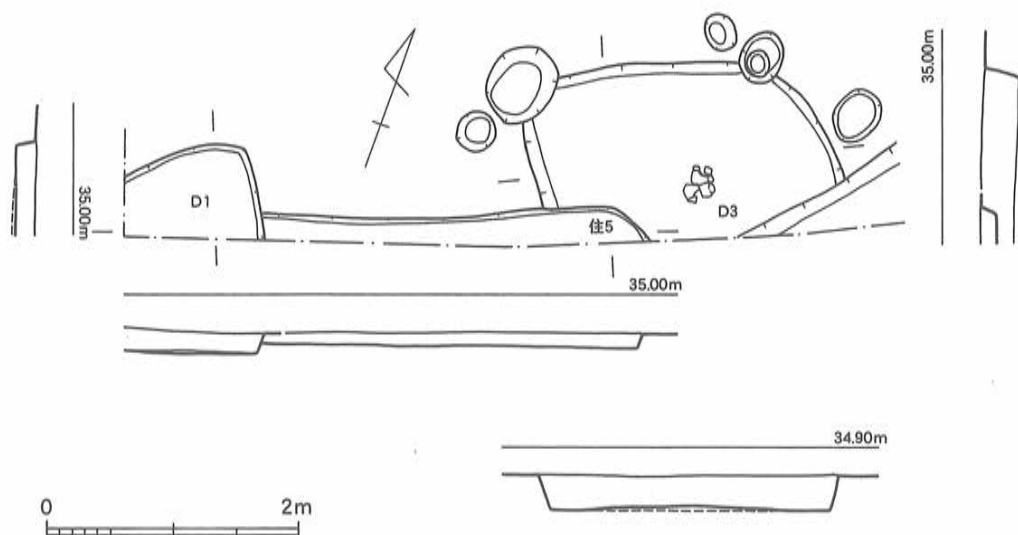
第75図 津江八升町遺跡
第3次調査 遺構配置図 [1/150]



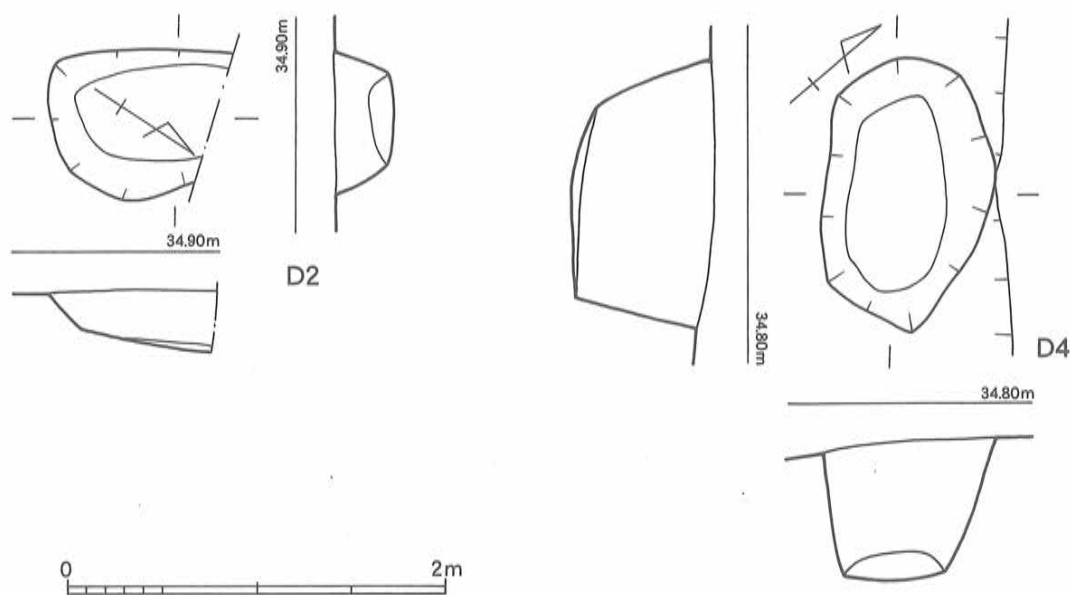
第76図 1～4号竪穴住居実測図〔1/60〕



第77図 第3次調査区西壁土層図 [1/60]



第78図 5号竪穴住居、1・3号土坑実測図 [1/60]



第79図 2・4号土坑実測図 [1/40]

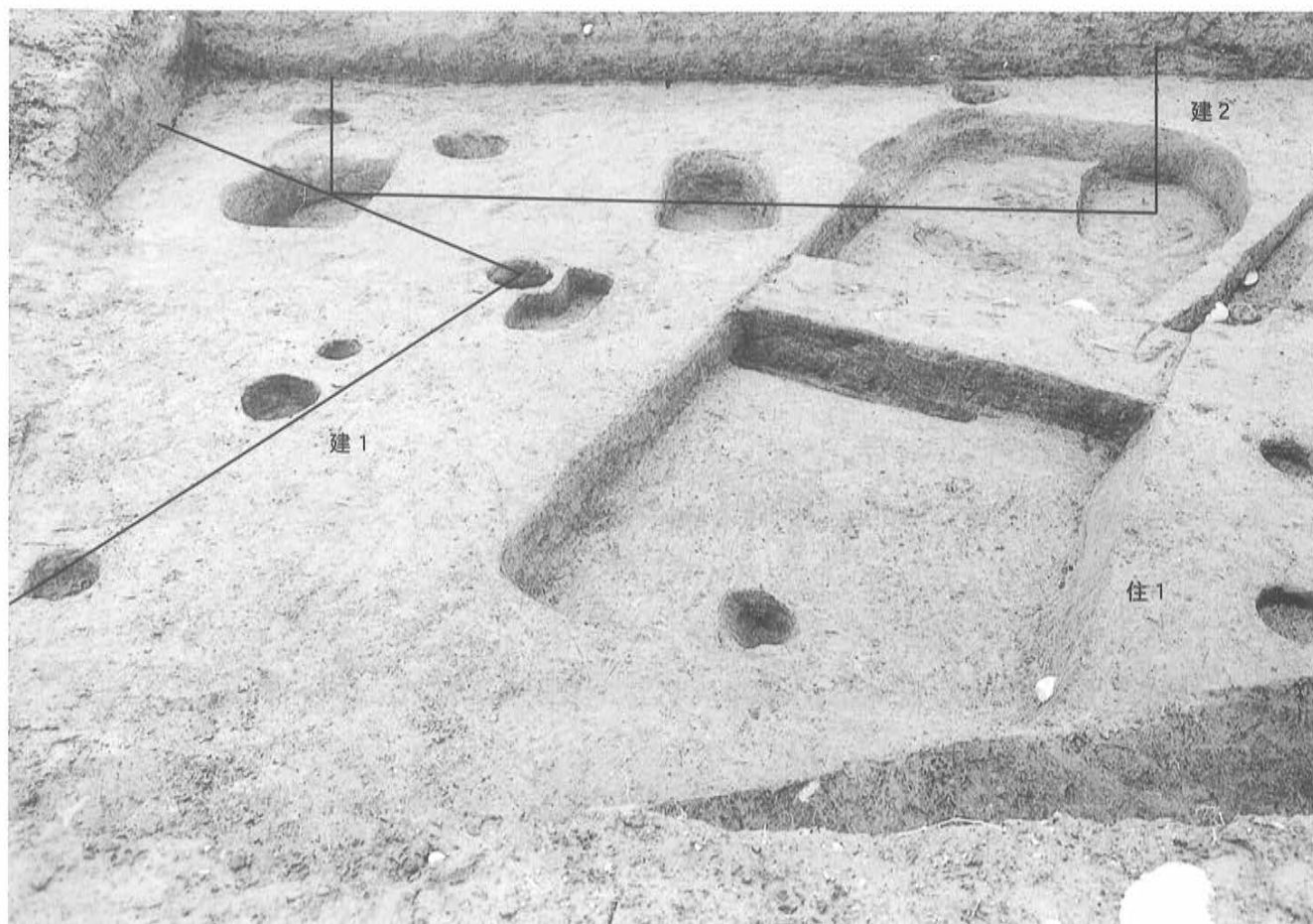
圖 版



津江八升町遺跡第1次調査区全景（気球写真、西上空から）



(1) 1次調査区全景 (西から)



(2) 1号住居、1・2号掘立柱建物 (南から)

(1)



(2)



(3)



(1) 2号住居（北から）

(2) 3号住居（北から）

(3) 5号住居（北から）

(1)



(2)



(3)



(1) 3号土坑 (南から)

(2) 4号土坑 (南東から)

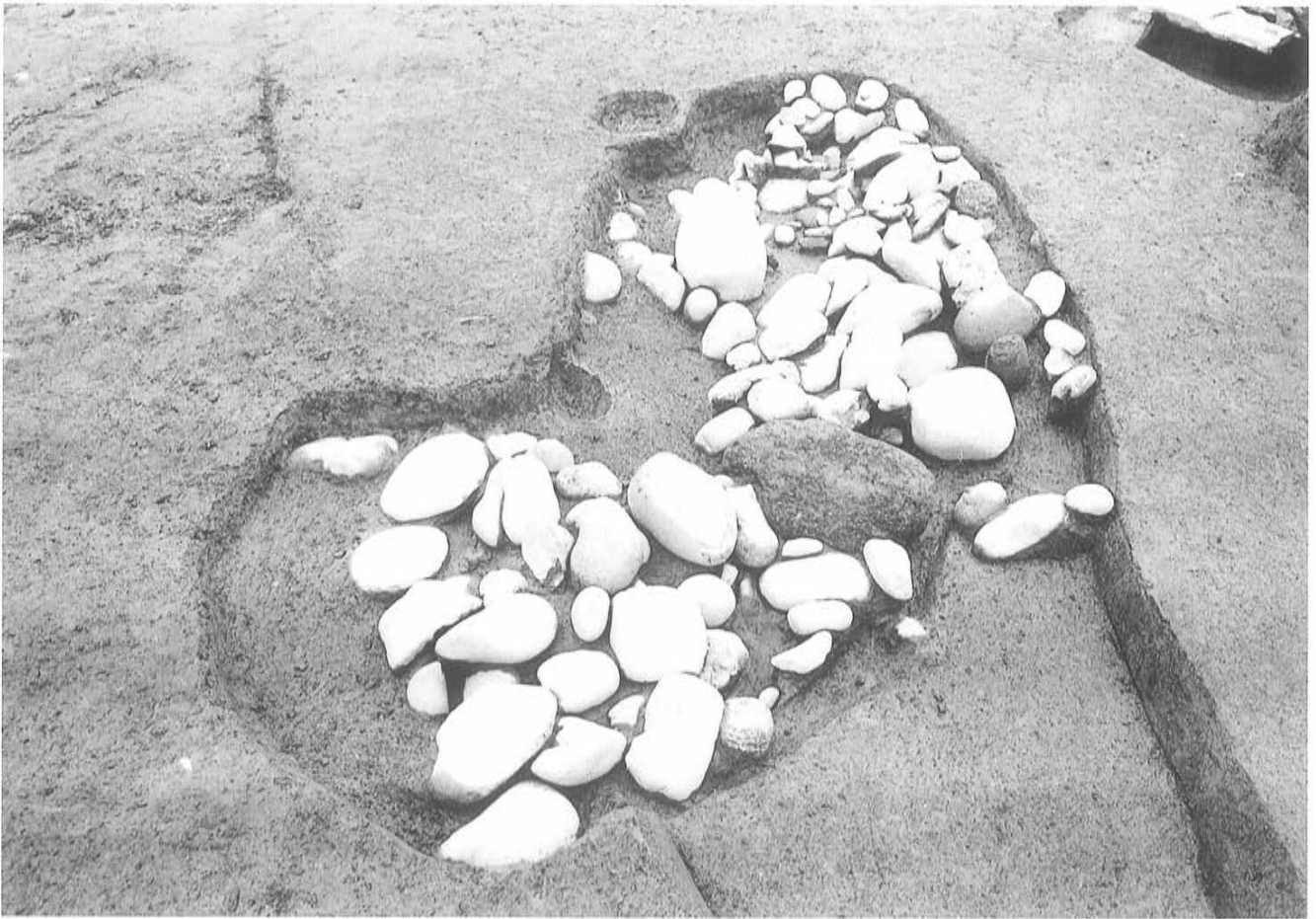
(3) 5号土坑 (南東から)



(1) 6号土坑（北から）



(2) 7号土坑（北から）



(1) 1号集石 (東から)



(2) 1号石棺墓 (南西から)



(1) 1号大溝Ⅰ区土層（西から）



(2) 1号大溝Ⅲ区土層（東から）

(1)



(2)



(3)



(1) 2号大溝土層 (南から)

(2) 3号大溝土層 (南から)

(3) 4号大溝土層 (南から)



(1)



(2)

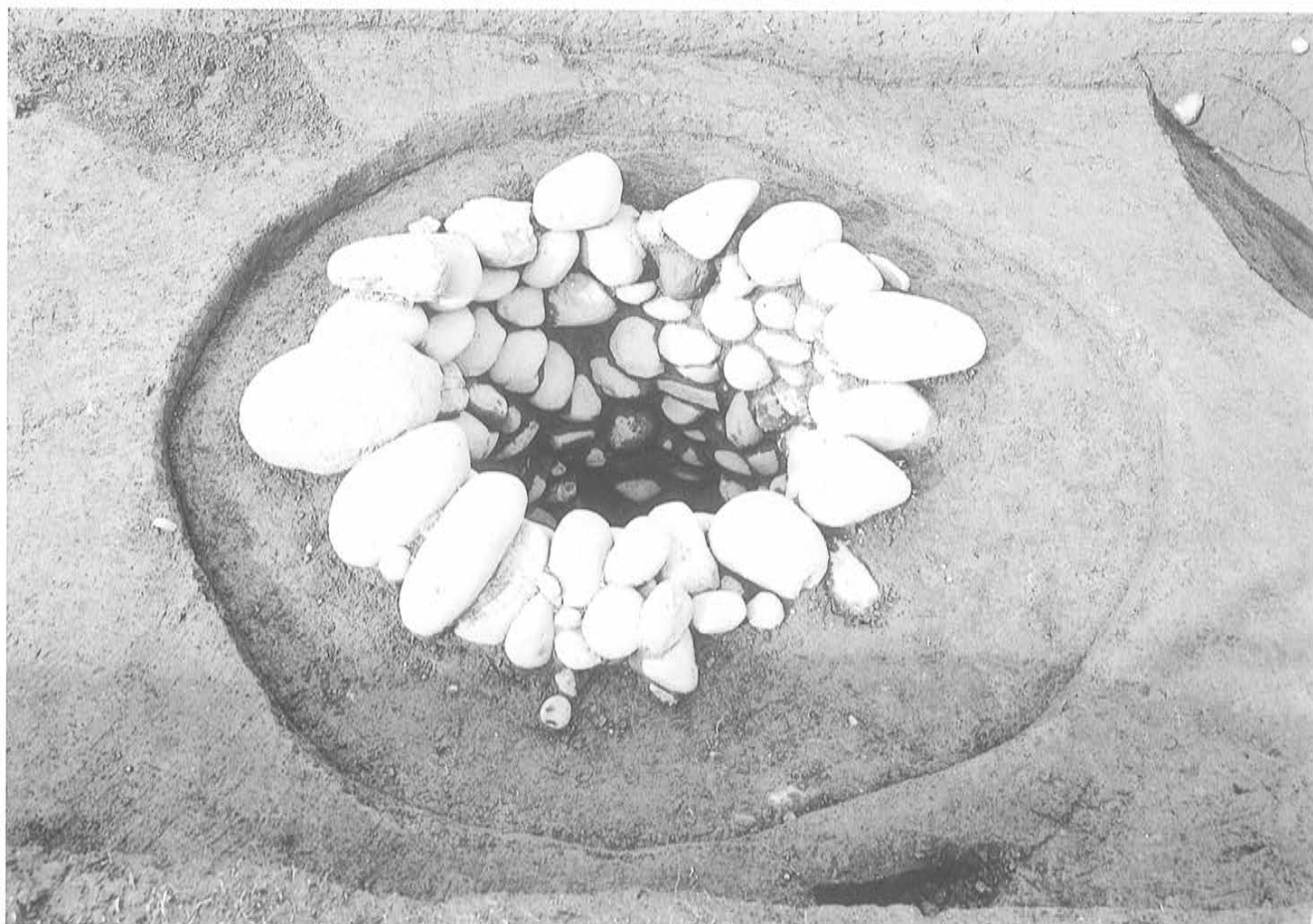


(3)

(1) 4号大溝 (南から)

(2) 4号大溝遺物出土状況 (西から)

(3) 3号小溝土層 (南から)



(1) 1号井戸 (南から)



(2) 石積状況 (東から)



(1) 津江八升町遺跡 2次調査 1地点 全景 (西上空より)



(2) 津江八升町遺跡 2次調査 1地点 全景 (東上空より)



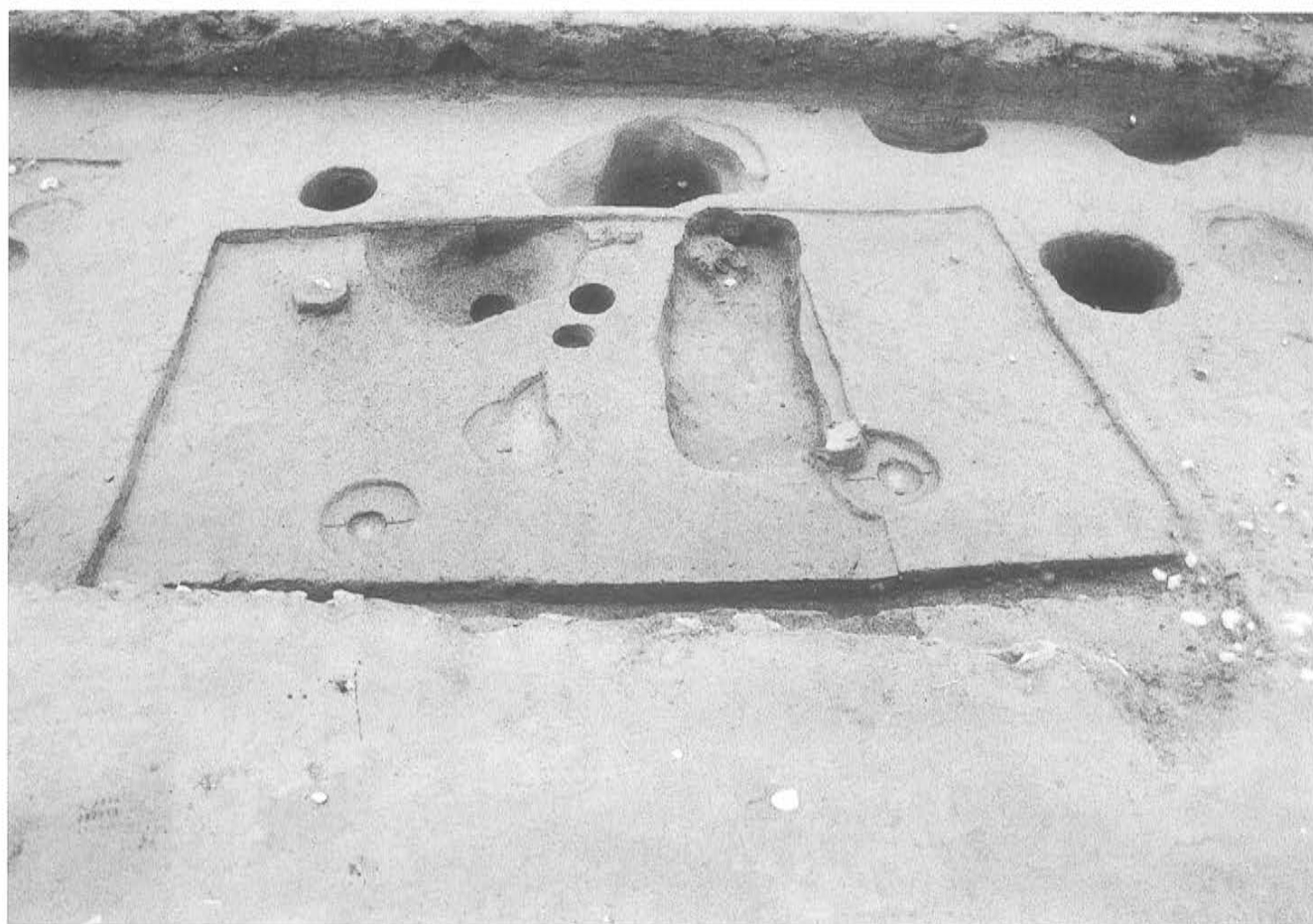
(1) 津江八升町遺跡 2次調査 1地点 調査前風景 (東より)



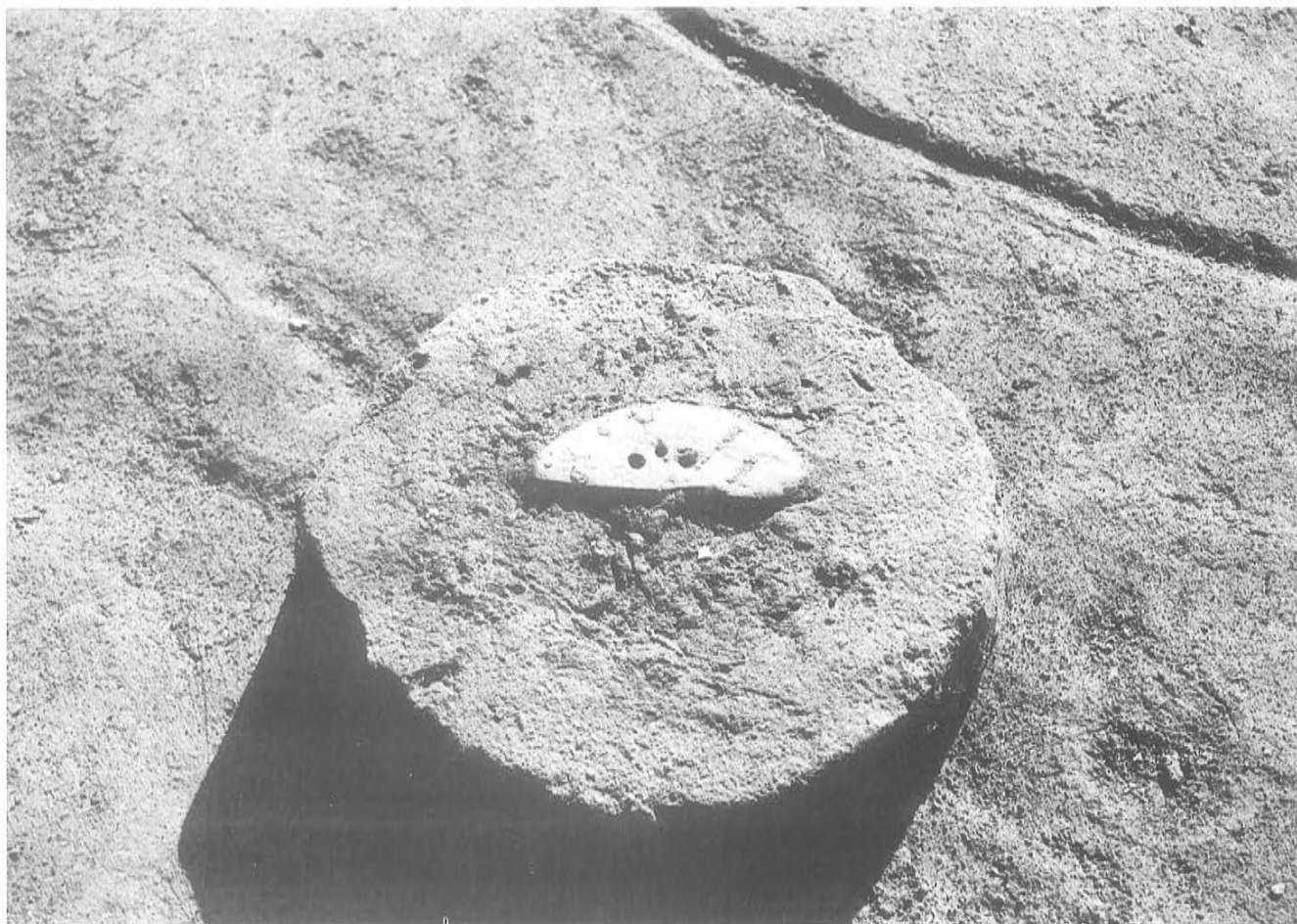
(2) 津江八升町遺跡 2次調査 1地点 全景 (東より)



(1) 2号住居 (SB02) 生活面 (南より)



(2) 3号住居 (SB03) 生活面 (北より)



(1) 3号住居 (SB03) 石包丁出土状況



(2) 4号住居 (SB04) (南より)



(1) 7号住居 (SB07) 完堀 (北より)



(2) 8号、9号、10号、11号、12号住居 (SB08、09、10、11、12) 1号溝 (SD01) (西より)



(1) 13号住居 (SB13) (西より)



(2) 14号掘立柱建物 (SB14) (北より)



(1) 1号溝 (SD01) (東より)



(2) 1号溝 (SD01) 出土鉄 (NO.7) 刀子



(1) 津江八升町遺跡2次調査2地点 全景 (西上空より)



(2) 津江八升町遺跡2次調査2地点 全景 (東上空より)



(1) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 調査前風景 (東より)



(2) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 遺構検出状況 (東より)



(1) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 上層遺構検出状況 (東より)



(2) 津江八升町遺跡 2 次調査 2 地点 全景 (西より)



(1) 1号住居 (SB01) (東より)



(2) 2号住居 (SB02) (東より)



(1) 3号住居 (SB03) (南より)



(2) 1号土坑 (SK01) (北より)

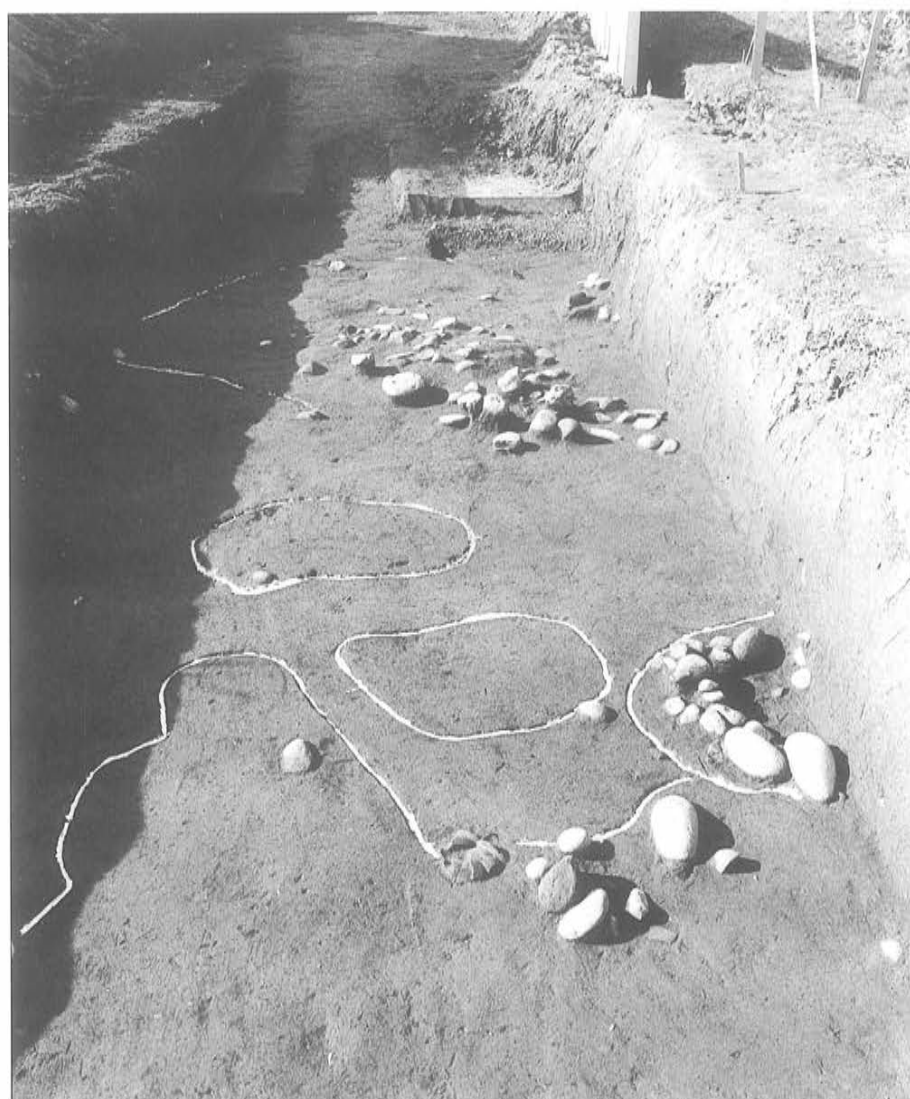
(1)

2号土壇(SK02)(北より)



(2)

整地層
上層

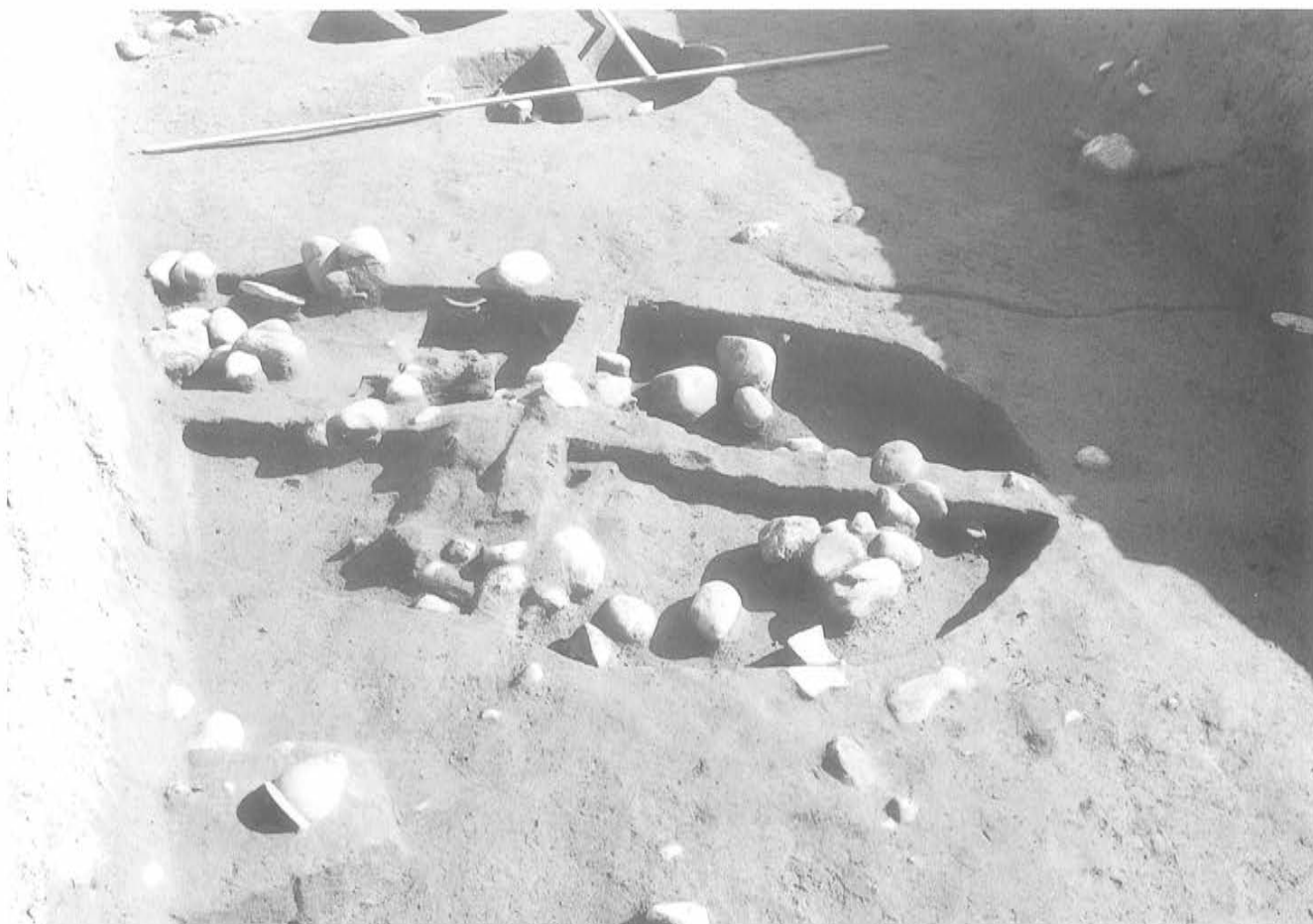




(1) 3号・4号土坑 (SK03・04) ・不明遺構 (SX01・02) (東より)



(2) 5号土坑 (SK05) (北より)



(1) 不明遺構 (SX01) (西より)



(2) 不明遺構 (SX05) (北より)



(1)
整地層下層
17区〜25区(東より)



(2)
整地層下層
17区〜25区(西より)



(1)
整地層下層 1区〜10区(西より)



(2)
整地層下層 1区〜10区(東より)



(1) 4号住居 (SB04) と下層土器群 (東より)



(2) 1号溝 (SD01) (西より)



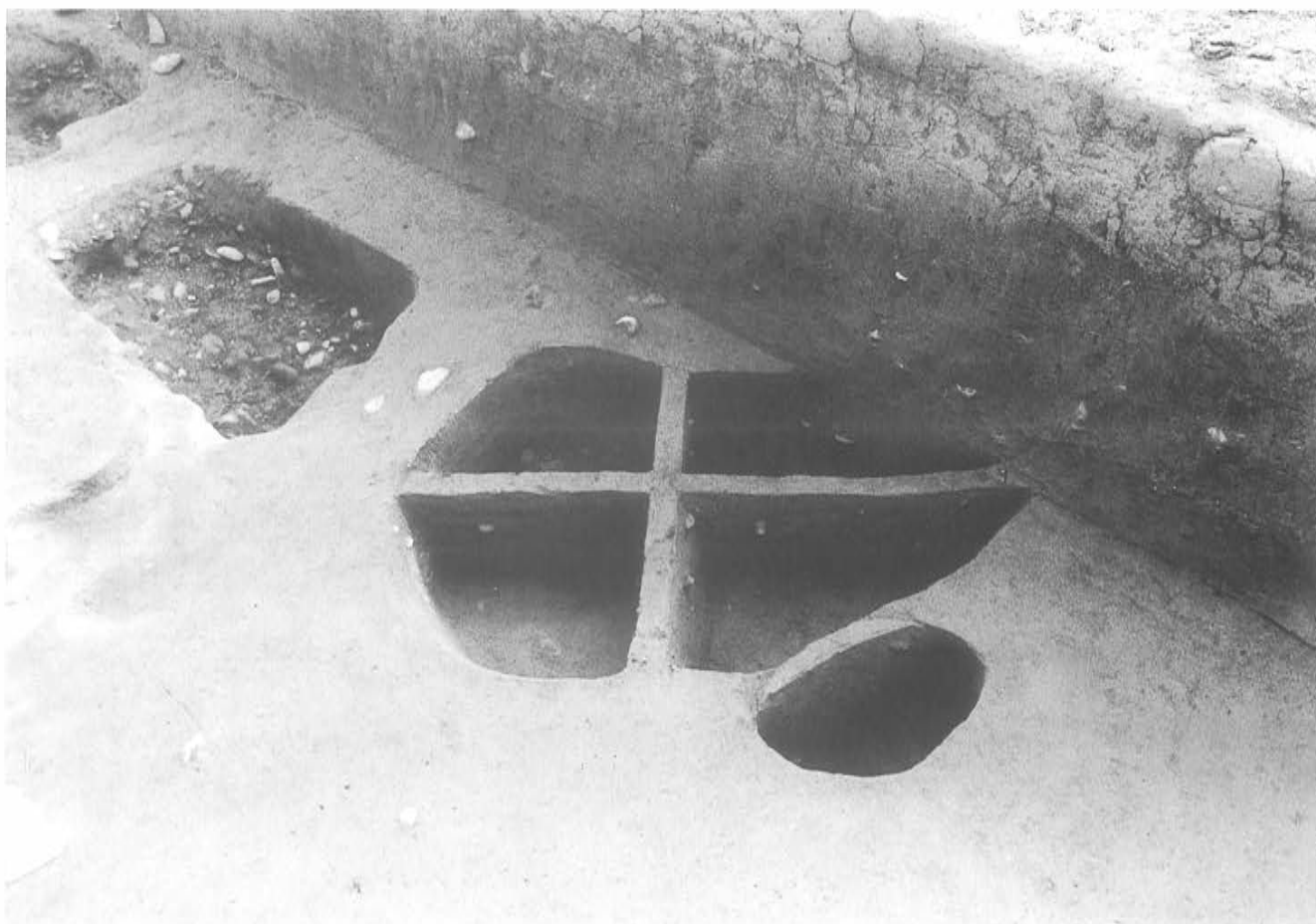
(1) 1号溝 (SD01) (西より)



(2) 16区 南壁土層



(1) 20号土坑 (SK20) (南より)



(2) 21号土坑 (SK21) (西より)



(1) 22号土壙 (SK22) (北より)



(2) 23号土壙 (SK23) (北より)



(1) 24号土坑 (SK24) (北より)



(2) 下層土器群 No.3、4、5、6 (東より)



(1) 北側土層



(2) 南側土層



(1) 津江八升町遺跡 3 次調査全景 (西から)



(2) 津江八升町遺跡 3 次調査全景 (東から)



(1) 1・2号住居（北東から）



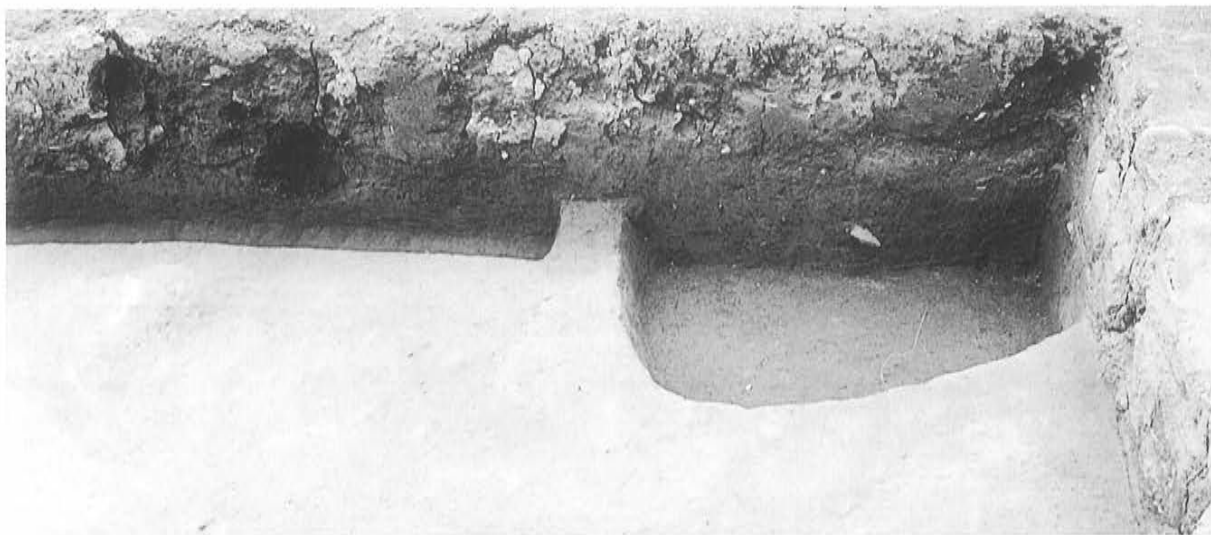
(2) 3号住居（北から）



(1) 4号住居、1・2号溝（北から）



(2) 5号住居、3号土坑（北から）



(1)



(2)



(3)

(1) 1号土坑 (北から)

(2) 2号土坑 (北から)

(3) 4号土坑 (南東から)

報告書抄録

ふりがな	つのはちしょうまちいせき							
書名	津江八升町遺跡（1次・2次・3次調査）							
福書名	福岡県八女市大字津江字八升町所在遺跡の調査報告							
巻次	第1分冊							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第67集							
編著者名	小田 和利 赤崎 敏男							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市大字本町647 TEL 0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2002年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査面積
つのはちしょうまち 津江八升遺跡 1次調査	ふくおかけん 福岡県 やめし つのはちしょうまち 八女市大字津江 字八升町	402109		33 12 35	130 35 00	1997 11 21 ～1998 01 09	450㎡	道路改良工事
2次調査						1999 10 07 ～2000 03 27	1,100㎡	
3次調査						2000 08 ～2000 09	200㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
津江八升町 遺跡 1次調査	集落跡	弥生後期 中世	竪穴住居 掘立柱建物 土壇・溝・石棺墓 井戸		弥生土器 青磁・土師片			
2次調査	集落跡	弥生後期	竪穴住居 掘立柱建物 土壇・溝		弥生土器・鉄 石器・土製品		ベッド付設	
3次調査	集落跡	弥生後期	竪穴住居 土壇・溝		弥生土器片		ベッド付設	

津江八升町遺跡
(1・2・3次調査)
八女市文化財調査報告書
第67集

平成14年3月29日

発行 八女市教育委員会
八女市大字本町647
印刷 (資)東兄弟印刷所
八女市祈祷院563